県立高等学校再編振興計画
次期計画について（案）

きらっと いきいき あったかい
高知家の教育

令和６年12月25日

高知県教育委員会

第４回教育委員会協議会（令和６年12月25日）における検討項目等

1 【報告】「これからの県立高等学校の在り方に関する報告」の概要について 〔資料P３～４〕

2 【報告】 市町村との意見交換について 〔資料P５～８〕

3 【協議】 次期計画について 〔資料P９～27〕（P18～27は、区分別資料）
＜区分Ａ＞高知市・南国市の学校
＜区分Ｂ＞地域の拠点校
＜区分Ｃ＞中山間地域等の小規模校
＜区分Ｄ＞産業系の専門高校
＜区分Ｅ＞定時制・通信制の学校

4 【協議】 前期実施計画について 〔資料P28〕

5 【協議】 次期計画の名称について 〔資料P29〕

※ 資料P30以降は、参考資料 （P49以降は、学校別資料）

「これからの県立高等学校の在り方に関する報告」（令和６年10月 県立高等学校の在り方検討委員会）の概要①

■ 各高等学校は、子どもたちの視点に立ち、生徒・保護者が行きたい、行かせたい学校となるため、魅力化・特色化に取り組むべきである
■ 学校の魅力化・特色化のためには、各高等学校が、市町村、小中学校、大学、企業、関係機関等とつながり、連携・協働を進めることが重要である

◆ 共通

1　高等学校の適正規模・最低規模について

○学校の適正規模は県内一律で考えるのではなく、子どもたちの学びのニーズや地域ごとの状況に応じた規模にしていくべきである。
○生徒の社会性を育成することや協働的な学びを実現するためには、一定の生徒数が必要である。
中山間地域の学校等においても、以下のような生徒数の目安を設定し、地域と一体となって生徒数確保に取り組む必要がある。
＜小規模校（中山間地域の学校等）の生徒数の目安＞
・本校：１学年１学級20人以上
・分校：１学年１学級10人以上
・定時制夜間部：学校全体の生徒数20人以上
○目安とする生徒数が維持できない場合は、今後の高等学校の在り方について地域や市町村と協議する必要がある。
○定時制については、ICTを活用したサテライト校化など教育機会の確保を行ったうえで、再編についても検討していくべきである。

2　学校の魅力化・特色化に向けて

○教員が魅力ある授業を行うことが最も大切である。
教員がやりがいを持ち、楽しくいきいきと教育に携わることや教員の指導力向上が必要である。
○高等学校と市町村や小中学校、地域等との協働体制が重要であり、関係機関等とつながりをもちながら魅力化・特色化に取り組む必要がある。
○進学後の高校生活をイメージできることが進学意欲につながることもあるため、高等学校は特色を明確に打ち出し、充実した広報活動を行うべきである。
○地域外や県外生徒の受入れ体制をより充実させ、全国からの生徒募集を進める必要がある。
○子どもたちの多様な学習ニーズに柔軟に対応した新たな学びができる学校が必要である。
○ICTを活用し、他校や大学、地域等とつながり、さまざまな学びができるネットワーク化を進めていくべきである。

3　入試制度の見直しについて

○生徒の強みや可能性を、これまで以上に多面的・多角的に評価する学校の特色に応じた新たな入試制度を検討すべきである。
○不登校生徒や日本語を母語としない生徒などに対応する入試制度を検討すべきである。
○県外からの生徒募集に対応した入試制度の拡大を検討すべきである。
○各校の特色に応じた入試制度を導入する場合には、入試の実施時期を早期化（１月から２月）する必要がある。

「これからの県立高等学校の在り方に関する報告」（令和６年10月 県立高等学校の在り方検討委員会）の概要②

◆ 課程・学科別

高等学校の配置、魅力・特色化等について	
【全日制】 普通科	○さらに小規模校化が進むことが想定され、将来的には県全体のバランスを考慮しつつ、地域別に普通科の学校配置の検討が必要である。 ○連携型中高一貫教育校は、現在設置されていない地域への配置を引き続き検討すべきである。 ○併設型中高一貫教育校は、現状の東部、中央部、西部の３地域での配置を引き続き維持すべきである。 ○都市部の生徒数の多い学校と小規模校は、それぞれの特色を生かした学びを進めていくべきである。 ○普通科がより魅力的になるように地域資源を生かした活動や普通科改革に取り組むべきである。 ○現計画の７校の進学拠点校は一括りにせず、各校の特色や現状を踏まえ、その位置付けを見直すべきである。
【全日制】 総合学科	○現在の配置を維持していくべきだが、生徒数の状況を見据え、将来的には配置の在り方について検討する必要がある。 ○総合学科の教育内容がわかりやすいものとなるよう、系列名の見直しを行うべきである。 ○総合学科の取組の理解促進のため、広報活動を充実させる必要がある。
【全日制】 産業系 専門学科	○将来を見通したうえで、社会や時代のニーズに合う学科への改編を検討すべきである。 ○今後の生徒数の推移を踏まえ、生徒数が少ない学科の見直しや、学校・学科の再編・統合を図ることも必要である。 ○地元企業と連携して産業界の最新の状況を捉え、ICT活用やDX化などの学びの高度化に取り組むべきである。 ○小中学校との連携については、キャリア教育において強化していくことが必要である。
【定時制】 【通信制】	○定時制の配置は、現在の配置にこだわらず、ICTを活用した通信制高校のサテライト校化など、地域ごとに学びを保障する再編を検討していくべきである。 ○生徒の多様な学びに対応するため、三部制の導入も検討すべきである。 ○再編を検討する場合は、学校の役割や地域の実態、通学手段等を考慮しながら進めることが必要である。 ○定時制・通信制では、さらなるICTの活用により、多様な学びが提供できる環境づくりに努める必要がある。 ○通信制では、従来の紙媒体によるレポート提出ではなく、ICTを活用することや、スクーリングの会場を増やしていくことも必要である。 ○校名をインターネットハイスクールなど先進的でポジティブなイメージに変え、魅力化・特色化につなげていくことも必要である。
地域別	○生徒の多様な学びのニーズに対応していくためにも、学校規模は地域別・課程別に検討する必要がある。 ○生徒数の多い高知市・南国市の学校は、一定規模の維持に努め、中山間地域等の学校は、小規模校のメリットを最大限に生かした活動に取り組むとともに、そうした取組を生かして、生徒数の維持に努めるべきである。 ○高知市・南国市の高等学校は、１学年4学級以上、可能であれば６学級の維持に努めるべきである。 ○中山間地域等の高等学校は、地元市町村等との連携・協働をさらに進めていくべきである。 また、遠隔授業やICT活用を進め、体験入学等では体験の機会を設けることも必要である。 ○進学拠点校は必要であるが、現在の７校の拠点校の在り方については見直す必要がある。 また、「拠点校」については、一定規模を維持していくべきである。 ○産業系専門高校は一定の学校規模をバランスよく保つことが必要であり、よりよい教育環境を保障するための再編・統合、学科改編を含めた高等学校の在り方の検討が今後必要である。 ○定時制・通信制は、ICTを活用した学びを取り入れ、積極的に在り方を見直していくべきである。

市町村訪問の概要

時　期		令和６年10～11月
対　象		【高知市を除く 全市町村】 市町村長（又は代理）、教育長等
意見交換等	説明	○ **「県立高等学校再編振興計画の次期計画」の策定に向けて［県教育員会事務局説明］** ● 次期計画の方向性について ● 入学者数等の努力目標について ● アクションプランや地域コンソーシアムについて ● 県の支援について ○ **地元高等学校の現状と課題について［校長説明］** ○ **市町村（学校組合）の意見について［市町村説明］**
	意見交換	○ **これからの県立高等学校の在り方について** ● 地元高等学校の在り方や取組について ・アクションプランの作成と実行について ・地域コンソーシアムの構築と運営について ・アクションプランに取り入れる取組について ● 県立高等学校全体の在り方について

市町村訪問資料①（中山間地域の高等学校の取組（努力目標や評価方法等）（案））

1　各高等学校ごとに、生徒数確保のための「努力目標」を設定　　※別添グラフ参照

【努力目標案】

①入学生徒数

・**本校**：入学生徒数**41人以上**を目指す（２学級規模）※他地域よりも地元中学生が少ない高等学校は個別設定

・**分校**：入学生徒数**11人以上**を目指す

②地元中学校からの進学割合

基本50%以上を目指す

（・連携型中高一貫教育校　70%
・現在20%未満の学校は個別設定）

2　各高等学校の生徒数確保に向け、地元市町村と協働して高等学校の魅力化を推進するとともに、地元及び県内外からの生徒募集を強化

⇒ 高等学校と地元市町村とが協議・連携して**アクションプランを策定・実行（R７～R9）**

生徒数確保に向けて市町村とともに全力で取組を推進

次期計画期間（R7～R14）							
前期実施計画				後期実施計画			
R7	R8	R9	**R10**	R11	R12	R13	R14
アクションプランによる生徒数確保の取組（３年間）			検証評価	検証・評価に基づく取組			

3　評価（R10）

Ｒ７～Ｒ９の**３年間の取組の成果（R10.4入学者数等）を評価・検証**

4　検証・評価に基づく対応（R10～）

①努力目標の達成・達成の見通しがある　→　アクションプランに基づく生徒数確保の取組を継続

②努力目標の達成の見通しが立たない場合　→　学校の在り方について市町村と協議し、**後期実施計画**に反映
（学級減、キャンパス化、分校化、統合、市町村支援による学校維持 等）

市町村訪問資料②（市町村に協力をお願いしたいこと）

1　アクションプランの作成と実行

高等学校の魅力化・目標達成に向け、**県・学校と市町村が連携して作成し取り組む計画**

目標：①入学生徒数：本校41人以上（２学級規模）　**分校：11人以上**

②地元中学校からの進学割合：基本50%以上

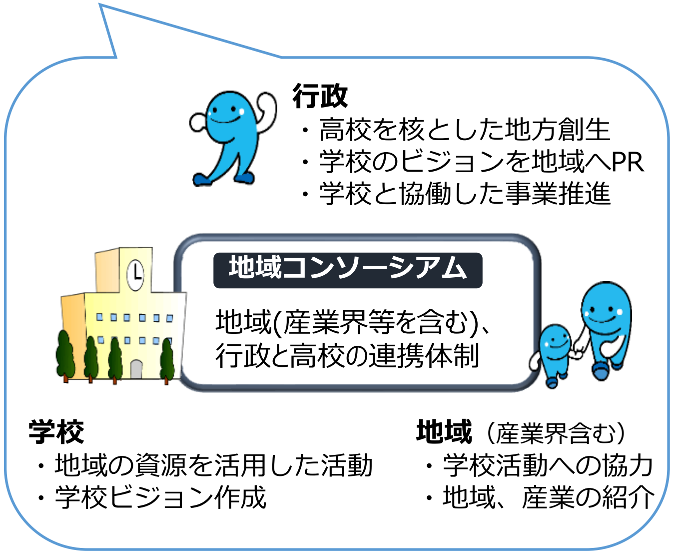
アクションプラン期間：令和７年度から令和９年度までの３年間

アクションプラン作成の目途：**令和７年３月末**

2　アクションプラン作成と実行のため、地域コンソーシアムの構築と運営参画

コンソーシアムとは、学校・行政・産業界等が、地元高校の現状・課題を共有し、高校の魅力化等に向けた目標設定や計画を策定・取組を実行する協働体

（構成メンバー：学校、市町村、地域・産業界などの関係者）



3　アクションプランに取り入れていただきたい取組

①全国から生徒を受け入れる取り組み

（例：生徒の居住環境の支援、移住施策事業と組み合わせた生徒募集）

②地元中学校に対する広報活動や中高連携

③地域の資源等を生かした特色ある活動

・部活動（例：カヌー部、女子野球部、女子サッカー部）

・授業等（例：ジオパーク学、自然環境教育、姉妹都市との国際交流）

④その他

※これらの取組について、高等学校で行うこと、市町村が行うこと、連携して行うことを整理

※市町村の予算への反映（※人口減少対策総合交付金の活用を含む）

○既にアクションプランを策定している市町村は、目標を踏まえたプランに見直し

○地域コンソーシアムを構築している市町村では、コンソーシアムでアクションプランの作成協議

市町村からの主な意見

●地域コンソーシアムの構築
●アクションプランの作成
中山間地域等の小規模校（13校）の関係市町村から了承を得た

◆ **生徒数の確保や努力目標等について**
○ 郡部の高校を残していくためには、中央部の高校を縮小していかなければならないのではないか。
○ 学力が高い中学生は、将来の大学進学を見据えて、高知市内の高校を希望する傾向にある。
○ 生徒や保護者は高知市内の高校への進学に気持ちが向いており、努力目標の数値の達成は厳しい見通しである。
○ 努力目標の数値については、全国や世界から生徒を集めなければ達成できない。
○ 連携型中高一貫教育校であることは、以前ほど、地元の高校への進学率向上につながっていない。
○ 高校入試の在り方として、入学定員が充足していないのであれば、県外生徒を積極的に受け入れるべきではないか。
○「地域みらい留学」への参画は市町村の財政的に難しいが、生徒数確保のためには必要である。

◆ **市町村との協働や高等学校の魅力化・特色化等について**
○ 地域活性化の側面から、高等学校は地域に必要である。
○ 高校の魅力化を図るためには、市町村との連携が重要である。
○ 地域唯一の高校として、生徒から選ばれるような学校になってもらいたい。
○ 高等学校は地域づくりの拠点であり、今後も地域資源を活用した探究活動を推進してもらいたい。
○ 中高連携や高大連携による、地域資源を活用した探究活動も検討すべきである。
○ 地域課題に関する学習や活動を通じ、県外大学に進学しても地元に帰ってきてもらえるような流れができるとよい。
○ 高校卒業までの期間を地元で過ごすことにより、地域への愛着がわくため、Ｕターンにもつながっている。
○ 地元の高校からでも希望する大学に進学できるよう、学力の定着が図れる学校となってもらいたい。
○ 魅力ある部活動を展開することにより、卒業生が将来的に指導者となるような循環をつくることが大事である。
○ 地元の高校は不登校生徒なども受け入れ、生徒を社会に立派に輩出してきたという実績がある。
○ 支援が必要だった生徒が、高校生活を経て自立し、その後の進学につながったことは、地元でも評価されている。

◆ **寮の整備等について**
○ 人口減少対策として、地元の高校に寮が設置されていることは非常に効果的である。
○ 県外生徒を積極的に募集するのであれば、寮の確保などの環境整備が必要である。
○ 県には、寮の体制の充実を図るうえでの支援をお願いしたい。

◆ **今後の高等学校の在り方について**
○ 今後は、定時制・通信制の学びについても充実させるべきである。定時制の入学者のうち、８割は不登校経験者だという話を聞いた。
これからは、学校から足が遠ざかりがちな生徒の受入れの場について、工夫していかなければならない。
○ 学習を避けるのではなく、むしろ学びたくて通信制を選ぶ生徒もいるため、今後は通信制の需要が高くなるのではないか。
○ 不登校生徒をはじめ多様な学習形態を必要とする生徒が増えている。公立の役割として、そのような生徒に対応できる高等学校が必要である。

次期計画（R７～R14）及び前期実施計画（R７～R10）の概略

次期計画（R７～R14）

1　教育を取り巻く環境の変化
国の動向、本県の動向、生徒数の減少等

2　県立高等学校再編振興計画（H26～R５）の主な取組と総括
少子化・南海トラフ地震津波対策による統合等
ICTの活用による教育の充実
中山間地域の学校の振興
進路希望に応じた指導の充実　など

3　策定までの流れ
（１）県立高等学校の現状と課題
（２）県立高等学校の在り方検討委員会における検討のポイントや報告
（３）教育委員会協議会における検討のポイント等

4　計画期間
令和７年度～令和14年度（前期：R７～10、後期：R11～14）

5　計画における基本的な考え方
○「多様性への対応」・「共通性の確保」と地域とのつながりによる教育の質の向上及び環境の充実
○ 適切な配置と学校規模の確保による学びの機会の保障

6　学校の分類（区分）
課程や地域、規模、学科等により、５つに分類
A　高知市・南国市の学校
B　地域の拠点校
C　中山間地域等の小規模校
D　産業系の専門高校
E　定時制・通信制の学校

7　スクール・ミッション（区分別）

8　学校の規模（区分別）
学級規模の目安等

9　方向性と主な取組内容（全区分共通、区分別）
全区分共通の主な取組内容、区分別の主な取組内容

10　今後の再編等の検討（区分別）

前期実施計画（R７～R10）

1　前期実施計画の期間
令和７年度～令和10年度
※ 必要に応じて途中改訂を行う

2　前期実施計画の取組内容

（１）全区分共通
○ 高知の自然や文化、人とのかかわりなど、地域資源を生かした教育・体験活動の充実
○ 短期留学やオンライン交流等による国際交流の充実
○ 教育デジタルトランスフォーメーション（DX）や、１人１台タブレット端末の有効な活用の推進
○ 魅力ある授業の展開と、教員がやりがいを持ち楽しくいきいきと教育に携わることができる学校づくり
○ デジタルの活用等による各高等学校の広報活動の充実や、全国からの生徒募集の拡充
○ 学科改編や区分別、地域別による入学定員の段階的な見直しと、学校の特色や全国からの生徒募集に対応した入試制度の検討

（２）区分別
○ 魅力化・特色化等に関する取組内容
○ 再編・学科改編等に関する取組内容

県立高等学校再編振興計画の次期計画について

次期計画（Ｒ７～Ｒ14）の計画期間、基本的な考え方

計画の期間

令和７年度 ～ 令和14年度 （８年間）

＜実施計画＞
前期：令和 ７年度～令和10年度（今回、同時策定）
後期：令和11年度～令和14年度（令和10年度に策定）
※ 必要に応じて途中改訂を行う

目指す人間像

- ○ **学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人**
- ○ **郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人**
- ○ **多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人**

（「第３期教育等の振興に関する施策の大綱」「第４期高知県教育振興基本計画」）

県立高等学校の現状と課題

◆ **生徒数の減少**
- ○ 県全体の人口減少に伴う入学者数の減少及び定員との乖離
  - ・全日制入学者数･････････H26：4,004人 → Ｒ６：3,367人
  - ・Ｒ６全日制定員充足率･･･70.0%（入学定員：4,810人）
- ○ 生徒数の減少に伴う小規模校の増加

◆ **地域や学校によらない多様な教育活動の必要性**
- ○ 多様な学習ニーズの顕在化（不登校生徒や日本語指導の必要な生徒等）
- ○ 従来の進学拠点校以外の学校でも国公立大学進学者数が増加

◆ **高等学校を取り巻く環境や社会の変化への対応**
- ○ 全ての高等学校におけるスクール・ポリシーの策定・公表
- ○ １人１台タブレット端末の整備や遠隔教育の導入等によるデジタル教育の進展、教育デジタルトランスフォーメーション（DX）の推進
- ○ 高等学校改革の推進（普通科改革等）
- ○ 部活動の在り方の見直し
- ○ 本県の重要政策の動向
  - ・「高知県元気な未来創造戦略」、「高知県中山間地域再興ビジョン」の策定
  - ・「デジタル化」、「グリーン化」、「グローバル化」の取組

計画の基本的な考え方

◆ **「多様性への対応」･「共通性の確保」と地域とのつながりによる教育の質の向上及び環境の充実**

「多様性への対応」
生徒一人一人の個性に応じた多様な可能性を伸ばす学びを実現するための学校づくり

「共通性の確保」
全ての生徒が社会で生きていくために必要となる資質･能力を共通して身に付けられる環境づくり

◆ **適切な配置と学校規模の確保による学びの機会の保障**
- ・各地域における生徒の学びの可能性を広げるための学校･課程等の配置の見直し
- ・集団における社会性の育成や協働的な学びの実現のために必要な生徒数の確保

次期計画（Ｒ７～Ｒ14）の計画のポイント、主な取組

【取組１】学校のさらなる魅力化・特色化

＜取組のポイント＞
- ■ 市町村や地域、大学、企業、関係機関等との連携・協働
- ■ スクール・ミッションに基づく教育活動の実施・改善

▶ **中山間地域等の小規模高校の生徒数確保に向けた取組**（資料P６・７）

○ 学校と**地元市町村との協働による**生徒数確保に向けた**アクションプランを策定・実行**
【取組：Ｒ７～Ｒ９の３年間 、評価：Ｒ10】

▶ **入学定員・入試制度の見直し**

○ 学級規模等の目安の設定と、Ｒ14年度までに段階的に全日制の**入学定員を1,200人以上減**
○ 学校の特色や、全国からの生徒募集に対応した**入試制度の検討**

【取組２】個別最適・協働的な学びの一体的な充実

＜取組のポイント＞
- ■ デジタル化やグローバル教育の推進
- ■ 多様な学びのニーズへの対応

▶ **デジタルの活用による県立高等学校全体のネットワークづくり**（資料P15）

○ **遠隔教育等の拡充**による**地域や学校の枠組みを超えた協働的な学習の充実**

▶ **定時制・通信制の再編**（資料P16）

○ **通信制におけるデジタル化や協力校の設置**による**学びの機会の保障及び充実**
○ 生徒数が大きく減少している**定時制夜間課程の再編**と、地域性等を考慮した配置の見直し（**配置校６校程度**）

▶ **多様な学びのニーズに対応した学校・コースの設置の検討**（資料P17）

○ 全日制・定時制・通信制の**３課程を併置した「多様な学び方ができる高等学校(仮)」の設置を検討**
○ **日本語指導の必要な生徒を対象としたコース「多文化共生コース(仮)」の設置を検討**

＜再編・統合等＞ 各学校の学級規模や最低規模の目安を設け、入学者数等の状況を踏まえて学校・学科の再編・改編の検討や実施を進める

次期計画（Ｒ７～Ｒ14）におけるスクール・ミッション、主な取組内容等

区　分	スクール・ミッション　（区分共通）
A　高知市・南国市の学校	スケールメリットを生かして多様な教育課程や部活動の充実を図り、特色ある拠点校として、各分野で活躍する人材を育成する
B　地域の拠点校	地域の進学や部活動の拠点として、中高連携や学科間の横断的な取組により教育内容を充実させ、地域をけん引するリーダーとなる人材を育成する
C　中山間地域等の小規模校	地域と協働して地元の資源を生かした特色ある教育活動を展開し、学校の垣根を超えて学びを深化させることにより、地域社会を担う人材を育成する
D　産業系の専門高校	企業や関係機関との連携を通して、高い専門知識や技能・技術を習得したスペシャリストを養成し、次世代の産業の担い手を育成する
E　定時制・通信制の学校	様々な生活スタイルや学習のニーズを持つ生徒に対応し、主体性や社会性を育成するとともに、生徒一人一人の多様な進路実現を図る

区分	対象校	方向性	主な取組内容	学級規模の目安等
A　高知市・南国市の学校 （７校）	＜南国市＞**岡豊** ＜高知市＞**高知東、高知追手前、高知丸の内、高知小津、高知国際、春野**	◆ **探究的な学びや教科等横断的な学びの充実** ◆ **外部機関との連携強化**	○**大学**や関係機関等との連携の強化 ○**「多文化共生コース(仮)」の新設**に向けた検討 ○文化系・体育系部活動の充実（重点校化）	**１学年４～６学級** ※ 生徒数が３年連続４学級未満となった場合は、再編を進める
B　地域の拠点校 （４校）	＜東部＞**安芸** ＜中部＞**山田**【香美・香南】 **須崎総合**【高吾】 ＜西部＞**中村**	◆ **地域の拠点校としての教育内容の充実** ◆ **地域等との連携**	○**市町村や大学、関係機関等との連携の強化** ○産業系専門学科の学科改編 ○文化系・体育系部活動の精選と充実（重点校化）	**１学年４学級以上** ※ 生徒数が３年連続４学級未満となった場合は、中山間地域等の小規模校として位置付ける
C　中山間地域等の小規模校 （13校）	＜東部＞**室戸** ＜中部＞**城山、嶺北、吾北分校、高岡、佐川、窪川、檮原、四万十** ＜西部＞**大方、西土佐分校、宿毛、清水**	◆ **地域の核となる学校としての地域との連携強化及び特色化** ◆ **少人数教育の充実**	○**地域コンソーシアム**（学校・市町村・地域等）において協議・策定した**アクションプランを、学校と地元市町村とが協働・連携して実行（Ｒ７～Ｒ９）** ○地元小中学校や**地域と一体となった学校の魅力化** ○**地元中学校からの入学促進** ○**地域資源を生かした教育・体験活動**の充実 ○**遠隔教育の拡充** ○**全国からの生徒募集の取組の拡充**	**【最低規模の目安】** **＜本校＞１学年１学級20人以上** **＜分校＞１学年１学級10人以上** **【努力目標】（入学者数）** **＜本校＞原則 41人以上**（２学級規模） **＜分校＞11人以上** ※ 生徒数確保に向けた努力目標を設定し市町村と連携して取り組む
D　産業系の専門高校 （７校）	＜農業＞**高知農業、幡多農業** ＜工業＞**高知東工業、高知工業、宿毛工業** ＜商業＞**伊野商業** ＜水産＞**高知海洋**	◆ **社会の変化や先進的な産業を視野に入れた教育課程の充実**	○**地元企業や小中学校、大学等との連携の強化** ○全ての学校における**教育内容の見直し** ○先進的な産業に対応するための基盤となる学科を中心に置く**学科改編等の検討及び実施**	**１学年２～６学級** ※ 各学科・専攻の生徒数が３年連続で入学定員の３分の１未満となった場合は、再編等を進める
E　定時制・通信制の学校 （12校）	＜定時制＞ 【２部制(昼・夜)】**中芸、高知北** 【全日制との併置】**室戸、山田、高知東工業、高知工業、高岡、須崎総合、佐川、大方、宿毛、清水** ＜通信制＞**高知北、大方**	◆ **多様な学びのニーズへの対応** ◆ **定時制・通信制における新たな学びの在り方の推進**	○**通信制**の課題提出・添削指導の**デジタル化による学びの充実** ○**通信制の協力校の設置の検討** ○通学できる通信制の在り方の検討 ○**定時制の配置の在り方や再編の検討**	**【最低規模の目安】** **＜昼間部＞１学年１学級20人以上** **＜夜間部＞全学年の生徒数20人以上** ※ これまでの入学者数や今後の入学者数の見込みが最低規模の目安を下回る場合は、再編を進める

＜全区分共通の主な取組内容＞

- ○ **高知の自然や文化、人とのかかわり**など、**地域資源を生かした教育・体験活動**の充実
- ○ **短期留学やオンライン交流等による国際交流**の充実
- ○ **教育デジタルトランスフォーメーション（DX）**や、**１人１台タブレット端末の有効な活用**の推進
- ○ **魅力ある授業の展開**と、**教員がやりがいを持ち楽しくいきいきと教育に携わることができる学校づくり**
- ○ デジタルの活用等による各高等学校の**広報活動の充実**や、**全国からの生徒募集の拡充**
- ○ 学科改編や区分別、地域別による**入学定員の段階的な見直し**と、学校の特色や全国からの生徒募集に対応した**入試制度の検討**（入試制度の見直しについては十分な周知期間を確保）

「これからの県立高等学校の在り方に関する報告」（県立高等学校の在り方検討委員会）と次期計画との対応表①

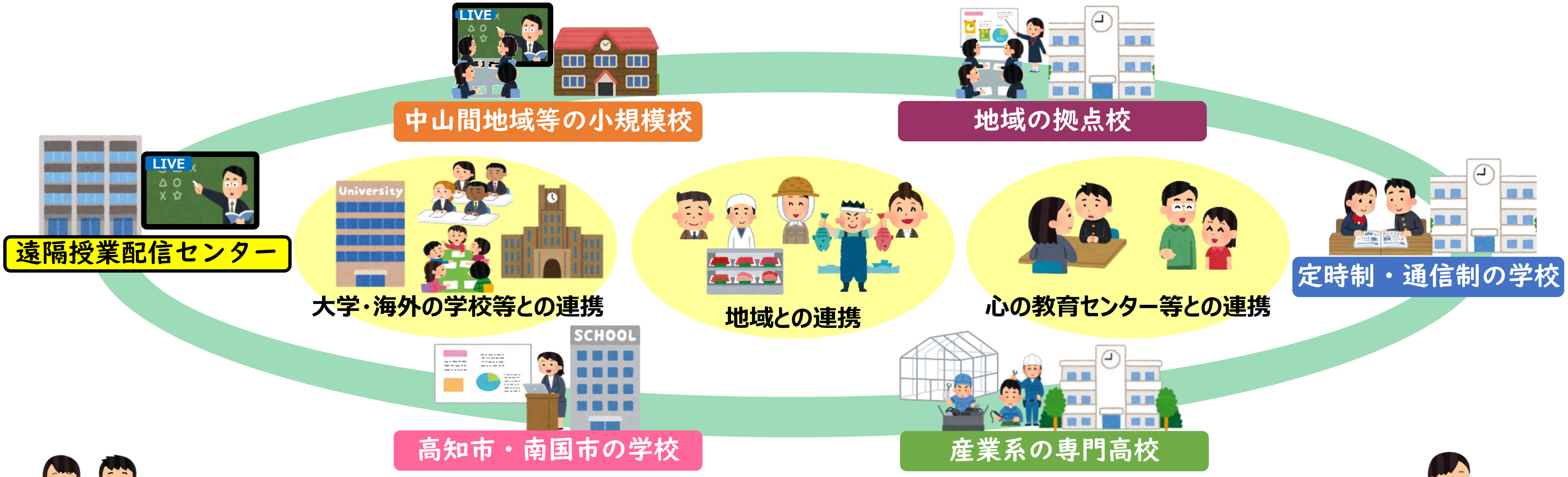
学校の規模の目安・配置		「これからの県立高等学校の在り方に関する報告」	次　期　計　画	資料の頁数
検討方法		○ 地域や課程等別に検討 ○ 現計画の７校の進学拠点校については、一律に進学拠点校とせず、位置付けを整理	○ 高等学校を５つの区分（カテゴリー）に分類して検討 ○ 安芸、山田、須崎総合、中村の４校は、「地域の拠点校」として位置付け	38
規模の目安	高知市・南国市の学校	一定規模 （基本１学年４学級以上、可能であれば６学級）	**【学級規模】１学年４～６学級** ※ 生徒数が３年連続４学級未満となった場合は、再編を進める	12,19
	地域の拠点校	一定規模 （少なくとも４学級以上）	**【学級規模】１学年４学級以上** ※ 生徒数が３年連続４学級未満となった場合は、中山間地域等の小規模校として位置付ける	12,21
	中山間地域等の小規模校	＜本校＞１学年１学級20人以上 ＜分校＞１学年１学級10人以上 ※ 目安とする生徒数を維持できない場合は、市町村等と協議し、統合等の可能性も含めた検討 ※ 目安とする生徒数や今後の可能性等を学校や地域等に示したうえで、学校と地域とが連携・協働して学校規模を維持する努力	**【最低規模】** **＜本校＞１学年１学級20人以上** **＜分校＞１学年１学級10人以上** **【努力目標】**（入学者数） **① ＜本校＞原則41人以上（２学級規模）** **＜分校＞11人以上** **② 地元中学校からの進学割合：基本50%以上** ※ 地域コンソーシアムにおいて生徒数確保のためのアクションプランを策定し、学校と地元市町村とが協働して実行（Ｒ７～Ｒ９） ※ 取組の成果をＲ10に評価のうえ、Ｒ11以降の学校の在り方を検討（市町村との協議等）	12,23, 6,7
	産業系の専門高校	一定規模	**【学級規模】１学年２～６学級** ※ 各学科・専攻の生徒数が３年連続で入学定員の３分の１未満となった場合は、再編等を進める	12,25
	定時制・通信制の学校	＜定時制：昼間部＞１学年１学級20人以上 ＜定時制：夜間部＞学校全体の生徒数20人以上 ※ 目安とする生徒数を維持できない場合は、通信制のサテライト校化など、定時制の在り方についての積極的な見直し	**【最低規模】** **＜定時制：昼間部＞１学年１学級20人以上** **＜定時制：夜間部＞全学年の生徒数20人以上** ※ これまでの入学者数や今後の入学者数の見込みが最低規模の目安を下回る場合は、再編を進める	12,27
配置	普通科・総合学科・産業系	将来的に配置を検討	**区分別に再編等の基準を設定**	12
	定時制・通信制	○ 必ずしも現在の配置の維持に努める必要はない ○ 通信制のスクーリングの会場を広げることを検討 ○ 定時制の統廃合を検討する場合は、学校の役割や地域の実態、通学手段なども考慮	○ **通信制の協力校の設置の検討** ○ 地域性や交通インフラ等を考慮した**定時制の配置の在り方の検討**と、**定時制夜間課程の再編の検討** ○ **定時制・通信制のそれぞれのバランスを考慮した配置の見直し**	27,16
	併設型中高一貫教育校	現在の配置を維持	**現在の配置を維持**	19,21
	連携型中高一貫教育校	新たな配置を検討	**現在の配置の維持**と、**新たな配置の検討**	23
	多様な生徒が学ぶことができる機会の保障	日本語を母語としない生徒の受入れや支援体制の検討	**日本語指導の必要な生徒を対象とした「多文化共生コース(仮)」の設置の検討**	19

「これからの県立高等学校の在り方に関する報告」（県立高等学校の在り方検討委員会）と次期計画との対応表②

魅力化・特色化等 再編・学科改編等		「これからの県立高等学校の在り方に関する報告」	次　期　計　画	資料の頁数
全体共通		○ 各高等学校が、市町村、小中学校、大学、企業、関係機関等とつながり、連携・協働を進めることが重要 ○ 課程や学科等に応じた学校の魅力化・特色化の推進 ○ 地域や社会資源のさらなる活用 ○ 高等学校同士や地元市町村、小中学校、地域、関係機関等とのネットワークの構築 ○ 遠隔授業やICTの活用等の拡大 ○ 教員が魅力ある授業を行うことが最も大切 ○ 各校の魅力・特色についての充実した広報活動の展開 ○ 県外や地域外からの生徒の受入れ体制の充実	**【取組１】学校のさらなる魅力化・特色化** **■ 市町村や地域、大学、企業、関係機関等との連携・協働** **■ スクール・ミッションに基づく教育活動の実施・改善** **【取組２】個別最適・協働的な学びの一体的な充実** **■ デジタル化やグローバル教育の推進** **■ 多様な学びのニーズへの対応** ○ 高知の自然や文化、人とのかかわりなど、**地域資源を生かした教育・体験活動**の充実 ○ **短期留学やオンライン交流等による国際交流**の充実 ○ **教育デジタルトランスフォーメーション（DX）**や、**１人１台タブレット端末の有効な活用**の推進 ○ **魅力ある授業の展開**と、教員がやりがいを持ち楽しくいきいきと教育に携わることができる学校づくり ○ 各高等学校の**広報活動の充実**や、**全国からの生徒募集の拡充**	9,11, 12,15
普通科（全日制）	高知市・周辺地域	○ 高知市・周辺地域では、一定規模があることが魅力・特色の一つ	○ 一定規模の目安と、再編等の基準を設定	12,19
	中山間地域	○ 地元市町村や小中学校等と連携・協働し、地域資源を生かした教育活動等により魅力化・特色化 ○ 地域と一体となった教育の質を維持するための環境づくり ○ 遠隔教育や進学拠点校とのオンライン等、学びの方法の検討 ○ 市町村や地域等と連携した生徒数の確保への取組 ○ 普通科改革も必要	○ 地元の小中学校と連携し、**地域と一体となった学校の魅力化・特色化**の推進 ○ **地域資源を生かした教育・体験活動**の充実 ○ **遠隔教育の拡充** ○ **学校と地元市町村との協働・連携**による**生徒数確保のためのアクションプランの実行** ○ **全国からの生徒募集の取組の拡充** ○ **連携型中高一貫教育校の新たな配置**や**普通科改革**の検討	12,23
総合学科（全日制）		○ 教育内容が明確に分かるよう系列名の変更や系列のスリム化の検討	○ **系列の整理及び系列名の見直し**	19,23
産業系（全日制）		○ 地域別・学校別に学校・学科の再編・統合の検討 ○ 社会や時代のニーズに合う学科及び教育内容となるよう検討 ○ 高度な学びを受けられるよう教育環境を整えることが重要 ○ 小中学校との連携によるキャリア教育の検討	○ 全ての学校における**教育内容の見直し** ○ 先進的な産業に対応するための基盤となる学科を中心に置く**学科改編等の検討・実施** ○ **地元企業や小中学校、大学、関係機関等との連携**の強化 ○ **学校と地元企業とが協働**で産業人材を育成するための**会議等の開催** ○ **産業界との連携**による**キャリア教育**の推進	12,25
定時制・通信制		○ ICTの活用による先進的な通信制の検討 ○ 生徒の多様な学習ニーズに柔軟に対応するための、定時制三部制の導入の検討 ○ 定時制と通信制との組み合わせによる多様な学びを提供できる環境づくりと、先進的でポジティブなイメージの名称への変更	○ **通信制**の**課題提出・添削指導のデジタル化**による学びの充実 ○ 通信制の充実に向けた研究や検討 ・ 生徒が自己のペースで学びやすい**通信制の協力校の設置**の検討 ・ **通信制の拠点校（本校）と協力校との体制・仕組みづくり**の研究 ・ 生徒の居場所づくりとしての**通学できる通信制の在り方**の検討 ○ **全日制・定時制(昼間)・通信制の３課程を併置した「多様な学び方ができる高等学校(仮)」の設置の検討** → 区分を超えて検討	12,27, 16,17

＜全区分共通＞デジタルの活用による県立高等学校全体のネットワークづくり

◆ 遠隔教育等の拡充による地域や学校の枠組みを超えた協働的な学習の充実



学校と学校・関係機関とをネットワークでつなぎ、生徒の学びをサポート

遠隔授業等の拡充

遠隔授業配信センター	○ 遠隔授業科目の拡充 ○ 複数校同時配信の推進 ○ 補習や資格取得講座の拡充
高知市・南国市の学校	○ 習熟上位講座の配信
地域の拠点校	○ 小規模校・産業系の専門高校への芸術科目等を中心とした配信
中山間地域等の小規模校	○ 小規模校同士が連携・協働し、探究的な学びを実現
産業系の専門高校	○ 産業系のコース設置校等への専門科目の配信
心の教育センター等	○ メタバース空間※1を活用した不登校生徒への支援等

地域や学校の枠組みを超えた学習（例）

大学との連携	○ APプログラム※2等を活用した大学への進路意識の啓発 ○ 大学生とのオンライン交流
他県や海外の学校との交流	○ 他県の生徒とのオンライン交流 ○ 姉妹都市・姉妹校とのオンライン交流 ○ 海外派遣生徒からのリアルタイム報告会
地域との連携	○ 地元市町村や企業、関係機関と連携した探究活動や報告会の開催
課題探究成果発表会	○ 学校の垣根を超えた協働的な研究 ○ 学校間交流による探究活動の深化 ○ オンラインによる合同の成果発表会
生徒会等の交流	○ 複数の県立高等学校による生徒総会 ○ オンライン学校行事の開催

※1 メタバース空間･･･インターネット上の仮想空間のこと。

※2 APプログラム･･･Advanced Placement（AP）と呼ばれる大学レベルのコースを提供するプログラム。高校生が大学レベルのコースを履修することで、大学の単位を獲得することができる。

＜区分Ｅ＞定時制･通信制の学校　（通信制の協力校の新たな設置）

◆ 通信制における新たな学び方のイメージ

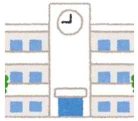
生徒

○生徒が**在籍**
○**添削指導等**を実施
（デジタル化）
○試験の作問･採点
○各科目等の**評価**を実施

添削指導（パソコン等）
課題提出（パソコン等）
指導を受ける（登校）
面接指導（対面）

○生徒が**登校**
○**面接指導等**を実施
○試験を実施
○曜日･時間帯により、
生徒への個別対応が可能

学習室を設置
（生徒が自由に利用可能）



通信制の本校

連携

協力校
（地域の高校）

学習室を設置
（生徒が自由に利用可能）

通信制の教育方法

① 添削指導　【 郵送 → デジタル化 】
生徒一人一人の到達度に応じた解説や、学習を進めるうえでのアドバイス等を記載する
② 面接(対面)指導　【 在籍校(本校)のみ → 協力校で実施可能 】
対面で基礎的･基本的な学習知識について指導し、今後の学習についての示唆を与える
③ 試験　【 在籍校(本校)のみ → 協力校で実施可能 】

通信制の協力校のメリット

■ **生徒が、自宅から最寄りの協力校において面接指導等を受けることが可能となる**
▶ 県内のさまざまな地域で学習の機会を保障することができる
（※ 本校への通学が可能な場合は、従来どおり、本校にて面接指導等を受けることも可能）

＜通信制の１年次の某月の学習の例＞（登校日(面接指導の日)が週２日(火曜日と金曜日)の設定の場合）

【 第１週 】
◇ 面接指導（登校）

時限	月	火	水	木	金
1					
2					
3					体育
4					
5					書道Ⅰ
6					ホームルーム活動

◇ 添削課題（提出）
○【理科】科学と人間生活（ワークシート）
○【家庭】家庭基礎（レポート）

【 第２週 】
◇ 面接指導（登校）

時限	月	火	水	木	金
1					
2					
3					科学と人間
4					家庭基礎
5					
6					

◇ 添削課題（提出）
○【外国語】英語コミュニケーションⅠ（ワークシート）
○【国語】言語文化（レポート）
○【情報】情報Ⅰ（成果物）

【 第３週 】
◇ 面接指導（登校）

時限	月	火	水	木	金
1					
2		英語コミュⅠ			
3					
4		言語文化			
5		情報Ⅰ			
6					

※ **面接指導以外の時間**
○ 添削課題への取組
○ 学習室や自宅での自学自習　など

【 第４週 】
◇ 試験（登校）

時限	月	火	水	木	金
1					
2		数学Ⅰ			
3		科学と人間			
4					
5		言語文化			
6					

<区分を超えて検討するもの>「多様な学び方ができる高等学校(仮)」の新たな設置の検討

◆ 全日制・定時制・通信制の３課程を併置する新たな高等学校のイメージ

※普通科は例（他の学科でも設置は可能）

全日制
（単位制・普通科）
※主な授業時間は１～６時間目を想定

定時制【昼間】
（単位制・普通科）
※主な授業時間は３～６時間目を想定

通信制〔本校〕
（単位制・普通科）
※登校日(面接指導の日)は週２日設定することを想定
（生徒は、週２日のうちいずれか１日に登校することを想定）

全日制 ⇔ 定時制：併修可能 転籍可能
全日制 ⇔ 通信制：併修可能 転籍可能
定時制 ⇔ 通信制：併修可能 転籍可能

新たな学校の特徴

■ **全日制、定時制【昼間】、通信制の全課程において、併修や転籍を可能とする**
（生徒が、他の課程の授業を受けたり、他の課程に変更したりすることができる）
▶ 卒業までに修得すべき単位(74単位)を柔軟に修得しやすくなる

■ **連携・協働した学校運営を行う**
（３課程の教職員が連携を図りながら教育活動を充実させる）
▶ 課程を超えて生徒を支援する体制がとりやすくなる
▶ 生徒にとっては学びの選択肢が増える

多様な学びのニーズへの対応（例）

<従来の転学や転籍の例>
全日制に入学 →（継続できない（出席状況や成績等））→ 定時制に転学
→（それでも難しい場合）→ 通信制に転籍

<「多様な学び方ができる高等学校(仮)」の特徴を生かした場合の例>
通信制に入学 →（学校に慣れてきた 又は 学校に通う自信がついた）
→ ２年目からは、定時制の授業を併修 又は 全日制に転籍　など

<全日制の授業時間等の例>

時限	月	火	水	木	金
1	授業	授業	授業	授業	授業
2	授業	授業	授業	授業	授業
3	授業	授業	授業	授業	授業
4	授業	授業	授業	授業	授業
5	授業	授業	授業	授業	授業
6	授業	授業	ホームルーム活動	授業	授業

※ 基本は**３年間**で卒業

<定時制の授業時間等の例>

時限	月	火	水	木	金
1–2	※ 授業以外の時間 ○ 全日制や通信制の併修 ○ 自分の活動　など				
3	授業	授業	授業	授業	授業
4	授業	授業	授業	授業	授業
5	授業	授業	授業	授業	授業
6	授業	授業	ホームルーム活動	授業	授業

※ 基本は**４年間**で卒業
（併修等により、３年間での卒業も可能）

<通信制の学習時間等の例>

時限	月	火	水	木	金
1		面接指導	※ 面接指導以外の時間 ○ 添削課題への取組 ○ 学習室や自宅での自学自習 ○ 全日制や定時制の併修 ○ 自分の活動　など		
2		面接指導			
3		面接指導			
4		面接指導			
5		面接指導			
6		面接指導			

※ **３年間以上**で卒業

【再掲】 ＜区分A＞高知市・南国市の学校（７校）

区分	対象校	他の区分と重なる学校等	協議の方向性
A 高知市・南国市の学校（７校）	＜南国市＞**岡豊** ＜高知市＞**高知東、高知追手前、高知丸の内、高知小津、高知国際、春野**	«産業系» **高知農業、高知東工業、高知工業** «定時制・通信制» **高知北**	○生徒数が集中しており、多様な教科・科目や様々な教育活動を行うために一定規模が必要 → 進学拠点校やその他の学校における学級規模の目安について整理 ○大学や関係機関との連携による学校の魅力化 ○文化・体育部活動の拠点としての位置付け

学校名	学科名	R6 入学定員	R6 学級数	R２～６平均 入学者数	R２～６平均 定員充足率	入学者数 R2	R3	R4	R5	R6
岡豊	普通	320	8	293	91.7%	283	301	307	275	301
高知東	総合	200	5	198	99.0%	200	199	200	200	191
	看護	30	1	26	88.0%	22	26	30	30	24
高知追手前	普通	280	7	232	82.7%	247	245	231	234	201
高知丸の内	普通	150	4	147	97.9%	147	147	147	147	146
	音楽	30	1	13	44.7%	12	19	16	12	8
高知小津	普通	240	6	238	99.0%	240	239	241	228	240
	理数	40	1	32	80.5%	34	35	39	25	28
高知国際	普通	200	5	200	100.0%	439	200	200	200	201
	国際関係	80	2	75	93.8%	70	78	70	75	82
春野	総合	160	4	127	79.6%	99	120	141	132	145

※ R２の高知国際
高知南（普通：定員200、国際関係：定員40）と
高知西（普通：定員240、外国語：定員40）の計

＜参考＞（全日制：区分A～D）

区分		学校名	R6定員	R2	R3	R4	R5	R6
A	高知市・南国市の学校	（高知農業、）（高知東工業、）岡豊、高知東、（高知工業、）高知追手前、高知丸の内、高知小津、（高知北、）高知国際、春野	1,730	1,793	1,609	1,622	1,558	1,567
B	地域の拠点校	安芸、山田、須崎総合、中村	840	506	487	482	513	502
C	中山間地域等の小規模校	室戸、（中芸、）城山、嶺北、吾北分校、高岡、佐川、窪川、檮原、四万十、大方、西土佐分校、宿毛、清水	1,000	356	378	438	387	395
D	産業系の専門高校	高知農業、高知東工業、高知工業、伊野商業、高知海洋、幡多農業、宿毛工業	1,240	893	898	851	837	903
計（県立）			4,810	3,548	3,372	3,393	3,295	3,367

＜区分A＞高知市・南国市の学校（７校）

＜現状・課題＞
○生徒数が集中しており、規模の大きな学校が複数ある
○生徒のニーズに応じた様々な教科・科目や部活動の設置が可能である
○普通科から総合学科、専門学科まで、多様な学びが可能である
○今後10年間では、生徒数の減少が見込まれる

＜カテゴリー別の方向性＞
○探究的な学びや教科等横断的な学びの充実
○外部機関との連携強化

＜カテゴリー別のスクール・ミッション＞
○スケールメリットを生かして多様な教育課程や部活動の充実を図り、特色ある拠点校として、各分野で活躍する人材を育成する

＜カテゴリー別の取組内容＞

◆ **学級規模**
- ○ 学級規模の目安は、１学年４～６学級
- ○ 生徒数が３年連続４学級未満となった場合は、再編を進める

◆ **魅力化・特色化**
- ○ 大学や関係機関等との連携の強化
- ○ 文化系・体育系部活動の充実（重点校化）

◆ **再編・学科改編等**
- ○ 日本語指導の必要な生徒を対象とした「多文化共生コース(仮)」の設置の検討
- ○ 総合学科における系列の整理及び系列名の見直し
- ○ 併設型中高一貫教育校の配置の維持
- ○ 各専門学科やコースの在り方の検討

＜参考＞「これからの県立高等学校の在り方に関する報告」（概要）

○一定規模のある高等学校は、柔軟な教科・科目の設定や、団体の部活動を複数置くことなどが可能であるため、学校規模も魅力・特色の一つと捉えられることから、高知市・南国市などの生徒が集中している全日制の高等学校においては、一定規模（基本４学級以上、可能であれば６学級）の維持に努めるべきものと考える。

○総合学科については、当面は、普通科への改編はしなくてもよいのではないか。ただし、中学生や保護者に教育内容が明確に分かるよう、系列名の変更や系列のスリム化を検討していく必要がある。

○日本語を母語としない子どもの高等学校での受入れや支援体制について検討する必要がある。

【再掲】 ＜区分Ｂ＞地域の拠点校（４校）

区分	対象校	他の区分と重なる学校等	協議の方向性
Ｂ　地域の拠点校 **（４校）**	＜東部＞**安芸** ＜中部＞**山田**【香美・香南】 **須崎総合**【高吾】 ＜西部＞**中村**	＊ 安芸、山田、須崎総合は、産業系専門学科を併置	○広域のエリアごとに進学や部活動等の拠点となる学校として一定規模が必要 → 学級規模の目安について整理 ○大学や関係機関との連携による学校の魅力化 ○文化・体育部活動の拠点としての位置付け

学校名	学科名	R6 入学定員	R6 学級数	Ｒ２～６平均		入学者数				
				入学者数	定員充足率	R2	R3	R4	R5	R6
安芸	普通	120	3	73	60.8%	55	77	78	95	60
	工業	40	1	10	24.0%	4	12	15	10	7
	商業	40	1	19	47.5%	19	13	16	20	27
山田	普通	80	2	66	82.0%	80	59	71	61	57
	探究	80	2	16	19.8%	16	18	12	9	24
	商業	40	1	25	63.5%	28	28	31	27	13
須崎総合	普通	120	3	71	59.0%	73	81	58	74	68
	工業	120	3	54	45.3%	60	46	47	50	69
中村	普通	200	5	164	82.2%	171	153	154	167	177

※ Ｒ２～４の安芸
安芸（普通：定員120）と
安芸桜ケ丘（工業：定員40、商業：定員40）の計

＜参考＞（全日制：区分A～D）

区分		学校名	R6定員	R2	R3	R4	R5	R6
A	高知市・南国市の学校	（高知農業、）（高知東工業、）岡豊、高知東、（高知工業、）高知追手前、高知丸の内、高知小津、（高知北、）高知国際、春野	1,730	1,793	1,609	1,622	1,558	1,567
B	地域の拠点校	安芸、山田、須崎総合、中村	840	506	487	482	513	502
C	中山間地域等の小規模校	室戸、（中芸、）城山、嶺北、吾北分校、高岡、佐川、窪川、檮原、四万十、大方、西土佐分校、宿毛、清水	1,000	356	378	438	387	395
D	産業系の専門高校	高知農業、高知東工業、高知工業、伊野商業、高知海洋、幡多農業、宿毛工業	1,240	893	898	851	837	903
計　（県立）			4,810	3,548	3,372	3,393	3,295	3,367

＜区分Ｂ＞地域の拠点校（４校）

＜現状・課題＞

○１学年４学級以上の規模としているが、入学定員の充足率が低い
○進学拠点校としての位置付けであるが、進路状況は学校によって差がある
○中高一貫教育や、普通科と専門学科との併置など、生徒の学びのボーダーレス化が可能な環境にある
○今後10年間では、生徒数の減少が見込まれ、１学年４学級規模の維持が難しくなる学校も想定される

＜カテゴリー別の方向性＞

○地域の拠点校としての教育内容の充実
○地域等との連携

＜カテゴリー別のスクール・ミッション＞

○地域の進学や部活動の拠点として、中高連携や学科間の横断的な取組により教育内容を充実させ、地域をけん引するリーダーとなる人材を育成する

＜カテゴリー別の取組内容＞

◆ 学級規模

○ 学級規模の目安は、１学年４学級以上
○ 生徒数が３年連続４学級未満となった場合は、中山間地域等の小規模校として位置付ける
○ 産業系専門学科については、区分Ｄに準ずることとし、各学科・専攻の生徒数が３年連続で入学定員の３分の１未満となった場合は、再編等を進める

◆ 魅力化・特色化

○ 市町村や大学、関係機関等との連携の強化
○ 文化系・体育系部活動の精選と充実（重点校化）

◆ 再編・学科改編等

○ 産業系専門学科の学科改編
○ 併設型中高一貫教育校の配置の維持 （※県立中学校の在り方については、次期計画期間中に検討）

＜参考＞「これからの県立高等学校の在り方に関する報告」（概要）

○地域の拠点校においては、少なくとも４学級以上の学校規模の維持に努める必要があるのではないか。

○中学校の併設や複数学科の併置など、学校の特色や進学状況がそれぞれ異なることから、一律に進学拠点校とはせず、拠点校としての位置付けを整理していく必要がある。

○産業系専門学科については、今後、生徒数が大きく減少し、各学校がさらに小規模校化した際の設備面等の充実を考慮すると、学科別や地域別に再編等の検討が必要になるのではないか。

○併設型中高一貫教育校については、現状の配置を引き続き維持する。

【再掲】 ＜区分Ｃ＞中山間地域等の小規模校（13校）

区分	対象校	他の区分と重なる学校等	協議の方向性
C　中山間地域等の小規模校（13校）	＜東部＞**室戸** ＜中部＞**城山、嶺北、吾北分校、高岡、佐川、窪川、檮原、四万十** ＜西部＞**大方、西土佐分校、宿毛、清水**	≪定時制・通信制≫ **中芸**	○地域と一体となった学校の魅力化・特色化 ○県の方針（ビジョン）と歩調を合わせた振興 ○生徒数の確保に向けた対策 → 県外生徒を含む生徒数の目標値や、地元中学校からの進学割合を、学校ごとに設定 学校と地元市町村がアクションプラン策定

学校名	学科名	R6 入学定員	R6 学級数	R２～６平均 入学者数	R２～６平均 定員充足率	入学者数 R2	R3	R4	R5	R6
室戸	総合	80	2	32	39.5%	27	22	35	49	25
城山	普通	80	2	26	32.8%	33	29	20	25	24
嶺北	普通	80	2	35	44.0%	34	32	42	27	41
吾北分校	普通	40	1	10	25.0%	10	7	12	11	10
高岡	普通	80	2	28	35.0%	20	38	29	23	30
佐川	普通	80	2	34	43.0%	32	36	43	35	26
窪川	普通	80	2	26	32.3%	14	29	37	22	27
檮原	普通	80	2	42	52.8%	40	40	39	42	50
四万十	普通	80	2	20	25.3%	19	20	25	25	12
大方	普通	80	2	32	39.8%	27	35	23	36	38
西土佐分校	普通	40	1	6	16.0%	6	7	7	8	4
宿毛	総合	120	3	64	53.3%	59	56	77	62	66
清水	普通	80	2	35	43.8%	35	27	49	22	42

＜参考＞（全日制：区分A～D）

区分		学校名	R6定員	R2	R3	R4	R5	R6
A	高知市・南国市の学校	（高知農業、）（高知東工業、）岡豊、高知東、（高知工業、）高知追手前、高知丸の内、高知小津、（高知北、）高知国際、春野	1,730	1,793	1,609	1,622	1,558	1,567
B	地域の拠点校	安芸、山田、須崎総合、中村	840	506	487	482	513	502
C	中山間地域等の小規模校	室戸、（中芸、）城山、嶺北、吾北分校、高岡、佐川、窪川、檮原、四万十、大方、西土佐分校、宿毛、清水	1,000	356	378	438	387	395
D	産業系の専門高校	高知農業、高知東工業、高知工業、伊野商業、高知海洋、幡多農業、宿毛工業	1,240	893	898	851	837	903
計（県立）			4,810	3,548	3,372	3,393	3,295	3,367

＜区分Ｃ＞中山間地域等の小規模校（13校）

＜現状・課題＞

○生徒数の減少傾向が続いている
○地元市町村と協働し、特色ある教育活動や部活動を展開することで、生徒数の確保につながっている学校がある
○全国生徒募集に取り組む学校が増加している
○遠隔授業等により、進学に対応した学びが可能となっている

＜カテゴリー別の方向性＞

○地域の核となる学校としての地域との連携強化及び特色化
○少人数教育の充実

＜カテゴリー別のスクール・ミッション＞

○地域と協働して地元の資源を生かした特色ある教育活動を展開し、学校の垣根を超えて学びを深化させることにより、地域社会を担う人材を育成する

＜カテゴリー別の取組内容＞

◆ 学級規模

○ 最低規模の目安は、＜本校＞１学年１学級20人以上　＜分校＞１学年１学級10人以上
○ 生徒数確保に向けた「努力目標」を設定し、市町村と連携して取り組む
　① 入学者数・・・・・＜本校＞41人以上（２学級規模）＜分校＞11人以上
　② 地元中学校からの進学割合・・・・・基本50％以上

◆ 魅力化・特色化

○ 学校と市町村・地域等で構成される地域コンソーシアムを構築
　→ 地域コンソーシアムにおいて、生徒数確保に向けたアクションプランを協議・策定
　→ アクションプランを、学校と地元市町村とが協働・連携して実行（Ｒ７～Ｒ９）
○ 地元の小中学校と連携し、地域と一体となった学校の魅力化・特色化の推進
○ 地元中学校からの入学促進
○ 地域資源を生かした教育・体験活動の充実
○ 遠隔教育の拡充
○ 全国からの生徒募集の取組の拡充

◆ 再編・学科改編等

○ アクションプランに基づくＲ７～Ｒ９（３年間）の取組の成果（Ｒ10.4入学者数等）を評価・検証
　→ Ｒ11以降の学校の在り方を検討（努力目標の達成の見通しが立たない場合は市町村と協議等）
○ 連携型中高一貫教育校の現在の配置の維持と、新たな配置の検討
○ 普通科改革の検討
○ 総合学科における系列の整理及び系列名の見直し

＜参考＞「これからの県立高等学校の在り方に関する報告」（概要）

○最低規模は設定しなくてもよいのではないか。ただし、社会性の育成や協働的な学びの実現のためには一定の生徒数が必要であることから、当面は、本校は１学年１学級20人以上、分校は１学年１学級10人以上を目安として残し、今後、数年に渡って目安とする生徒数を維持できない状況が続いた場合には、統合等の可能性も含めた検討を行う必要があるのではないか。

○地元市町村や小中学校等と連携・協働するとともに、普通科の魅力化・特色化をさらに進めるため、地域の資源を生かし、地域とつながりのある教育活動や普通科改革を行うことも必要と考える。

○連携型中高一貫教育校については、地域の学校の状況等も踏まえながら、現在設置されていない地域への配置を引き続き検討する。

【再掲】 ＜区分Ｄ＞産業系の専門高校（７校）

区分	対象校	他の区分と重なる学校等	協議の方向性
D 産業系の専門高校 （７校）	＜農業＞高知農業、幡多農業 ＜工業＞高知東工業、高知工業、宿毛工業 ＜商業＞伊野商業 ＜水産＞高知海洋	◇参考：職業教育を主とする専門学科を併置する学校 «工業»安芸、須崎総合 «商業»安芸、山田 «看護»高知東	○これからの社会を見据えた教育内容の見直し → 学科改編を含めて検討 ○高度な学びができる環境づくり ○地元企業との結びつきの強化

学校名	学科名	R6 入学定員	R6 学級数	Ｒ２～６平均 入学者数	Ｒ２～６平均 定員充足率	入学者数 R2	R3	R4	R5	R6
高知農業	農業	240	6	179	74.5%	188	157	163	178	208
高知東工業	工業	160	4	93	57.9%	99	90	87	89	98
高知工業	工業	280	7	271	96.7%	250	280	272	274	278
伊野商業	商業	160	4	114	71.4%	132	112	111	108	108
高知海洋	水産	80	2	36	45.5%	42	45	36	30	29
幡多農業	農業	160	4	83	51.8%	86	104	74	70	80
宿毛工業	工業	160	4	101	63.0%	96	110	108	88	102

＜参考＞（全日制：区分A～D）

区分		学校名	R6定員	R2	R3	R4	R5	R6
A	高知市・南国市の学校	（高知農業、）（高知東工業、）岡豊、高知東、（高知工業、）高知追手前、高知丸の内、高知小津、（高知北、）高知国際、春野	1,730	1,793	1,609	1,622	1,558	1,567
B	地域の拠点校	安芸、山田、須崎総合、中村	840	506	487	482	513	502
C	中山間地域等の小規模校	室戸、（中芸、）城山、嶺北、吾北分校、高岡、佐川、窪川、檮原、四万十、大方、西土佐分校、宿毛、清水	1,000	356	378	438	387	395
D	産業系の専門高校	高知農業、高知東工業、高知工業、伊野商業、高知海洋、幡多農業、宿毛工業	1,240	893	898	851	837	903
計 （県立）			4,810	3,548	3,372	3,393	3,295	3,367

＜区分Ｄ＞産業系の専門高校（７校）

＜現状・課題＞

○学科や専攻により、入学定員の充足率の差が大きい
○先進的な機器や技術を用いた教育活動を展開し、地域や地元企業等との連携も進めている
○学科等の名称によっては、中学生や保護者に学びの内容が十分伝わっていない

＜カテゴリー別の方向性＞

○社会の変化や先進的な産業を視野に入れた教育課程の充実

＜カテゴリー別のスクール・ミッション＞

○企業や関係機関との連携を通して、高い専門知識や技能・技術を習得したスペシャリストを養成し、次世代の産業の担い手を育成する

＜カテゴリー別の取組内容＞

◆ 学級規模

○ 学級規模の目安は、１学年２～６学級
○ 各学科・専攻の生徒数が３年連続で入学定員の３分の１未満となった場合は、再編等を進める

◆ 魅力化・特色化

○ 地元企業や小中学校、大学、関係機関等との連携の強化
○ 産業界との連携によるキャリア教育の推進
○ 学校と地元企業とが協働で産業人材を育成するための会議等の開催

◆ 再編・学科改編等

○ 全ての学校における教育内容の見直し
○ 先進的な産業に対応するための基盤となる学科を中心に置く学科改編等の検討・実施
→ Ｒ７以降、学科改編等に向けて準備
→ Ｒ９以降、学科改編等を順次実施

＜参考＞「これからの県立高等学校の在り方に関する報告」（概要）

○それぞれの地域において、産業系の専門の学びが担保できることが重要である。現状では、入学定員を充足している学科がある一方、定員の半分に満たない学科も存在しており、今後は学科改編や統合などに取り組むことが必要となるのではないか。

○学校規模は設備等の予算にも関わるため、一定の学校規模をバランスよく保つことが必要である。

○地元企業と連携して産業界の最新の状況を捉えつつ、ＩＣＴの活用やＤＸ化など高度化された最新の産業に合った学び、企業が必要とする人材の育成ができる教育内容に変えていく必要がある。

○義務教育段階から地元産業に興味関心を持ってもらえるよう、小中学校とカリキュラム的に結び付くなど、キャリア教育の連携を検討するべきである。

【再掲】 ＜区分Ｅ＞定時制･通信制の学校（12校）

区分	対象校	他の区分と重なる学校等	協議の方向性
Ｅ　定時制・通信制の学校（12校）	＜定時制＞ 【２部制(昼･夜)】中芸、高知北 【全日制との併置】室戸、山田、高知東工業、高知工業、高岡、須崎総合、佐川、大方、宿毛、清水 ＜通信制＞高知北、大方		○多様な学習ニーズへの対応を踏まえた学びの機会の保障 → ＩＣＴ等の活用による新たな定時制･通信制の検討（改編） → 不登校生徒や、日本語を母語としない生徒等への柔軟な対応や支援体制

学校名	学科名	R6 入学定員	R6 学級数	R２～６平均 入学者数	R２～６平均 定員充足率	入学者数 R2	R3	R4	R5	R6
中芸	普通(昼間)	40	1	13	32.5%	13	15	15	9	13
	普通(夜間)	40	1	4	9.5%	4	1	4	6	4
高知北	普通(昼間)	80	2	61	76.3%	71	63	68	50	53
	普通(夜間)	40	1	10	25.5%	6	7	9	10	19
室戸	普通	40	1	3	7.0%	1	5	0	3	5
山田	普通	40	1	6	14.5%	2	6	8	4	9
高知東工業	工業	40	1	3	8.5%	4	2	2	2	7
高知工業	工業	160	4	7	4.4%	8	5	8	8	6
高岡	普通	40	1	4	11.0%	7	5	2	5	3
須崎総合	普通	40	1	4	10.0%	3	3	5	5	4
佐川	普通	40	1	4	10.0%	8	2	3	4	3
大方	普通	40	1	3	7.0%	1	3	3	3	4
宿毛	普通	40	1	3	7.5%	3	2	2	4	4
清水	普通	40	1	2	6.0%	1	1	5	1	4

＜参考＞（定時制：区分Ｅ）

区分		学校名	R6定員	R2	R3	R4	R5	R6
Ｅ	定時制・通信制の学校	【昼間】 中芸、高知北	120	84	78	83	59	66
		【夜間】 室戸、中芸、山田、高知東工業、高知工業、高知北、高岡、須崎総合、佐川、大方、宿毛、清水	600	48	42	51	55	72
計 （県立）			720	132	120	134	114	138

＜区分Ｅ＞定時制・通信制の学校（12校）

＜現状・課題＞

○定時制の多くの学校で、現計画における最低規模の基準（夜間課程は全校生徒数20人以上）を大きく下回る状況にある
○勤労青年の減少の一方で、不登校経験者や起立性調節障害の生徒など、多様な学びのニーズがある
○多くの地域では、公共交通機関を利用して定時制や通信制に通学することが困難な状況にある

＜カテゴリー別の方向性＞

○多様な学びのニーズへの対応
○定時制・通信制における新たな学びの在り方の推進

＜カテゴリー別のスクール・ミッション＞

○様々な生活スタイルや学習のニーズを持つ生徒に対応し、主体性や社会性を育成するとともに、生徒一人一人の多様な進路実現を図る

＜カテゴリー別の取組内容＞

◆ 学級規模

○ ＜昼間部＞最低規模の目安は、１学年１学級20人以上
○ ＜夜間部＞最低規模の目安は、全学年の生徒数20人以上
○ これまでの入学者数や今後の入学者数の見込みが最低規模の目安を下回る場合は、再編を進める

◆ 魅力化・特色化等

○ 通信制の課題提出・添削指導のデジタル化による学びの充実

◆ 再編等

○ 通信制の充実に向けた研究や検討
・生徒が自己のペースで学びやすい通信制の協力校の設置の検討
・通信制の拠点校（本校）と協力校との体制・仕組みづくりの研究
・生徒の居場所づくりとしての通学できる通信制の在り方の検討
○ 定時制の配置の在り方や再編の検討
・地域性や交通インフラ等を考慮した定時制の配置の在り方の検討
・生徒数が大きく減少している定時制夜間課程の再編の検討
○ 県内各地域において生徒が自己に合った学び方を選択することができるよう、定時制・通信制のそれぞれのバランスを考慮した配置の見直し

課程	令和６年度	令和14年度まで
定時制	12校	６校程度
通信制	２校	本校１校 ＋ 協力校８校程度

＜参考＞「これからの県立高等学校の在り方に関する報告」（概要）

○定時制の最低規模は必ずしも設定しなくてもよいのではないか。ただし、学校を維持していくため、昼間部は１学年１学級20人以上、夜間部は学校全体の生徒数20人以上という数値を目安として残し、目安とする生徒数を維持できない場合には、学校の在り方について積極的に見直しを図っていくことが必要である。

○生徒の教育機会を確保しつつ、生徒の多様な学習ニーズに柔軟に対応する定時制三部制の導入や、通信制のサテライト校化などを検討していく必要がある。

○定時制や通信制の名称を変更するなどして、セーフティネットという従来のネガティブなイメージから、先進的でポジティブなイメージに変え広報していくことで、魅力化・特色化につなげることができるのではないか。

前期実施計画（Ｒ７～Ｒ10）の取組内容（次期計画のうち前期に実施する取組内容）

区分	再編・学科改編等				魅力化・特色化等
	Ｒ７	Ｒ８	Ｒ９	Ｒ10	Ｒ７～Ｒ10
区分Ａ 高知市・南国市の学校	○「多文化共生コース(仮)」（日本語指導の必要な生徒を対象とするコース）を新設する候補校の選定	○「多文化共生コース(仮)」の設置についての検討・周知・準備		○「多文化共生コース(仮)」の開設	○大学や関係機関等との連携の強化 ○文化系・体育系部活動の充実(重点校化) ○併設型中高一貫教育校の配置の維持 【高知国際】
	○総合学科【高知東、春野】系列の整理及び系列名の見直し	○総合学科の新系列の周知・準備	○総合学科の新系列の教育課程開始		
	○各専門学科やコースの在り方の検討				
区分Ｂ 地域の拠点校	○産業系専門学科 学科改編に向けた検討	○産業系専門学科の学科改編の周知・準備	○産業系専門学科の学科改編後の教育課程開始		○市町村や大学、関係機関等との連携の強化 ○文化系・体育系部活動の精選と充実(重点校化) ○併設型中高一貫教育校の配置の維持 【安芸、中村】
区分Ｃ 中山間地域等の小規模校	○生徒数確保に向けたアクションプランを地域コンソーシアムにおいて協議・策定 ○学校と地元市町村との協働・連携によるアクションプランの実行	○学校と地元市町村との協働・連携によるアクションプランの実行		○アクションプランに基づくＲ７～Ｒ９（３年間）の取組の成果（Ｒ10.4入学者数等）を評価・検証し、Ｒ11以降の学校の在り方を検討	○地元の小中学校と連携し、地域と一体となった学校の魅力化・特色化の推進 ○地元中学校からの入学促進 ○地域資源を生かした教育・体験活動の充実 ○遠隔教育の拡充 ○全国からの生徒募集の取組の拡充 ○連携型中高一貫教育校の現在の配置の維持 【嶺北、檮原、四万十、清水】
	○総合学科【室戸、宿毛】系列の整理及び系列名の見直し	○総合学科の新系列の周知・準備	○総合学科の新系列の教育課程開始		
	○連携型中高一貫教育校の新たな配置や普通科改革の検討				
区分Ｄ 産業系の専門高校	○全ての学校における教育内容の見直し ○先進的な産業に対応するための基盤となる学科を中心に置く学科改編等の検討	○学科改編等の周知・準備 （決定した学校から順次実施）	○学科改編等後の教育課程開始 （決定した学校から順次実施）		○地元企業や小中学校、大学、関係機関等との連携の強化 ○産業界との連携によるキャリア教育の推進 ○学校と地元企業とが協働で産業人材を育成するための会議等の開催
区分Ｅ 定時制・通信制の学校	○通信制の充実に向けた研究や検討 ・通信制の拠点校(本校)と協力校との体制・仕組みづくりの研究 ・通学できる通信制の在り方の検討 ・通信制の協力校を新設する候補校の選定	○通信制の協力校の設置についての検討・周知・準備 （決定した学校から順次実施）		○通信制の協力校の開設 （決定した学校から順次実施）	○通信制の課題提出・添削指導のデジタル化による学びの充実
	○定時制の配置の在り方や再編の検討 ・地域性や交通インフラ等を考慮した定時制の配置の在り方の検討 ・定時制夜間課程の再編の検討	○定時制の再編等についての検討・周知・準備 （決定した学校から順次実施）		○定時制の再編等の実施 （決定した学校から順次実施）	
	○各地域の定時制・通信制のそれぞれのバランスを考慮した配置の見直し				
区分を超えるもの	○「多様な学び方ができる高等学校(仮)」（全日制・定時制(昼間)・通信制の３課程を併置する学校）を新設する候補校の選定	○「多様な学び方ができる高等学校(仮)」の設置についての検討・周知・準備			

【全区分共通】
- ○高知の自然や文化、人とのかかわりなど、地域資源を生かした教育・体験活動の充実
- ○短期留学やオンライン交流等による国際交流の充実
- ○教育デジタルトランスフォーメーション(DX)や、１人１台タブレット端末の有効な活用の推進
- ○魅力ある授業の展開と、教員がやりがいを持ち楽しくいきいきと教育に携わることができる学校づくり
- ○デジタルの活用等による各高等学校の広報活動の充実や、全国からの生徒募集の拡充
- ○学科改編や区分別、地域別による入学定員の段階的な見直しと、学校の特色や全国からの生徒募集に対応した入試制度の検討

次期計画の名称

◆ 次期計画の名称（案）

（案１）「県立高等学校振興再編計画」
（案２）「第２期県立高等学校再編振興計画」
（案３）「県立高等学校総合整備計画」
（案４）「県立高等学校教育改革推進計画」
（案５）「県立高等学校魅力ある学校づくり推進計画」
（案６）「県立高等学校学校改革プラン」
（案７）「県立高等学校魅力化プラン」

◆【参考】これまでの計画の名称等

年度	計画の名称	実施計画の名称等	
H16～H25	**県立高等学校再編計画**	H16～H19（H15策定）	第１次実施計画
		H20～H22（H18策定）	第２次実施計画
		H23～H25（H21策定）	第３次実施計画
H26～R5	**県立高等学校再編振興計画**	H26～H30（H26策定）	前期実施計画
		H31～R5　（H30策定）	後期実施計画

参考資料等

（このページ以降は参考資料です）

第３回教育委員会協議会（令和６年８月27日）の検討状況

1 次期計画の期間について

令和７年度 ～ 令和14年度（８年間） （前期：Ｒ７～Ｒ10　後期：Ｒ11～Ｒ14）

2 検討スケジュール（案）について

令和６年度末 策定

3 次期計画の目指す姿について

「子どもたち一人一人が夢や希望に向かっていきいきと学ぶ学校」
～ デジタル、グリーン、グローバル、多様性への対応 ～

4 目指す姿を実現するための取組について

（１）学校の魅力化・特色化
（２）スクール・ミッション、スクール・ポリシー等による学校の特色の明確化
（３）これからの社会変化に対応した高校改革（学科・コースの改編等）
（４）入学定員の見直しによる、各高等学校の規模や入学定員に応じた学びへの転換（教育課程の共通化・特色化）
（５）中山間地域等の小規模校は、地元市町村と連携した、地元中学校からの進学者数の増加など、生徒数確保に向けた取組
（６）ＩＣＴの活用による、場所を選ばない学びの実現

5 カテゴリー別の検討について

○ スクール・ミッションに対応したカテゴリ別の協議
○ カテゴリーの区分や、協議の方向性等

Ａ：高知市・南国市の学校　Ｂ：地域の拠点校　Ｃ：中山間地域等の小規模校
Ｄ：産業系の専門高校　Ｅ：定時制・通信制の学校

第３回教育委員会協議会（令和６年８月27日）の振り返り

◆次期計画の目指す姿・それを実現するための取組について

○次期計画では、入学定員の見直しの際、普通科や小規模校以外の学校でも、必要な学級数、統廃合や学科改編を始める基準が明記されている必要がある。また、その基準を、生徒や保護者、地域の方々に根拠とともに示すべきである。
○全国からの生徒募集を積極的に行うシステムを、県教育委員会が財源的な裏付けを持って作ることができないか。
○生徒や地域のニーズ、地域の特性も踏まえ、どのような学科が必要なのか客観的に見ていかなければならない。
○部活動や学校行事なども魅力の一つであり、部活動の重点化、財政的支援、社会人クラブの活用などを県として支援していく必要があるのではないか。
○本県は、ICTを活用して小規模校の学びを充実させてきた。今後さらに何ができるのか、何を解決すれば新たな学びを展開できるのか、事務局から提案して各学校の魅力化・特色化を促進してもらいたい。

◆カテゴリー別の検討について

○高知市・南国市の学校は、一定の学級規模が必要である。一定規模の学校を存続させるという意味で、将来的には統合を検討する必要があるのではないか。
○地域の拠点校や小規模校は、生徒数減少が顕著である。今後、再編を考える際には、学校だけでなく、市町村や居住地域の将来の在り方も考えなければならない。
○小規模校は、地域から協力や支援をいただいており、慎重に議論を進める必要がある。学校統廃合などの検討基準については、市町村からも理解を得られるように、今の段階から話をしていく必要がある。
○学校と地元市町村がアクションプランを策定することは重要である。県が好事例を情報提供するなど、一緒にアクションプランに取り組んでほしい。
○産業系の専門高校は、地域や企業などとつながりを持ちやすく、特化した学びが多い。各学校の取組を磨き上げることで、本県ならではの魅力づくりが進み、他校との差別化も図れるのではないか。
○定時制は、例えば県内で１校となると、広域からの通学が困難となる。そのため、可能な限り全日制に入学させる努力や、通信制のサテライト校を設置するなど、各地域で学べるシステムの構築を前提として統廃合を考えていくことが重要である。
○不登校生徒について、通信制であれば教育を受けられる生徒が一定数いると考えられることから、通信制のニーズを踏まえた積極的な検討が必要ではないか。
○日本語が母語ではない生徒に対し、一人一人への丁寧な対応が求められる。

市町村訪問資料③（県による高等学校と市町村との協働に向けた支援）

高等学校の魅力化に向けた支援

【県版地域おこし協力隊事業】

○学校と地域をつなぎ、高等学校の魅力化などの取組を推進する**「高校魅力化コーディネーター」**を各学校に順次配置

　＜配置状況＞ Ｒ６年５月から大方高校で１名勤務開始、Ｒ６年12月から嶺北高校で１名勤務開始予定

【高校魅力化プロモーション事業】

○全国からの生徒募集を進め、多様な価値観を持つ生徒同士の交流や、生徒が地域で活動することによる地域活性化の取組を推進

○県外から生徒が入学をしてくることで、**経済波及効果（１人当たり約160万円／年）**が見込まれる

○学校の魅力を全国に発信し、県外生徒の確保につなげる**「地域みらい留学」**の参加費用について、県が半額負担

　※R6年度は１校あたり1,155千円のうち、県が577,500円負担　（R7年度は参加費用の値上げがある見込み）

　（費用内訳）　参加費用（合同説明会１回分含む）：880千円　合同説明会１回追加分：275千円

○「地域みらい留学」にR6年度は６校が参加（室戸高校、嶺北高校、檮原高校、四万十高校、大方高校、西土佐分校）

○「地域みらい留学」参加校へ、生徒、保護者が学校見学を行うためのバスツアーを実施　（R7年度は交通費助成を検討）

○「地域みらい留学」による県外からの入学者は、R1～R6年度の累計で93名

高知県人口減少対策総合交付金による支援

○高知県人口減少対策総合交付金として、R6～Ｒ９年度の４年間、市町村が地域の実情に合わせて実施する人口減少対策について支援

※所管は中山間地域対策課

Ⅰ．基本配分型＜ソフト＞	Ⅱ．連携加算型（手挙げ）	
	①連携加算型＜ソフト＞ 交付率：原則２/３	②連携加算型＜ハード＞ 交付率：原則１/２
・人口割、均等割等により、全ての市町村に配分 **（300～7,500万円程度／年）** ・交付対象事業に該当すれば市町村の裁量で活用可	・１市町村あたりの交付上限額（ハードの交付額はⅡの50%未満） **人口１万人未満：5,000万円** **人口１万人以上：１億円** ４年間（Ｒ６～Ｒ９）通算 ・県の掲げる目標の達成につながる取組であって、次のＡ又はＢに該当する事業 Ａ：県が直接実施する取組と連携することでさらなる相乗効果が期待される事業 Ｂ：市町村が創意工夫を凝らして独自に実施する先駆的事業	

＜交付金を活用した高校魅力化の取組例＞

- **寮機能を備えた交流施設の整備**
- **入寮生徒と地域住民との交流イベントの開催**
- **入寮費の補助**
- **県外生徒の事前学校見学時の交通費補助**

○教育振興施設整備事業費交付金事業相当分を交付上限額に別枠で加算できる特例制度あり

○**県外生徒向けの寮機能を持たせた地域の交流施設の整備や地域みらい留学の参加費用にかかる市町村負担分への充当**に活用

【再掲】国の動向

◎ 「令和の日本型学校教育」の構築を目指して（令和３年１月　中央教育審議会答申）

◆ 急激に変化する時代の中で育むべき資質・能力

一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが必要

◆ 2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿

○ **個別最適な学び**
「指導の個別化」と「学習の個性化」

○ **協働的な学び**
「個別最適な学び」が「孤立した学び」に陥らないよう、探究的な学習や体験活動等を通じ、子供同士で、あるいは多様な他者と協働しながら、「協働的な学び」を充実

◆「令和の日本型学校教育」の構築に向けた今後の方向性

全ての子供たちの知・徳・体を一体的に育むため、これまで日本型学校教育が果たしてきた、
○ **学習機会と学力の保障**
○ **社会の形成者としての全人的な発達・成長の保障**
○ **安全安心な居場所・セーフティネットとしての身体的、精神的な健康の保障**
を学校教育の本質的な役割として重視し、継承

◆ 新時代に対応した高等学校教育等の在り方

○ 高校生の学習意欲を喚起し、可能性及び能力を最大限に伸長するための**特色化・魅力化**
○ 定時制・通信制課程における**多様な学習ニーズへの対応と質保証**
○ STEAM教育等の**教科等横断的な学習の推進による資質・能力の育成**

◎ 高等学校教育の在り方ワーキンググループ中間まとめ（令和５年８月　中央教育審議会初等中等教育分科会）

◆ これからの高等学校の在り方に係る基本的な考え方

高校教育の実態は地域・学校により非常に多様な状況。

○ 生徒一人一人の個性や実情に応じて多様な可能性を伸ばす「**多様性への対応**」
○ 全ての生徒が必要な資質・能力を共通して身に付けられるようにする「**共通性の確保**」

を併せて進めることが必要。

◆ 少子化が加速する地域における高等学校教育の在り方

○ 同時双方向型の**遠隔授業やオンデマンド型の学習を可能とする通信教育の活用、学校間連携の推進**が必要。
○ 生徒の教育条件の改善という視点が大切。
スクール・ミッションを実現できているかどうかや、生徒のニーズ、希望する進路等も踏まえ、スクール・ポリシーを検討。**生徒が行きたいと思える学校づくり、特色化・魅力化**を進め、生徒の学習意欲を高めていくことが必要。
○ 小規模校は配置教職員数が限られるため、**地域との協働や他校との連携**を行い、生徒が地域に根差した学校で成長できるよう、コミュニティ・スクールの導入やコーディネーター等の専門的な人材配置など、体制・環境を整備していくことが必要。

◆ 全日制・定時制・通信制の望ましい在り方

○ いつでも、どこでも、どのようにでも学ぶことが等しく認められるように、**生徒の状況に応じた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な実現**が重要。
○ **全日制・定時制**において、**多様な生徒が現籍校での学びを継続しながら、多様な学びを実現して卒業**できるよう、支援の充実、入学者選抜における適切な評価、履修・修得の柔軟な認定、通信教育の活用、学びの多様化学校の設置や校内教育支援センターの設置促進、学校間連携等の促進、ICT活用の体制・環境整備などを考えていくことが重要。
○ **通信制課程**に多様な課題を抱える生徒が多く在籍していることを踏まえ、**必要な支援体制を整える**とともに、**生徒が人間関係を築きながら、自分のよさや可能性を認識し、多様な人々と協働する機会**を充実させていくことが重要。
○ **公立通信制**は生徒数が減少傾向にあるが、特に経済的な面にも課題を抱える生徒にとって重要な教育機関であり、**一層の魅力向上・機能強化を図る**ことが必要。

【再掲】本県の動向

◎　第３期教育等の振興に関する施策の大綱及び第４期高知県教育振興基本計画

◆　基本理念（目指す人間像）

○　学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人
○　郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人
○　多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人

※　目指す人間像（基本理念）を実現することで、個人が持続的に幸せを感じ、また、地域 や社会もよい状態が続く「ウェルビーイング（Well-being）」の実現にもつながる

◆ 目指す人間像を実現するための基本目標

○　確かな学力の育成と、自己の将来とのつながりを見通した学びの展開
○　健やかな体の育成と、基本的な生活習慣の定着
○　豊かな心の育成と、多様性・包摂性を尊重する教育の推進

◎　デジタル化、グリーン化、グローバル化の進展（県の関係施策）

◆　デジタル化

○　１人１台端末等のＩＣＴ機器を活用した個別最適・協働的な学習・指導の実現
○　デジタル社会、Society5.0を見据えた子どもたちに必要な資質・能力の育成
○　デジタル・ＩＣＴを活用し、多様な状況にある子どもたちに寄り添った教育・支援を展開
○　デジタル化による業務の効率化・負担軽減等を通じて学校の「働き方改革」を推進

◆　グリーン化

○　学校施設の省エネルギー化、環境負荷への軽減
○　豊かな自然資源等も生かした環境教育・体験活動の促進

◆　グローバル化

○　外国人児童生徒や外国にルーツを有する若者等への教育機会の確保
○　グローバル社会で活躍できる人材を育成

◎　高知県中山間地域再興ビジョン（R6～R15）

- 中山間地域を再興し、県土の持続的な発展を目指す
- 目指す姿の中心「若者の人口増加」
  → 少子化対策と一体となった新たな中山間対策を推進
  柱１：「くらし」を支える
  柱２：「活力」を生む
  柱３：「しごと」を生み出す

◆　10年後の数値目標

○　若者のうち、減少、流出の著しい34歳以下の人口について、中山間地域の全ての市町村で令和４年よりも増加を目指す
○　出生数について、中山間地域の全ての市町村で令和４年よりも増加を目指す

◆　県教委の取組と目標

○　全国生徒募集の拡大による県外生徒数の増加（R5入学：30人 → R9：70人）
○　中山間地域の高等学校における地元中学校からの進学割合の増加
（R5入学：平均31.6% → R15入学：平均50.0%）

「県立高等学校再編振興計画」（H26～R５）の主な取組と総括、県立高等学校の現状と課題 等

「県立高等学校再編振興計画」（H26～R５）の主な取組と総括 （◎：成果 ●：課題）

◆ **少子化・南海トラフ地震津波対策による統合等 （36校 → 33校）**
◎ 計画に沿った学校統合や校舎の高台移転整備の進捗

◆ **ICTの活用による教育の充実**
◎ １人１台タブレット端末の整備や遠隔授業の開始等による教育内容の充実
● 遠隔教育のニーズの増加に伴う配信スタジオの確保や複数校同時配信の調整

◆ **中山間地域の学校の振興**
◎ 市町村が主体となり生徒数確保に取り組む学校の増加
● 地元中学校からの進学割合の向上や生徒数確保

◆ **進路希望に応じた指導の充実 （国公立大学への進学者数 R5：651人）**
◎ 進学拠点校以外の学校においても進学者数が増加

県立高等学校の現状と課題

◆ **生徒数の減少**

○ 県全体の人口減少に伴う入学者数の減少及び入学定員との乖離

<県立高等学校の入学者数の現状及び推計>

入学年度	H26	R６	R15(推計)
全日制	4,004人	3,367人	2,553人
多部制単位制	203人	89人	67人
定時制	71人	49人	29人

<令和６年度入学者数等の状況>

	入学定員	入学者数	定員充足率
全日制	4,810人	3,367人	70.0%
多部制単位制	200人	89人	44.5%
定時制	520人	49人	9.4%

※「多部制単位制」とは、定時制の昼間部と夜間部との二部を併置した課程のこと

○ 生徒数の減少に伴う小規模校の増加

◆ **地域や学校によらない多様な教育活動の必要性**

○ 従来の進学拠点校以外の学校においても国公立大学進学者数が増加

（R５は確定値）

卒業年度	R３	R４	R５
４年制大学進学者数	1,611人	1,626人	1,582人
国公立大学進学者数（進学拠点校からの進学者数）	575人（425人）	599人（437人）	651人（468人）

○ 多様な学習ニーズの顕在化

<不登校生徒数（高知県）>（国・公・私立の計）

年度	R１	R２	R３	R４	R５
中学校	783人	861人	1,043人	994人	1,014人
高等学校	353人	303人	303人	292人	258人

<日本語指導が必要な児童生徒の在籍人数>
（公立の小・中・高・特支の計）

年度	H26	H28	H30	R３	R５
高知県	40人	20人	34人	23人	43人
全 国	37,095人	43,947人	51,126人	58,307人	69,123人

◆ **高等学校を取り巻く環境や社会の変化への対応**

○ 全ての高等学校におけるスクール・ポリシーの策定・公表
○ １人１台タブレット端末の整備や遠隔教育の開始等によるデジタル教育の進展
○ 教育デジタルトランスフォーメーション（DX）の推進
○ 高等学校改革の推進（普通科改革、高校コーディネーターの全国的なプラットフォームの構築等）
○ 部活動の在り方の見直し
○ 本県の重要政策の動向
・「高知県元気な未来創造戦略」、「高知県中山間地域再興ビジョン」の策定
・「デジタル化」、「グリーン化」、「グローバル化」の取組

「これからの県立高等学校の在り方に関する報告」（令和６年10月 県立高等学校の在り方検討委員会）

◆ **適正規模・最低規模、適切配置**

○ **規模や配置は、地域や課程等別に検討**

<規模の目安> ※目安とする生徒数を維持できない場合は、市町村等と協議

高知市・南国市		１学年４学級以上（可能であれば６学級）
拠点校・産業系		一定規模
小規模校	全日(本校)・定時(昼)	１学年１学級20人以上
	全日(分校)	１学年１学級10人以上
	定時(夜)	学校全体の生徒数20人以上

<配置>

普通科・総合学科・産業系	将来的に配置を検討
定時制・通信制	必ずしも現在の配置の維持に努める必要はない
併設型中高一貫教育校	現在の配置を維持
連携型中高一貫教育校	新たな配置を検討

◆ **学校の魅力化・特色化、再編・学科改編等**

○ 各高等学校が、**市町村、小中学校、大学、企業、関係機関等とつながり、連携・協働**を進めることが重要
○ 教員が**魅力ある授業**を行うことが最も大切
○ **課程や学科に応じた学校の魅力化・特色化**の推進

普通科	地域とのつながりをもった教育活動の充実、普通科改革の検討
総合学科	系列名の変更、系列のスリム化
産業系	再編・統合や学科改編の検討、教育内容の見直し、小中との連携
定時制 通信制	定時制三部制の導入、定時制から通信制のサテライト校への再編の検討、ICTを活用した環境づくり、ポジティブなイメージの名称への変更
その他	日本語を母語としない子どもの受入れや支援体制の検討、県外生徒の積極的な受入れ、遠隔授業やICTの活用等の拡大

○ 各校の魅力・特色についての**充実した広報活動**の展開

◆ **入試制度の見直し**

○ **生徒の強みや可能性をこれまで以上に多面的・多角的に評価**する、**学校の特色に応じた新たな入試制度の導入**
○ 各校の特色に応じた入試制度を導入する場合は、**入試の時期を早期化**（１月から２月）
○ **不登校生徒や日本語を母語としない生徒等に対応する入試制度の検討**
○ **県外生徒の受入れ**は、**基本的に拡充**

【再掲】 スクール・ミッション

スクール・ミッション、スクール・ポリシーとは

◆ **各高等学校に期待される社会的役割等（スクール・ミッション）の再定義**

高等学校の設置者は、各高等学校やその立地する市町村等と連携しつつ、各高等学校に期待される社会的役割等（いわゆるスクール・ミッション）の再定義を行う。

◆ **高等学校における「三つの方針」（スクール・ポリシー）の策定・公表**

高等学校は、当該学校、全日・定時・通信制の課程又は学科ごとに以下の方針（いわゆるスクール・ポリシー）を定め、公表する。

（ａ） 高等学校学習指導要領に定めるところにより**育成を目指す資質・能力に関する方針**　（グラデュエーション・ポリシー）
（ｂ） **教育課程の編成及び実施に関する方針**　（カリキュラム・ポリシー）
（ｃ） **入学者の受け入れに関する方針**　（アドミッション・ポリシー）

各高等学校のスクール・ミッションの方向性（案）

→ **大きな方向性を定めるために、高等学校をＡ～Ｅの５つのカテゴリーに分類**

A　高知市・南国市の規模の大きな高等学校
多様な教科・科目や部活動等を置くことで、幅広い生徒のニーズに対応する学校

B　地域の拠点となる高等学校
一定の規模とすることで、多くの教科・科目や部活動等を行う環境を整え、各地域の生徒のニーズに対応する学校

C　中山間地域等の高等学校
地域の核として、地元市町村との連携・協働を進め、その地域でしか学ぶことができない特色ある教育活動を展開し、地域の学校としての存在価値を高め、生徒一人一人を輝かせることができる学校

D　産業系の高等学校
社会変化に対応した先端教育や、企業との連携による活動により、本県の産業を支える人材を育成する学校

E　定時制・通信制の高等学校
生徒個々の多様な学びのニーズに応え、生徒の成長を支援する体制を整えた学校

【再掲】検討における高等学校の分類（カテゴリー）と協議の方向性

※ 各高等学校のスクール・ミッションの大きな方向性を踏まえ、５つのカテゴリーに分類して検討する（カテゴリー別の再編基準の設定も検討）

区分	対象校	他の区分と重なる学校等	協議の方向性
A 高知市・南国市の学校（７校）	＜南国市＞岡豊 ＜高知市＞高知東、高知追手前、高知丸の内、高知小津、高知国際、春野	«産業系» 高知農業、高知東工業、高知工業 «定時制・通信制» 高知北	○生徒数が集中しており、多様な教科・科目や様々な教育活動を行うために一定規模が必要 → 進学拠点校やその他の学校における学級規模の目安について整理 ○大学や関係機関との連携による学校の魅力化 ○文化・体育部活動の拠点としての位置付け
B 地域の拠点校（４校）	＜東部＞安芸 ＜中部＞山田【香美・香南】 須崎総合【高吾】 ＜西部＞中村	＊ 安芸、山田、須崎総合は、産業系専門学科を併置	○広域のエリアごとに進学や部活動等の拠点となる学校として一定規模が必要 → 学級規模の目安について整理 ○大学や関係機関との連携による学校の魅力化 ○文化・体育部活動の拠点としての位置付け
C 中山間地域等の小規模校（13校）	＜東部＞室戸 ＜中部＞城山、嶺北、吾北分校、高岡、佐川、窪川、檮原、四万十 ＜西部＞大方、西土佐分校、宿毛、清水	«定時制・通信制» 中芸	○地域と一体となった学校の魅力化・特色化 ○県の方針（ビジョン）と歩調を合わせた振興 ○生徒数の確保に向けた対策 → 県外生徒を含む生徒数の目標値や、地元中学校からの進学割合を、学校ごとに設定 → 学校と地元市町村がアクションプラン策定
D 産業系の専門高校（７校）	＜農業＞高知農業、幡多農業 ＜工業＞高知東工業、高知工業、宿毛工業 ＜商業＞伊野商業 ＜水産＞高知海洋	◇参考：職業教育を主とする専門学科を併置する学校 «工業»安芸、須崎総合 «商業»安芸、山田 «看護»高知東	○これからの社会を見据えた教育内容の見直し → 学科改編を含めて検討 ○高度な学びができる環境づくり ○地元企業との結びつきの強化
E 定時制・通信制の学校（12校）	＜定時制＞ 【２部制(昼・夜)】中芸、高知北 【全日制との併置】室戸、山田、高知東工業、高知工業、高岡、須崎総合、佐川、大方、宿毛、清水 ＜通信制＞高知北、大方		○多様な学習ニーズへの対応を踏まえた学びの機会の保障 → ＩＣＴ等の活用による新たな定時制・通信制の検討（改編） → 不登校生徒や、様々な背景を持った生徒への柔軟な対応や支援体制

【再掲】 県立高等学校の入学者数の推移等

1　全日制

区分	学校名	学科名	R6 入学定員	R6 学級数	R２～６平均 入学者数	R２～６平均 定員充足率	入学者数 R2	R3	R4	R5	R6
A	岡豊	普通	320	8	293	91.7%	283	301	307	275	301
	高知東	総合	200	5	198	99.0%	200	199	200	200	191
		看護	30	1	26	88.0%	22	26	30	30	24
	高知追手前	普通	280	7	232	82.7%	247	245	231	234	201
	高知丸の内	普通	150	4	147	97.9%	147	147	147	147	146
		音楽	30	1	13	44.7%	12	19	16	12	8
	高知小津	普通	240	6	238	99.0%	240	239	241	228	240
		理数	40	1	32	80.5%	34	35	39	25	28
	高知国際	普通	200	5	200	100.0%	439	200	200	200	201
		国際関係	80	2	75	93.8%	70	78	70	75	82
	春野	総合	160	4	127	79.6%	99	120	141	132	145
B	安芸	普通	120	3	73	60.8%	55	77	78	95	60
		工業	40	1	10	24.0%	4	12	15	10	7
		商業	40	1	19	47.5%	19	13	16	20	27
	山田	普通	80	2	66	82.0%	80	59	71	61	57
		探究	80	2	16	19.8%	16	18	12	9	24
		商業	40	1	25	63.5%	28	28	31	27	13
	須崎総合	普通	120	3	71	59.0%	73	81	58	74	68
		工業	120	3	54	45.3%	60	46	47	50	69
	中村	普通	200	5	164	82.2%	171	153	154	167	177
C	室戸	総合	80	2	32	39.5%	27	22	35	49	25
	城山	普通	80	2	26	32.8%	33	29	20	25	24
	嶺北	普通	80	2	35	44.0%	34	32	42	27	41
	吾北分校	普通	40	1	10	25.0%	10	7	12	11	10
	高岡	普通	80	2	28	35.0%	20	38	29	23	30
	佐川	普通	80	2	34	43.0%	32	36	43	35	26
	窪川	普通	80	2	26	32.3%	14	29	37	22	27
	檮原	普通	80	2	42	52.8%	40	40	39	42	50
	四万十	普通	80	2	20	25.3%	19	20	25	25	12
	大方	普通	80	2	32	39.8%	27	35	23	36	38
	西土佐分校	普通	40	1	6	16.0%	6	7	7	8	4
	宿毛	総合	120	3	64	53.3%	59	56	77	62	66
	清水	普通	80	2	35	43.8%	35	27	49	22	42
D	高知農業	農業	240	6	179	74.5%	188	157	163	178	208
	高知東工業	工業	160	4	93	57.9%	99	90	87	89	98
	高知工業	工業	280	7	271	96.7%	250	280	272	274	278
	伊野商業	商業	160	4	114	71.4%	132	112	111	108	108
	高知海洋	水産	80	2	36	45.5%	42	45	36	30	29
	幡多農業	農業	160	4	83	51.8%	86	104	74	70	80
	宿毛工業	工業	160	4	101	63.0%	96	110	108	88	102
計 （県立）			4,810	121	3,346	69.9%	3,548	3,372	3,393	3,295	3,367

2　定時制

区分	学校名	学科名	R6 入学定員	R6 学級数	R２～６平均 入学者数	R２～６平均 定員充足率	入学者数 R2	R3	R4	R5	R6
E	中芸	普通(昼間)	40	1	13	32.5%	13	15	15	9	13
		普通(夜間)	40	1	4	9.5%	4	1	4	6	4
	高知北	普通(昼間)	80	2	61	76.3%	71	63	68	50	53
		普通(夜間)	40	1	10	25.5%	6	7	9	10	19
	室戸	普通	40	1	3	7.0%	1	5	0	3	5
	山田	普通	40	1	6	14.5%	2	6	8	4	9
	高知東工業	工業	40	1	3	8.5%	4	2	2	2	7
	高知工業	工業	160	4	7	4.4%	8	5	8	8	6
	高岡	普通	40	1	4	11.0%	7	5	2	5	3
	須崎総合	普通	40	1	4	10.0%	3	3	5	5	4
	佐川	普通	40	1	4	10.0%	8	2	3	4	3
	大方	普通	40	1	3	7.0%	1	3	3	3	4
	宿毛	普通	40	1	3	7.5%	3	2	2	4	4
	清水	普通	40	1	2	6.0%	1	1	5	1	4
計 （県立）			720	18	127	17.7%	132	120	134	114	138

3　通信制

区分	学校名	学科名	生　徒　数 （5月1日現在） R2	R3	R4	R5	R6
E	高知北	普通	324	301	311	310	297
	大方	普通	77	65	61	78	87
計 （県立）			401	366	372	388	384

※ R２～４の安芸
　安芸（普通：定員120）と安芸桜ケ丘（工業：定員40、商業：定員40）の計
※ R２の高知国際
　高知南（普通：定員200、国際関係：定員40）と高知西（普通：定員240、外国語：定員40）の計
※ [色塗り] ・・・・・・定員充足率50%未満

高等学校における単位の修得等①（卒業までに修得すべき単位数、課程別の授業時数等）

◆ 全日制・定時制・通信制の教育課程の編成における共通的事項

卒業までに修得すべき単位数	74単位以上

※ 全日制・定時制
1単位 ＝ 50分（1単位時間）× 35単位時間

◆ 全日制・定時制・通信制の課程における修業年限や授業時数等

課程	修業年限	授業時数等	
全日制	3年	**標準 ・・・ 週 30単位時間 × 年 35週** ※ 週当たりの授業時数は、必要がある場合には増加することができる	〔例〕1日6時間授業の場合 年間 29単位 × 3年間 ＝ 87単位
定時制	3年以上	**次のことについて、生徒の勤労状況と地域の諸事情等を考慮して、適切に定める** ○ **授業日数の季節的配分** ○ **週又は1日当たりの授業時数**	〔例〕中芸（昼間部） 年間 30単位 × 3年間 ＝ 90単位 〔例〕佐川（夜間部） 年間 19単位 × 4年間 ＝ 76単位
通信制	3年以上	**教育は、次の教育方法により行う** ○ **添削指導** ○ **面接指導** ○ **試験** （○ ラジオ・テレビ放送その他の多様なメディアを利用した指導等） ※ 全日制・定時制の課程におけるような授業は、原則として行われない	〔例〕高知北 ・週1～2日登校（水・日曜日） ・1日当たりの面接時間1～7単位時間

三年修業制（いわゆる「三修制」）　※ 三修制は、現在の定時制においても実施されている

修業年限が3年を超える課程（〔例〕定時制夜間部）においても、「学校外における学修等の単位認定」等により、3年間で卒業することが可能となること

〔例〕○ 在籍する定時制において、1日当たり4時間授業 → 年間 19単位 × 3年間 ＝ 57単位
　　○「学校外における学修等の単位認定」により、3年間で17単位以上を履修・修得 → 57単位 ＋ 17単位以上 ＝ 74単位以上

高等学校における単位の修得等②（学校外における学修等の単位認定）

◆【参考】学校外における学修等の単位認定（主な制度の概要）

項　目	学修の概要	単位認定の概要
① 海外留学	○ 外国の高等学校における履修	→ 自校における履修とみなす（36単位まで）
② 学校間連携	○ 他の高等学校で、自校には設けられていない専門教科・科目や、他校の学校設定教科・科目の単位を修得 ※ 自校の全日制と定時制又は通信制との間において相互に併修する場合についても適用	→ 自校の定めた卒業に必要な単位数のうちに加えることができる（②～⑤を合わせて36単位まで）
③ 大学、高等専門学校又は専修学校等における学修	○ 大学、高等専門学校若しくは専修学校における学修 ○ 大学、公民館その他の社会教育施設において開設する講座等における学修	→ 自校における科目の履修とみなす（②～⑤を合わせて36単位まで）
④ 技能審査の成果	○ 文部科学大臣が認可した技能審査など一定の要件を満たす知識及び技能の審査の成果に係る学修 〔例〕実用英語技能検定、簿記検定、ＴＯＥＦＬ	→ 自校における科目の履修とみなす（②～⑤を合わせて36単位まで）
⑤ ボランティア活動等	○ 学校外におけるボランティア活動、就業体験活動、スポーツ又は文化に関する活動に係る学修で一定の要件を満たすもの 〔例〕・社会福祉施設等におけるボランティア活動 ・企業、工場や農家等における就業体験活動 ・各種のスポーツ活動や文化に関する活動において顕著な成績をあげた場合	→ 自校における科目の履修とみなす（②～⑤を合わせて36単位まで）
⑥ 高等学校卒業程度認定試験の合格科目	○ 高等学校卒業程度認定試験の合格科目に係る学修	→ 自校における科目の履修とみなす
⑦ 定時制課程及び通信制課程の併修	○ 通信制の生徒が、自校の定時制、他の高等学校の定時制、通信制において、一部の科目の単位を修得 ○ 定時制の生徒が、自校の通信制、他の高等学校の通信制において、一部の科目の単位を修得	→ 自校の定めた卒業に必要な単位数のうちに加えることができる（単位認定の上限なし）

高等学校における単位の修得等③（通信制の課程の概要）

◆ 通信制の課程における教育課程

教育方法は、添削指導、面接指導、試験による（ラジオ・テレビ放送その他の多様なメディアを利用した指導等の方法を加えることができる）
（全日制・定時制の課程におけるような授業は、原則として行われない）

※ **その他の多様なメディア**
インターネット、通信衛星等を用いることにより、文字、音声、静止画、動画等の多様な情報を一体的に扱うもの

◆ 添削指導及び面接指導の概要

通信制においては、自学自習による添削指導と、個別指導を重視した面接指導が、基幹的な部分を成す
（全日制・定時制の課程における授業に相当する）

添　削　指　導	面　接　指　導
①【教員】添削課題（レポートやワークシート等）を課す ↓ ②【生徒】自学自習により、添削課題を提出する ↓ ③【教員】添削指導を行う ・生徒一人一人の到達度に応じた解説や、生徒が自学自習を進めていくうえでのアドバイス等を記載する ※ 添削課題として、マークシート形式のように機械的に採点ができるような課題や、択一式の問題のみで構成される課題は不適切 ※ 生徒から添削指導等についての質問を受け付け、速やかに回答できる仕組みが必要	①【生徒】自学自習の過程において、登校し、面接指導を受ける ②【教員】面接指導を行う ・自宅学習に必要な基礎的・基本的な学習知識について指導する ・添削指導を通して明らかとなった学習上の課題を十分考慮し、その後の自宅学習への示唆を与える ※ 同時に面接指導を受ける生徒数は、少人数とすることが基本（40人を超えてはならない） ※ ラジオ・テレビ放送その他の多様なメディアを利用して行う学習により、面接指導時間数の免除が可能 ※ 協力校において面接指導を実施する場合は、生徒の履修状況の十分な把握が必要

◆ 各教科・科目の添削指導の回数及び面接指導の単位時間数の標準（１単位当たり）

※ １単位時間 ＝ 50分

各　教　科　・　科　目	添削指導（回）	面接指導（単位時間）
国語、**地理歴史**、**公民**及び**数学**に属する科目	3	1
理科に属する科目	3	4
保健体育に属する科目のうち「**体育**」	1	5
保健体育に属する科目のうち「**保健**」	3	1
芸術及び**外国語**に属する科目	3	4
家庭及び**情報**に属する科目並びに**専門教科**・科目	各教科・科目の必要に応じて２～３	各教科・科目の必要に応じて２～８
学校設定教科に関する科目のうち専門教科・科目以外のもの	１以上	１以上
理数に属する科目及び**総合的な探究の時間**	１以上	１以上

※ **特別活動**は、ホームルーム活動を含めて、卒業までに30単位時間以上

高等学校における単位の修得等④（全日制・定時制の課程の学習例）

◆ 全日制・定時制の課程の学習時間等の例

＜全日制の授業時間等の例＞

時限	月	火	水	木	金
1	授業	授業	授業	授業	授業
2	授業	授業	授業	授業	授業
3	授業	授業	授業	授業	授業
4	授業	授業	授業	授業	授業
5	授業	授業	授業	授業	授業
6	授業	授業	ホームルーム活動	授業	授業

〔例〕
年間 29単位 × **３年間** ＝ **87単位**

＜定時制の授業時間等の例①＞

時限	月	火	水	木	金
1	授業	授業	授業	授業	授業
2	授業	授業	授業	授業	授業
3	授業	授業	授業	授業	授業
4	授業	授業	授業	授業	授業
5	授業	授業	授業	授業	授業
6	―	―	ホームルーム活動	―	―

〔例〕
年間 25単位 × **３年間** ＝ **75単位**

＜定時制の授業時間等の例②＞

時限	月	火	水	木	金
1	授業	授業	授業	授業	授業
2	授業	授業	授業	授業	授業
3	授業	授業	授業	授業	授業
4	授業	授業	ホームルーム活動	授業	授業

〔例〕
年間 19単位 × **４年間** ＝ **76単位**

＜定時制の授業時間等の例③＞

時限	月	火	水	木	金
1	授業	授業	授業	授業	授業
2	授業	授業	授業	授業	授業
3	授業	授業	授業	授業	授業
4	授業	授業	ホームルーム活動	授業	授業

上記の授業時間外に、
「学校外における学修等の単位認定」
に係る学習に各自で取り組む

〔例〕
・年間 19単位 × **３年間** ＝ 57単位
・「学校外における学修等の単位認定」
　３年間　計17単位

→ 57単位 ＋ 17単位 ＝ **74単位**

高等学校における単位の修得等⑤（通信制の課程の学習例）

◆ 通信制の課程の学習時間等の例

＜通信制の１年次の添削指導の回数及び面接指導の単位時間数の例＞

教 科	科 目	単 位 数	添削指導（回）	面接指導（単位時間）
国語	現代の国語	2	6	2
	言語文化	2	6	2
地理歴史	地理総合	2	6	2
公民	公共	2	6	2
数学	数学Ⅰ	3	9	3
理科	科学と人間生活	2	6	8
保健体育	体育	2（７単位を分割履修）	2	10
	保健	1（２単位を分割履修）	3	1
芸術	書道Ⅰ	2	6	8
外国語	英語コミュニケーションⅠ	3	9	12
家庭	家庭基礎	2	4～6	4～16
情報	情報Ⅰ	2	4～6	4～16
計		25	67～71	58～82

〔例〕
年間 25単位 × **３年間** ＝ **75単位**

＜通信制の某月の学習の例＞

【 第１週 】
◇ 面接指導（登校）

時限	月	火	水	木	金
1					
2					
3					体育
4					
5					書道Ⅰ
6					ホームルーム活動

◇ 添削課題（提出）
- 科学と人間生活（ワークシート）
- 家庭基礎（レポート）

【 第２週 】
◇ 面接指導（登校）

時限	月	火	水	木	金
1					
2					
3					科学と人間
4					家庭基礎
5					
6					

◇ 添削課題（提出）
- 英語コミュニケーションⅠ（ワークシート）
- 言語文化（レポート）
- 情報Ⅰ（成果物）

【 第３週 】
◇ 面接指導（登校）

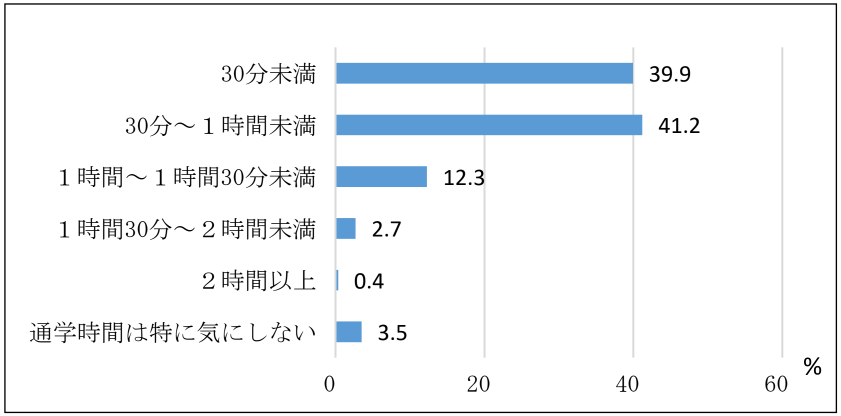
時限	月	火	水	木	金
1					
2		英語ｺﾐｭⅠ			
3					
4		言語文化			
5		情報Ⅰ			
6					

【 第４週 】
◇ 試験（登校）

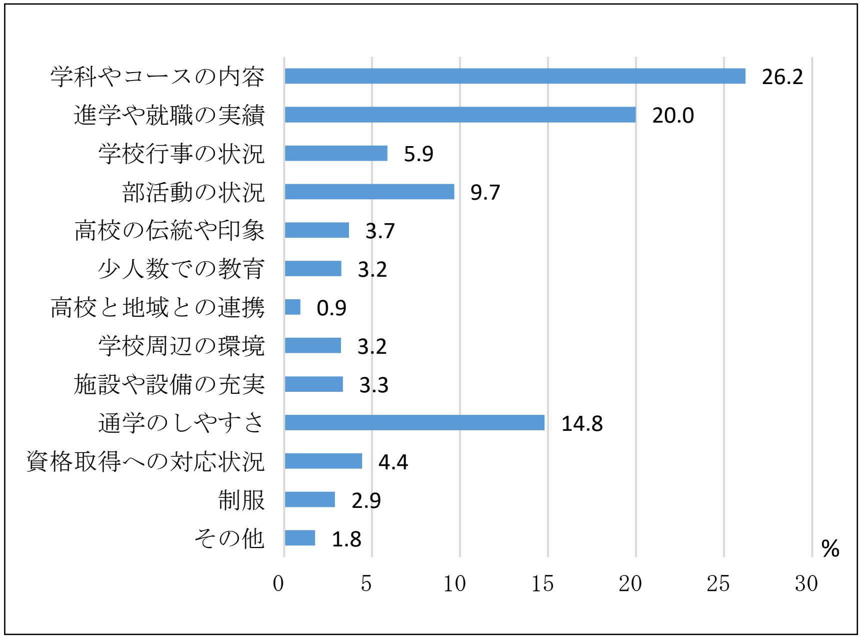
時限	月	火	水	木	金
1					
2		数学Ⅰ			
3		科学と人間			
4					
5		言語文化			
6					

県立高校生（全日制･定時制昼間部）：　回答 7,961人

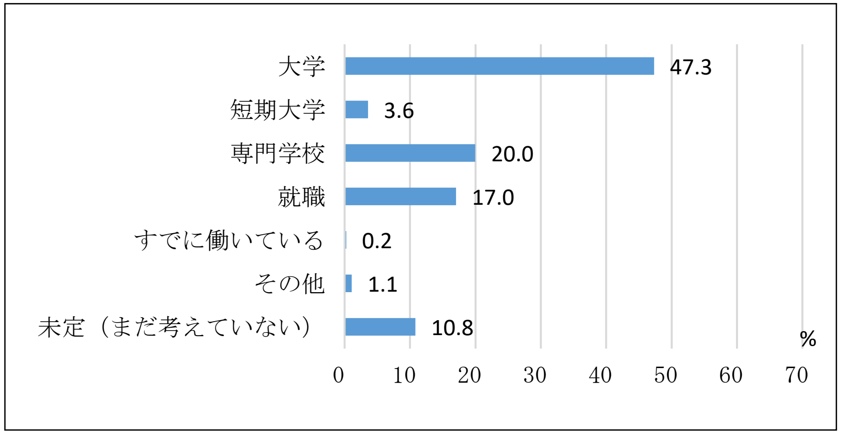
設問４　あなたは、高校までの通学時間（片道）は、どのくらいまでなら可能であると考えていますか。次の中から１つ選んでください。



設問６　あなたが進学する高校を選ぶとき、重視したことは何ですか。次の中から２つまで選んでください。



設問11　あなたは高校卒業後の進路をどのように考えていますか。自分の考えに最も近いものを１つ選んでください。



【参考資料】これまでの再編振興計画の主な内容等

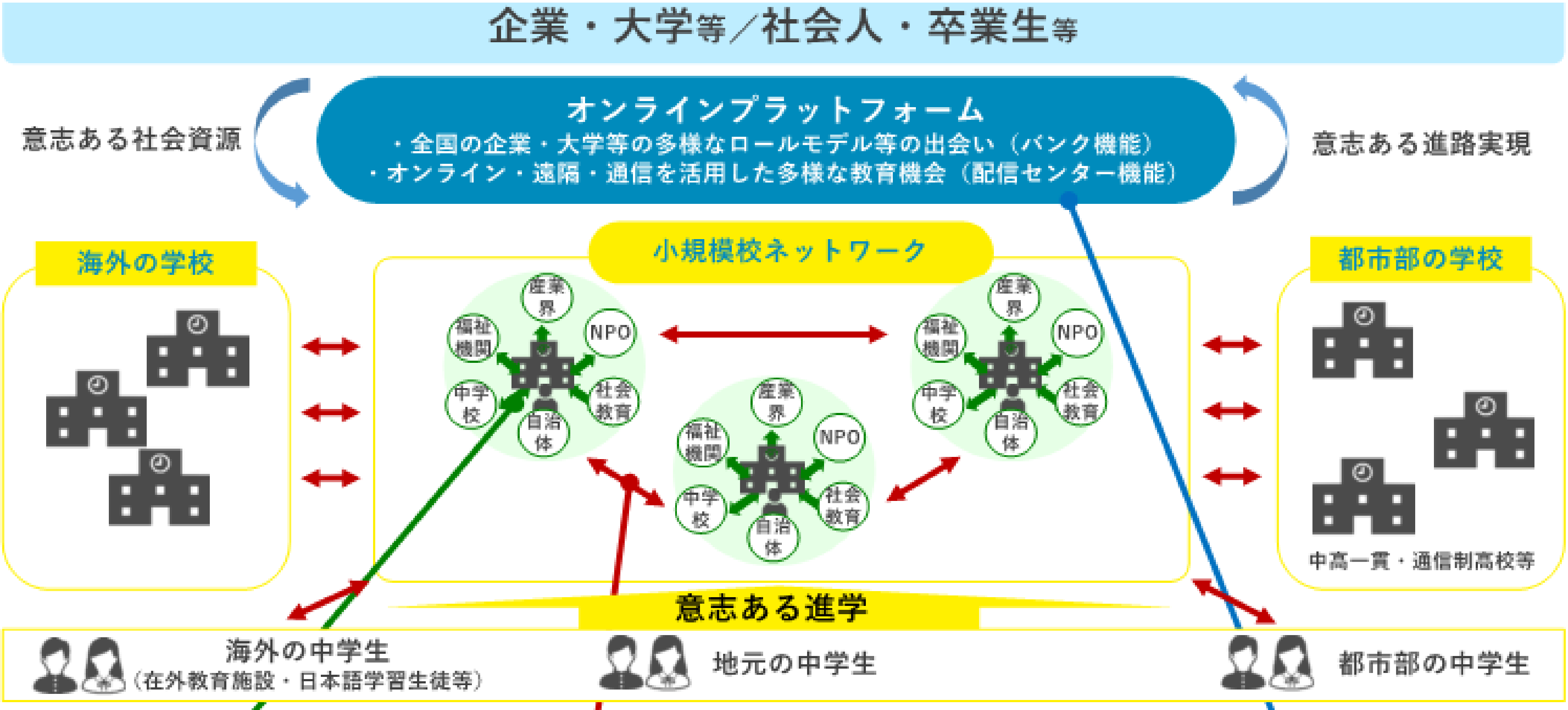
年度	計画の名称	実施計画の名称等		主な内容
H16～H25	**県立高等学校再編計画**	H16～H19 (H15策定)	第１次実施計画	○**中芸** 〔全〕普通科、〔定〕普通科 →〔多部制単位制：昼間部・夜間部〕普通科 ○**高知丸の内** 〔全〕普通科、家政科、音楽科（いずれも学年制） → 男女共学化、家政科の募集停止、普通科を単位制へ ○**高知園芸** 〔全〕農業 ４科 → 春野〔全〕総合学科 ○**久礼分校** 〔全〕家政科 → 募集停止 ○**大方商業** 〔全〕商業科、情報科 →〔多部制単位制：昼間部・夜間部〕普通科、〔通〕普通科
		H20～H22 (H18策定)	第２次実施計画	○**大栃** 〔全〕普通科 → 募集停止、山田に統合 ○**仁淀** 〔全〕普通科 → 募集停止、佐川に統合 ○**窪川** →〔定〕普通科 募集停止
		H23～H25 (H21策定)	第３次実施計画	○**大月分校** 〔全〕普通科 → 募集停止 ○**伊野商業** 〔全〕商業 ５科（学年制） →〔全〕キャリアビジネス科（単位制）
H26～R5	**県立高等学校再編振興計画**	H26～H30 (H26策定)	前期実施計画	○**高知南** 〔全〕普通科、国際科 ○**高知西** 〔全〕普通科、英語科 → 統合 → 高知国際〔全〕普通科、グローバル科 ○**須崎工業** 〔全〕工業 ３科６専攻 ○**須崎** 〔全〕普通科、〔定〕普通科 → 統合 → 須崎総合〔全〕普通科、工業 ３科６専攻、〔定〕普通科
		H31～R5 (H30策定)	後期実施計画	○**安芸中・高** 〔全〕普通科 ○**安芸桜ケ丘** 〔全〕工業 １科２専攻、商業科 → 統合 → 安芸中・高〔全〕普通科、工業 １科２専攻、商業科

【参考資料】中国・四国地方の定時制・通信制の県立高等学校（令和６年度入学者募集による）

県名	定 時 制		通 信 制	
	学校数	学校名等	学校数	学校名等
鳥取県	4	鳥取緑風（総合：午前・午後・夜間）、倉吉東（普）、米子東（普）、米子白鳳（総合：午前・午後）	2	鳥取緑風（普）、米子白鳳（普）
島根県	3	松江工業（機械、電気、建築）、宍道（普：午前・午後・夜間）、浜田（普：昼間・夜間）	2	宍道（普）、浜田（普）
岡山県	1	烏城（普：昼間・夜間）	1	岡山操山（普）
広島県	14	可部（普）、呉工業（機械、電気、キャリアデザイン）、三原（普：午前・夜間）、広島県尾道南（普）、因島（普）、福山誠之館（普）、福山葦陽（普：午前）、松永（普）、芦品まなび学園（普：午前・午後・夜間）、福山工業（機械、電気）、三次（普）、賀茂（普）、廿日市（普）、宮島工業（機械）	1	東（普）
山口県	7	岩国商業［東分校］（普：昼間・夜間）、下松工業（機械）、徳山（普）、山口松風館（普：午前・午後・夜間）、宇部中央（普）、小野田工業（機械）、下関双葉（総合、昼間・夜間）	1	山口松風館（普(一般、衛生看護)） ※ 衛生看護コースは、県立高等学校と技能連携している准看護師養成施設への在学などの特定の条件が必要
徳島県	6	徳島科学技術（機械類、工業技術類）、徳島中央（普：午前・午後・夜間）、富岡東（普）、鳴門（普）、名西（普）、池田（普）	1	徳島中央（普、衛生看護） ※ 衛生看護科は、徳島県立総合看護学校准看護学科に入学又は入学見込みの者が対象
香川県	9	小豆島中央（普）、三本松（普）、三木（普）、高松（普）、高松工芸（機械、建築、インテリア）、高松商業（商業）、丸亀（普）、多度津（機械、電気）、観音寺第一（普）	2	高松（普）、丸亀（普）
愛媛県	10	川之江（普）、新居浜西（普）、西条（普）、今治西（普）、松山南（普）、松山工業（機械、建築）、松山商業（商業）、大洲［肱川分校］（普：昼間）、八幡浜（普）、宇和島東（普）	1	松山東（普）
高知県	12	室戸（普）、中芸（普：昼間・夜間）、山田（普）、高知東工業（機械）、高知工業（機械、電気、土木、建築）、高知北（普：昼間・夜間）、高岡（普）、須崎総合（普）、佐川（普）、大方（普）、宿毛（普）、清水（普）	2	高知北（普）、大方（普）

※ 下線部は、定時制三部制の高等学校

（第６回県立高等学校の在り方検討委員会　講師　岩本悠氏の資料より抜粋）



地域・社会資源の活用

現状課題
小さな学校の少ない資源での閉じた教育活動の限界。

目指す姿
コーディネート人材と地域・社会との協働体制により、地域・社会資源（人・物・金など）を獲得し、魅力・特色ある教育環境を実現。

越境・交流の活用

現状課題
多様な文化・価値観を有する他者と関わり協働する機会が少ない。

目指す姿
異なる文化・価値観を有する生徒と学びあう機会や、異なる環境に身を置く異文化・越境体験の機会を保障。

デジタル・ICTの活用

現状課題
教職員数が少なく、多様な科目の提供、習熟度別指導、部活動等の実施に限界。

目指す姿
オンライン・遠隔・通信活用により、多様な科目の提供や専門性の高い指導・習熟度別学習・部活動等の実現。

学校別資料

＜区分Ａ～Ｅ＞

＜区分Ａ＞高知市・南国市の学校
＜区分Ｂ＞地域の拠点校
＜区分Ｃ＞中山間地域等の小規模校
＜区分Ｄ＞産業系の専門高校
＜区分Ｅ＞定時制・通信制の学校

＜区分Ａ＞高知市・南国市の学校（７校）　①岡豊高等学校

学校名	学科名	R6 入学定員	R6 学級数	R２～６平均 入学者数	R２～６平均 定員充足率	入学者数 R2	R3	R4	R5	R6
岡豊	普通	320	8	293	91.7%	283	301	307	275	301

＜内訳＞

学科名	R6 入学定員	R6 学級数	R２～６平均 入学者数	R２～６平均 定員充足率	入学者数 R2	R3	R4	R5	R6
普通	240	6	233	96.9%	227	240	240	219	237
普通（芸術コース）	40	1	26	66.0%	23	26	31	24	28
普通（体育コース）	40	1	34	86.0%	33	35	36	32	36

＜カテゴリー別の方向性＞

○探究的な学びや教科等横断的な学びの充実
○外部機関との連携強化

＜カテゴリー別のスクール・ミッション＞

○スケールメリットを生かして多様な教育課程や部活動の充実を図り、特色ある拠点校として、各分野で活躍する人材を育成する

＜キーワード＞

＃スポーツ拠点　＃体育コース　＃芸術コース　＃DX　＃部活動　＃南国市

＜カテゴリー別の取組内容＞

◆ **学級規模**
- ○ 学級規模の目安は、１学年４～６学級
- ○ 生徒数が３年連続４学級未満となった場合は、再編を進める

◆ **魅力化・特色化**
- ○ 大学や関係機関等との連携の強化
- ○ 文化系・体育系部活動の充実（重点校化）

◆ **再編・学科改編等**
- ○ 各専門学科やコースの在り方の検討

＜基本情報＞（令和６年５月１日現在）

所在地	南国市岡豊町中島511－１
開設・開校等	昭和58年　開設
教育方針等	教育目標：自らの可能性を信じ、あらゆることにチャレンジできる生徒の育成 教育方針：国家及び社会の形成者として、真理と正義を愛し、個人の価値を尊び、勤労と責任を重んじ、自主的精神に満ちた心身ともに健康な人間を育成する。 教育重点目標：１ 礼節を重んじる精神の育成　２ 学力の向上　３ 意欲の育成　４ 部活動の充実
校訓等	校是：学力・人柄・健康
特色 (学習、部活動等)	○普通科におけるコース等の設置 ・「国公立文系」・「私立文系」・「理系」・「ビジネス系」・「生活文化系」の５つの類型 ・「体育」・「芸術（音楽）（美術）（書道）」の２コース ○部活動 ・体育系16部、文化系18部 ・これまでに40回の「日本一」に輝く ・全国・四国大会への出場等：ソフトテニス部、バドミントン部、柔道部、陸上競技部、ボクシング部、バスケットボール部、男子ソフトボール部など
進路状況	大学101人(34.7%)〈内 国公立25人〉、短大20人(6.8%)、 専修学校等125人(42.9%)、 就職33人〈県内25人・県外8人、内 公務員14人〉(11.3%)、その他12人(4.1%)
主な出身中学校	１ 香長中　２ 一宮中　３ 介良中　４ 野市中　５ 鏡野中
通学方法	徒歩12人、自転車594人、鉄道113人、電車9人、その他145人
県外募集・寮	R6入学者数４人、寮なし

<区分A>高知市・南国市の学校（７校）　②高知東高等学校

学校名	学科名	R6 入学定員	R6 学級数	R２～６平均 入学者数	R２～６平均 定員充足率	入学者数 R2	入学者数 R3	入学者数 R4	入学者数 R5	入学者数 R6
高知東	総合	200	5	198	99.0%	200	199	200	200	191
	看護	30	1	26	88.0%	22	26	30	30	24

<カテゴリー別の方向性>
○探究的な学びや教科等横断的な学びの充実
○外部機関との連携強化

<カテゴリー別のスクール・ミッション>
○スケールメリットを生かして多様な教育課程や部活動の充実を図り、特色ある拠点校として、各分野で活躍する人材を育成する

<キーワード>
＃総合学科　＃総合学科は単位制　＃看護科　＃DX　＃レスリング　＃部活動

<カテゴリー別の取組内容>
◆ **学級規模**
- ○ 学級規模の目安は、１学年４～６学級
- ○ 生徒数が３年連続４学級未満となった場合は、再編を進める

◆ **魅力化・特色化**
- ○ 大学や関係機関等との連携の強化
- ○ 文化系・体育系部活動の充実（重点校化）

◆ **再編・学科改編等**
- ○ 総合学科における系列の整理及び系列名の見直し
- ○ 各専門学科やコースの在り方の検討

<基本情報>（令和６年５月１日現在）

所在地	高知市一宮徳谷23番１号
開設・開校等	昭和50年　開校（普通科・衛生看護科）
教育方針等	教育方針：社会の有為な形成者としての資質を目指し、心豊かで、心身ともに健康で、建学の精神「立志」を大切にし、自ら判断して正しく行動できる人間を形成する。 １ 個性の伸長　２ 創造的思考力の育成　３ 自覚と責任感の高揚 ４ 健康と体力の増進　５ 豊かな情操の涵養　６ 人権意識の高揚
校訓等	校訓：建学の精神「立志」
特色（学習、部活動等）	○単位制 ○総合学科（７系列） ①Advanced文系、②Advanced理系、③Business Skill（情報系） ④Global Communication Skill（国際教養）、 ⑤Social Skill文系（保育理美容調理福祉）、⑥Social Skill理系（医療看護）、 ⑦Flexible Future（幅広い進路に対応） ○看護科（専攻科）・・・５年一貫教育 ・看護師国家試験合格率100%を継続中 ○部活動 ・体育系18部、文化系14部 ・全国・四国大会への出場等：水泳部、レスリング部、ハンドボール部、書道部など
進路状況	大学49人(23%)〈内 国公立5人〉、短大7人(3%)、専修学校等104人(49%)、就職県内7人(3%)、就職県外1人(1%)、専攻科24人(11%)、その他19人(9%)
主な出身中学校	１ 一宮中　２ 愛宕中　３ 城東中　４ 城北中　５ 香長中
通学方法	徒歩12人、自転車404人、鉄道238人、バス5人、その他34人
県外募集・寮	なし

＜区分Ａ＞高知市・南国市の学校（７校）　③高知追手前高等学校

学校名	学科名	R6 入学定員	R6 学級数	R２～６平均 入学者数	R２～６平均 定員充足率	入学者数 R2	R3	R4	R5	R6
高知追手前	普通	280	7	232	82.7%	247	245	231	234	201

＜カテゴリー別の方向性＞
○探究的な学びや教科等横断的な学びの充実
○外部機関との連携強化

＜カテゴリー別のスクール・ミッション＞
○スケールメリットを生かして多様な教育課程や部活動の充実を図り、特色ある拠点校として、各分野で活躍する人材を育成する

＜キーワード＞
＃進学拠点　＃難関大学進学　＃部活動　＃レオプロジェクト

＜カテゴリー別の取組内容＞
◆ 学級規模
○ 学級規模の目安は、１学年４～６学級
○ 生徒数が３年連続４学級未満となった場合は、再編を進める
◆ 魅力化・特色化
○ 大学や関係機関等との連携の強化
○ 文化系・体育系部活動の充実（重点校化）

＜基本情報＞（令和６年５月１日現在）

所在地	高知市追手筋２－２－10
開設・開校等	明治11年　高知中学校として独立 昭和24年　高知県立高知追手前高等学校と改称
教育方針等	目指す学校像：志が育つ学校 目指す生徒像：自己と社会との関わりから自らの「志」を見出し、将来にわたって自立的、持続的に、「志」の追求と実現に取り組むことができる生徒
校訓等	校訓：「質実剛健」「文武両道」 レオスピリット：「奮闘努力の精神」
特色（学習、部活動等）	○創立146年の歴史と伝統を有する ○一人ひとりが主体的に考え行動できる力を養うため、３年間の育成プラン（レオプロジェクト）を実施 ○大学等への進学希望者がほぼ100% ○１年次は文理共通で各教科の基礎力を養い、２年次から文系と理系に分かれる ○部活動 ・体育系17部、文化系19部
進路状況	大学213人（89.5%）〈内 国公立151人〉、短大６人（2.5%）、専修学校等４人（1.7%）、就職県内２人（0.8%）、就職県外２人（0.8%）、その他11人（4.7%）
主な出身中学校	１ 附属中　２ 城東中　３ 野市中　４ 香長中　５ 愛宕中
通学方法	徒歩83人、自転車514人、鉄道195人、バス34人、その他119人
県外募集・寮	なし

＜区分Ａ＞高知市・南国市の学校（７校）　④高知丸の内高等学校

学校名	学科名	R6 入学定員	R6 学級数	R２～６平均 入学者数	R２～６平均 定員充足率	入学者数 R2	R3	R4	R5	R6
高知丸の内	普通	150	4	147	97.9%	147	147	147	147	146
	音楽	30	1	13	44.7%	12	19	16	12	8

＜基本情報＞（令和６年５月１日現在）

所在地	高知市丸ノ内２丁目２番40号
開設・開校等	明治20年　高知県最初の女学校である高知県尋常中学校女子部として開校 昭和24年　高知県立高知丸の内高等学校と改称
教育方針等	教育方針： ○社会の形成者として必要な資質を持ち、日常のあらゆる場面での凡事を徹底することによって、心身ともに健康で、豊かな人間性と想像性を備えた人間を育成する。 ○生徒一人ひとりの夢の実現のために、個に応じた支援に努め、充実した学校生活を提供する。
校訓等	校訓：「夢の実現　～Dreams　Come　True～」
特色（学習、部活動等）	○論理的に「聴く」・「書く」・「伝える」論理コミュニケーション力を育成 〇普通科（単位制） ・多くの科目を開設し、少人数の授業を実施することにより、きめ細かな指導が可能 ・高大連携授業や高専連携授業による単位認定が可能 ・慶応義塾大学ＳＦＣとの遠隔授業を実施 〇音楽科（学年制） ・専攻別（声楽・器楽）の実技レッスン、音楽史、音楽理論、ソルフェージュなどの専門科目を設置 ・音楽大学による出張講座や大学訪問（高大連携）、コンクールへの出場等 ・定期演奏会の開催 〇部活動 ・体育系11部、文化系16部 ・全国・四国大会への出場等：カヌー部、女子ソフトボール部など
進路状況	大学81人（50.9%）〈内 国公立32人〉、短大22人（13.8%）、専修学校等42人（26.4%）、就職県内9人（5.7%）〈内 公務員６人〉、その他５人（3.1%）
主な出身中学校	１ 香長中　２ 愛宕中　３ 城北中　４ 城東中　５ 城西中
通学方法	徒歩８人、自転車233人、鉄道108人、バス21人、電車38人、その他54人
県外募集・寮	なし

＜カテゴリー別の方向性＞
○探究的な学びや教科等横断的な学びの充実
○外部機関との連携強化

＜カテゴリー別のスクール・ミッション＞
○スケールメリットを生かして多様な教育課程や部活動の充実を図り、特色ある拠点校として、各分野で活躍する人材を育成する

＜キーワード＞
＃普通科は単位制　＃文化・芸術拠点　＃音楽部　＃部活動
＃グローバル

＜カテゴリー別の取組内容＞
◆ **学級規模**
- ○ 学級規模の目安は、１学年４～６学級
- ○ 生徒数が３年連続４学級未満となった場合は、再編を進める

◆ **魅力化・特色化**
- ○ 大学や関係機関等との連携の強化
- ○ 文化系・体育系部活動の充実（重点校化）

◆ **再編・学科改編等**
- ○ 各専門学科やコースの在り方の検討

＜区分Ａ＞高知市・南国市の学校（７校）　⑤高知小津高等学校

学校名	学科名	R6 入学定員	R6 学級数	Ｒ２～６平均 入学者数	Ｒ２～６平均 定員充足率	入学者数 R2	R3	R4	R5	R6
高知小津	普通	240	6	238	99.0%	240	239	241	228	240
	理数	40	1	32	80.5%	34	35	39	25	28

＜基本情報＞（令和６年５月１日現在）

所在地	高知市城北町１－14
開設・開校等	明治６年　東京日本橋箱崎山内家邸内に海南私塾を開校したことが前身 昭和24年　高知県立高知小津高等学校と改称
教育方針等	教育方針：和して学び自律して歩む 高等学校教育の目的を踏まえ、次の３点を実行できる生徒の育成を目指す。 自律　自分でよく考え、正しく行動する 協同　互いに心をあわせ、協力する 誠実　己にうちかち、誠でつらぬく
校訓等	校訓：自律　協同　誠実
特色 (学習、部活動等)	○創立151年の歴史と伝統をもち、充実した施設設備を有する ○理数科 ・文部科学省の「スーパーサイエンスハイスクール（ＳＳＨ）」の指定を４期連続（Ｈ14～Ｒ３）で受け、大学や研究機関と連携した、新たな理数教育カリキュラムの研究開発を行い、理数系の人材育成に取り組んできた ・Ｒ６からは、さらに５年間の「ＳＳＨ認定枠」の指定を受け、これまでの研究成果を県内の学校に普及 ○部活動 ・体育系21部、文化系19部、同好会３部 ・全国・四国大会への出場等：卓球部、ライフル部など
進路状況	大学222人（81.9%）〈内 国公立118人、私立104人〉、短大12人（4.4%）、専修学校等22人（8.1%）、就職８人（内 県内４人）（3.0%）
主な出身中学校	１ 附属中　２ 香長中　３ 野市中　４ 城東中　５ 一宮中
通学方法	徒歩11人、自転車457人、鉄道263人、電車19人、バス16人、その他28人
県外募集・寮	なし

＜カテゴリー別の方向性＞
- ○探究的な学びや教科等横断的な学びの充実
- ○外部機関との連携強化

＜カテゴリー別のスクール・ミッション＞
- ○スケールメリットを生かして多様な教育課程や部活動の充実を図り、特色ある拠点校として、各分野で活躍する人材を育成する

＜キーワード＞
＃進学拠点　＃理数科　＃探究　＃データサイエンス　＃サッカー　＃部活動

＜カテゴリー別の取組内容＞

◆ **学級規模**
- ○ 学級規模の目安は、１学年４～６学級
- ○ 生徒数が３年連続４学級未満となった場合は、再編を進める

◆ **魅力化・特色化**
- ○ 大学や関係機関等との連携の強化
- ○ 文化系・体育系部活動の充実（重点校化）

◆ **再編・学科改編等**
- ○ 各専門学科やコースの在り方の検討

＜区分Ａ＞高知市・南国市の学校（７校）　⑥高知国際高等学校

学校名	学科名	R6 入学定員	R6 学級数	Ｒ２～６平均 入学者数	Ｒ２～６平均 定員充足率	入学者数 R2	R3	R4	R5	R6
高知国際	普通	200	5	200	100.0%	439	200	200	200	201
	国際関係	80	2	75	93.8%	70	78	70	75	82

＜Ｒ２の内訳＞ ※R2は、高知南と高知西の計

学校名	学科名	R6 入学定員	R6 学級数	Ｒ２～６平均 入学者数	Ｒ２～６平均 定員充足率	入学者数 R2
高知南	普通	200	5	199	99.5%	199
	国際関係	40	1	30	75.0%	30

学校名	学科名	R6 入学定員	R6 学級数	Ｒ２～６平均 入学者数	Ｒ２～６平均 定員充足率	入学者数 R2
高知西	普通	240	6	240	100.0%	240
	外国語	40	1	40	100.0%	40

＜カテゴリー別の方向性＞
- ○探究的な学びや教科等横断的な学びの充実
- ○外部機関との連携強化

＜カテゴリー別のスクール・ミッション＞
- ○スケールメリットを生かして多様な教育課程や部活動の充実を図り、特色ある拠点校として、各分野で活躍する人材を育成する

＜キーワード＞

＃進学拠点　＃グローバル教育　＃国際バカロレア
＃併設型中高一貫教育　＃探究　＃DX　＃部活動

＜カテゴリー別の取組内容＞

◆ **学級規模**
- ○ 学級規模の目安は、１学年４～６学級
- ○ 生徒数が３年連続４学級未満となった場合は、再編を進める

◆ **魅力化・特色化**
- ○ 大学や関係機関等との連携の強化
- ○ 文化系・体育系部活動の充実（重点校化）

◆ **再編・学科改編等**
- ○ 併設型中高一貫教育校の配置の維持
- ○ 各専門学科やコースの在り方の検討

＜基本情報＞（令和６年５月１日現在）

項目	内容
所在地	高知市鴨部２丁目５番70号
開設・開校等	令和３年４月　高知南高等学校と高知西高等学校の統合校として開校
教育方針等	教育目標： グローバル社会で求められる高い志と、資質・能力を育む １ 自ら学び、考える力を身に付け、生涯にわたって学び続ける態度を養う ２ 多様な価値観を尊ぶ精神を持ち、他者とともに生きる態度を養う ３ 豊かな創造性を持ち、未来を切り開く、自主・自立の精神を養う 合言葉：「舞台は、地球。Think Globally,Act Locally」
校訓等	校訓：進取貫徹
特色 （学習、部活動等）	○本県唯一の国際バカロレア認定校（MYP、DP認定） ○普通科、グローバル科（探究コース、ＤＰコース）を設置 ○併設型中高一貫教育校（高知国際中学校　定員80人） ○グローバル教育を教育活動の柱に位置付け、自ら課題を発見し判断する探究型学習や、高度な英語運用能力を養う教育活動を実施 ○部活動 ・体育系20部、文化系13部 ・全国・四国大会への出場等：弓道部、レスリング部、陸上競技部、サッカー部、吹奏楽部など
進路状況	大学220人（83.0%）（内 国公立110人、海外２人）、短大２人、専修学校等28人、就職６人、その他９人
主な出身中学校	１ 高知国際中　２ 高知南中　３ 西部中　４ 高岡中　５ 旭中
通学方法	徒歩21人、自転車511人、鉄道175人、電車65人、バス15人、その他31人
県外募集・寮	なし

＜区分Ａ＞高知市・南国市の学校（７校）　⑦春野高等学校

学校名	学科名	R6 入学定員	R6 学級数	Ｒ２～６平均		入　学　者　数				
				入学者数	定員充足率	R2	R3	R4	R5	R6
春野	総合	160	4	127	79.6%	99	120	141	132	145

＜カテゴリー別の方向性＞
○探究的な学びや教科等横断的な学びの充実
○外部機関との連携強化

＜カテゴリー別のスクール・ミッション＞
○スケールメリットを生かして多様な教育課程や部活動の充実を図り、特色ある拠点校として、各分野で活躍する人材を育成する

＜キーワード＞
＃総合学科　＃単位制　＃園芸　＃部活動

＜カテゴリー別の取組内容＞
◆ **学級規模**
- ○ 学級規模の目安は、１学年４～６学級
- ○ 生徒数が３年連続４学級未満となった場合は、再編を進める

◆ **魅力化・特色化**
- ○ 大学や関係機関等との連携の強化
- ○ 文化系・体育系部活動の充実（重点校化）

◆ **再編・学科改編等**
- ○ 総合学科における系列の整理及び系列名の見直し

＜基本情報＞（令和６年５月１日現在）

所在地	高知市春野町弘岡下3860番地
開設・開校等	明治41年　弘岡実業女学校として開校 平成18年　高知県立春野高等学校と改称
教育方針等	教育方針：総合学科の特性を活かした実践的な学習を通して、生徒一人ひとりの個性と能力の伸長を図り、地域社会の発展に貢献できる人物を育成する。 本年度の教育目標： (1)基礎学力の定着と学力の向上 (2)基本的生活習慣の確立 (3)進路保障
校訓等	校訓：なすことによって学ぶ
特色 (学習、部活動等)	○単位制 ○総合学科（４系列） ①園芸、②食農、③生活クリエイト、④人文 ・農業教育を生かした総合学科（前身が農業高校） ○地域、大学等の連携などをすすめ、幅広い学習活動やさまざまな体験活動を展開 ○高校家庭科技術検定、小型建設機械類運転資格などの取得実績 ○交通安全教育への積極的な取組 ○部活動 ・体育系９部、文化系12部、同好会２部
進路状況	・大学16人（13.9%）、短大９人（7.8%）、専修学校等63人（54.8%）、就職県内25人（21.7%）、就職県外１人（0.9%）、その他１人（0.9%）
主な出身中学校	1 朝倉中　2 西部中　3 高岡中　4 春野中　5 横浜中
通学方法	徒歩２人、自転車378人、バス８人、その他23人
県外募集・寮	なし

<区分B>地域の拠点校（４校）　①安芸高等学校

学校名	学科名	R6 入学定員	R6 学級数	R２～６平均 入学者数	R２～６平均 定員充足率	入学者数 R2	R3	R4	R5	R6
安芸	普通	120	3	73	60.8%	55	77	78	95	60
	工業	40	1	10	24.0%	4	12	15	10	7
	商業	40	1	19	47.5%	19	13	16	20	27

※R２～４は、安芸（普通科）と安芸桜ケ丘（工業科及び商業科）の計

＜工業科の内訳＞

学科名	R6 入学定員	R6 学級数	R２～６平均 入学者数	R２～６平均 定員充足率	入学者数 R2	R3	R4	R5	R6
環境建設科（土木専攻）	20	1	2	10.0%	2	2			
環境建設科（建築専攻）	20		6	30.0%	2	10			
機械土木科（機械専攻）	20	1	6	31.7%			10	6	3
機械土木科（土木専攻）	20		4	21.7%			5	4	4

＜カテゴリー別の方向性＞
○地域の拠点校としての教育内容の充実
○地域等との連携

＜カテゴリー別のスクール・ミッション＞
○地域の進学や部活動の拠点として、中高連携や学科間の横断的な取組により教育内容を充実させ、地域をけん引するリーダーとなる人材を育成する

＜キーワード＞
＃東部地域拠点　＃併設型中高一貫教育　＃３科連携　＃DX　＃陸上　＃安芸市

＜カテゴリー別の取組内容＞
◆ **学級規模**
- ○ 学級規模の目安は、1学年４学級以上
- ○ 生徒数が３年連続４学級未満となった場合は、中山間地域等の小規模校として位置付ける
- ○ 産業系専門学科については、区分Ｄに準ずることとし、各学科・専攻の生徒数が３年連続で入学定員の３分の１未満となった場合は、再編等を進める

◆ **魅力化・特色化**
- ○ 市町村や大学、関係機関等との連携の強化
- ○ 文化系・体育系部活動の精選と充実（重点校化）

◆ **再編・学科改編等**
- ○ 併設型中高一貫教育校の配置の維持

（※県立中学校の在り方については、次期計画期間中に検討）

＜基本情報＞（令和６年５月１日現在）

所在地	安芸市桜ケ丘町784
開設・開校等	令和５年４月　安芸高等学校と安芸桜ケ丘高等学校の統合校として開校
教育方針等	教育方針：１ 真理と正義を愛する。 ２ 勤労と責任を重んじる。 ３ 自他の敬愛と協力を尊ぶ。 ４ 創造性を培い、自主及び自律の精神を養う。 ５ 知性と情操を高め、心身の健康を増進する。 教育目標：１ 自己実現　２ 文武両道　３ 自主自立　４ 地域貢献
校訓等	校訓：「信愛」「誠実」「努力」
特色（学習、部活動等）	○普通科、機械土木科（機械専攻、土木専攻）、ビジネス科を設置 ○併設型中高一貫教育校（県立安芸中学校　定員60人） ○東部地域における「学び」「部活動」「地域」の３つの拠点 ○普通教育と専門教育の強みを生かし、生徒一人一人の進路希望を実現 ○地域課題を探究し、地域をけん引し支えることができる人材を育成 ○部活動 ・体育系12部、文化系11部、同好会２部 ・全国・四国大会への出場等：体操競技部、陸上競技部、書道部、吹奏楽部など
進路状況	普通科：大学51人（72%）〈内 国公立12人〉、短大５人（7%）、専修学校等９人（13%）、就職１人（1%）、その他５人（7%） 専門学科：大学４人（17%）、専修学校等９人（38%）、就職県内９人（38%）、就職県外１人（4%）、その他１人（4%）
主な出身中学校	１ 県立安芸中　２ 清水ケ丘中　３ 市立安芸中　４ 芸西中　５ 室戸中
通学方法	徒歩29人、自転車90人、鉄道105人、バス50人、その他45人
県外募集・寮	なし

＜区分Ｂ＞地域の拠点校（４校）　②山田高等学校

学校名	学科名	R6 入学定員	R6 学級数	Ｒ２～６平均 入学者数	Ｒ２～６平均 定員充足率	入学者数 R2	R3	R4	R5	R6
山田	普通	80	2	66	82.0%	80	59	71	61	57
	探究	80	2	16	19.8%	16	18	12	9	24
	商業	40	1	25	63.5%	28	28	31	27	13

＜カテゴリー別の方向性＞

○地域の拠点校としての教育内容の充実

○地域等との連携

＜カテゴリー別のスクール・ミッション＞

○地域の進学や部活動の拠点として、中高連携や学科間の横断的な取組により教育内容を充実させ、地域をけん引するリーダーとなる人材を育成する

＜キーワード＞

＃香美・香南地域拠点　＃探究　＃起業家教育　＃香美市

＜カテゴリー別の取組内容＞

◆ **学級規模**
- ○ 学級規模の目安は、１学年４学級以上
- ○ 生徒数が３年連続４学級未満となった場合は、中山間地域等の小規模校として位置付ける
- ○ 産業系専門学科については、区分Ｄに準ずることとし、各学科・専攻の生徒数が３年連続で入学定員の３分の１未満となった場合は、再編等を進める

◆ **魅力化・特色化**
- ○ 市町村や大学、関係機関等との連携の強化
- ○ 文化系・体育系部活動の精選と充実（重点校化）

＜基本情報＞（令和６年５月１日現在）

項目	内容
所在地	香美市土佐山田町旭町３丁目１－３
開設・開校等	昭和16年　高知県立山田高等女学校として開校 昭和23年　学制改革により高知県立山田高等学校と改称
教育方針等	教育方針：高い志を掲げ郷土への愛着と誇りを持つとともに柔軟な国際感覚と社会に貢献する気概と実践力を備えた、知・徳・体の調和の取れた人物を育成する。
校訓等	校訓：誠実にあれ　誇らかにあれ　貫きてあれ
特色 (学習、部活動等)	○普通科、グローバル探究科、ビジネス探究科を設置 ○「探究」を基礎から学び、深く物事を考える力、考えたことを結びつける力等を育てる ○企業や官公庁と協働しながら課題探究学習を実践し、市や県への政策提言などを行い、地域社会に貢献できる人材を育成 ○地元の教育機関や地元企業等と連携・協働した教育活動 ○アメリカ合衆国フロリダ州ラーゴ高校との姉妹校提携 ○部活動 ・体育系11部、文化系15部、ボランティア部 ・女子陸上部が全国高等学校駅伝競走大会に35年連続出場 ・全国・四国大会への出場等：女子陸上部、弓道部、水泳部、写真部など
進路状況	大学34人（36%）（内 国公立17人）、短大10人（11%）、専修学校等31人（33%）、就職県内18人（19%）、就職県外１人（1%）、その他１人（1%）
主な出身中学校	１ 鏡野中　２ 野市中　３ 香長中　４ 北陵中　５ 鳶ヶ池中
通学方法	徒歩39人、自転車183人、鉄道47人、バス15人、その他15人
県外募集・寮	R6入学者数０人、寮 定員16人

<区分Ｂ>地域の拠点校（４校）　③須崎総合高等学校

学校名	学科名	R6 入学定員	R6 学級数	R２～６平均 入学者数	R２～６平均 定員充足率	入学者数 R2	入学者数 R3	入学者数 R4	入学者数 R5	入学者数 R6
須崎総合	普通	120	3	71	59.0%	73	81	58	74	68
	工業	120	3	54	45.3%	60	46	47	50	69

<工業科の内訳>

学科名	R6 入学定員	R6 学級数	R２～６平均 入学者数	R２～６平均 定員充足率	入学者数 R2	入学者数 R3	入学者数 R4	入学者数 R5	入学者数 R6
機械系学科（機械専攻）	20	1	18	90.0%	15	18	17	20	20
機械系学科（造船専攻）	20		6	32.0%	7	6	4	6	9
電気情報系学科（電気専攻）	20	1	8	39.0%	11	5	10	3	10
電気情報系学科（電子情報専攻）	20		7	37.0%	11	7	4	5	10
システム工学系学科（機械制御専攻）	20	1	5	24.0%	5	2	3	10	4
システム工学系学科（住環境専攻）	20		10	50.0%	11	8	9	6	16

<カテゴリー別の方向性>
〇地域の拠点校としての教育内容の充実
〇地域等との連携

<カテゴリー別のスクール・ミッション>
〇地域の進学や部活動の拠点として、中高連携や学科間の横断的な取組により教育内容を充実させ、地域をけん引するリーダーとなる人材を育成する

<キーワード>
＃高吾地域拠点　＃防災教育　＃造船　＃ソーラーボート　＃須崎市

<カテゴリー別の取組内容>
◆ **学級規模**
- 〇 学級規模の目安は、１学年４学級以上
- 〇 生徒数が３年連続４学級未満となった場合は、中山間地域等の小規模校として位置付ける
- 〇 産業系専門学科については、区分Ｄに準ずることとし、各学科・専攻の生徒数が３年連続で入学定員の３分の１未満となった場合は、再編等を進める

◆ **魅力化・特色化**
- 〇 市町村や大学、関係機関等との連携の強化
- 〇 文化系・体育系部活動の精選と充実（重点校化）

◆ **再編・学科改編等**
- 〇 産業系専門学科の学科改編

<基本情報>（令和６年５月１日現在）

所在地	須崎市多ノ郷甲4167－3
開設・開校等	平成31年４月　須崎工業高等学校と須崎高等学校の統合校として開校
教育方針等	教育方針：「人を思い　人とつながり　人に役立つ」人材の育成を目指す 教育目標：１ 志をもって勉学に励み、幅広い教養や専門的知識・技能を育みます ２ 寛容と友愛の精神を育みます ３ 未来の社会を担おうという気概と創造力・行動力を育みます
校訓等	校訓：友愛・協働・貢献
特色（学習、部活動等）	〇普通科と工業科（機械系学科、電気情報系学科、システム工学系学科）を設置 〇高吾地域における進学、産業教育、部活動の拠点 〇多様な進路希望実現のため、希望する生徒を対象とした補習や模擬試験等を充実 〇新しい実習設備の導入により、各系学科で充実した専門知識の技術、技能を学習 〇部活動 ・体育系12部、文化系17部 ・全国・四国大会への出場等：カヌー部、ソフトボール部、空手道部、囲碁・将棋部、英語部など
進路状況	大学24人(19.7%)〈内 国公立６人〉、短大６人(4.9%)、専修学校等33人(27.0%)、就職県内36人、就職県外20人(45.9%)、その他３人(2.5%)
主な出身中学校	１ 朝ヶ丘中　２ 須崎中　３ 窪川中　４ 佐川中　５ 葉山中
通学方法	徒歩27人、自転車130人、鉄道133人、バス５人、バイク36人、その他32人
県外募集・寮	R6入学者数０人、寮なし

＜区分Ｂ＞地域の拠点校（４校）　④中村高等学校

学校名	学科名	R6 入学定員	R6 学級数	Ｒ２～６平均 入学者数	Ｒ２～６平均 定員充足率	入学者数 R2	R3	R4	R5	R6
中村	普通	200	5	164	82.2%	171	153	154	167	177

＜基本情報＞（令和６年５月１日現在）

所在地	四万十市中村丸の内24
開設・開校等	明治33年　高知県立第二中学校分校として開校 昭和24年　高知県立中村高等学校として発足
教育方針等	教育方針：旧制中学校以来の「不動不休」の精神を教育の基本とし、中高一貫の６年間の生徒の切磋琢磨をとおして、豊かな心と知性を身に付け、未来を切り拓く人材を育成する。
校訓等	校訓：不動不休の精神
特色 (学習、部活動等)	○併設型中高一貫教育校（県立中村中学校　定員60人） ○ピア・チューター制度などによる積極的な異年齢集団の交流 ○「課題探究」、「なかむら未来学発信場」（総合的な探究の時間の発表会）などを通して、自分や地域の未来について考え、語ることのできる生徒を育成 ○「なかむら自主防災組織ＮＤＳＤ」による防災活動、「なかこう安全隊」による地域安全活動、ボランティア活動、挨拶運動等、地域から信頼される学校を目指した取組を推進 ○部活動 ・体育系12部、文化系15部 ・全国・四国大会への出場等：ソフトテニス部、陸上部、柔道部、美術部、音楽部、ダンス部など
進路状況	大学113人（75.3%）（内 国公立54人）、短大９人（6.0%）、専修学校等21人（14.0%）、就職県内５人（3.3%）、その他２人（1.3%）
主な出身中学校	１ 県立中村中　２ 市立中村中　３ 中村西中　４ 大方中　５ 宿毛中
通学方法	徒歩40人、自転車243人、鉄道111人、バス４人、バイク27人、その他68人
県外募集・寮	県外募集なし、寄宿舎「菁莪寮（せいがりょう）」定員48人

＜カテゴリー別の方向性＞
○地域の拠点校としての教育内容の充実
○地域等との連携

＜カテゴリー別のスクール・ミッション＞
○地域の進学や部活動の拠点として、中高連携や学科間の横断的な取組により教育内容を充実させ、地域をけん引するリーダーとなる人材を育成する

＜キーワード＞
＃幡多地域拠点　＃併設型中高一貫教育　＃部活動　＃四万十市

＜カテゴリー別の取組内容＞
◆ **学級規模**
- ○ 学級規模の目安は、１学年４学級以上
- ○ 生徒数が３年連続４学級未満となった場合は、中山間地域等の小規模校として位置付ける

◆ **魅力化・特色化**
- ○ 市町村や大学、関係機関等との連携の強化
- ○ 文化系・体育系部活動の精選と充実（重点校化）

◆ **再編・学科改編等**
- ○ 併設型中高一貫教育校の配置の維持
（※県立中学校の在り方については、次期計画期間中に検討）

＜区分Ｃ＞中山間地域等の小規模校（13校）　①室戸高等学校

学校名	学科名	R6 入学定員	R6 学級数	Ｒ２～６平均 入学者数	Ｒ２～６平均 定員充足率	入学者数 R2	R3	R4	R5	R6
室戸	総合	80	2	32	39.5%	27	22	35	49	25

＜カテゴリー別の方向性＞
○地域の核となる学校としての地域との連携強化及び特色化
○少人数教育の充実

＜カテゴリー別のスクール･ミッション＞
○地域と協働して地元の資源を生かした特色ある教育活動を展開し、学校の垣根を超えて学びを深化させることにより、地域社会を担う人材を育成する

＜キーワード＞
＃地域の学校　＃総合学科　＃単位制　＃国際交流　＃女子硬式野球
＃ジオパーク　＃室戸市

＜カテゴリー別の取組内容＞
◆ 学級規模
- ○ 最低規模の目安は、＜本校＞１学年１学級20人以上
- ○ 生徒数確保に向けた「努力目標」を設定し、市町村と連携して取り組む
  - ① 入学者数・・・・・・・・・・・・・・・・・＜本校＞41人以上（２学級規模）
  - ② 地元中学校からの進学割合･･･基本50%以上

◆ 魅力化･特色化
- ○ 学校と市町村･地域等で構成される地域コンソーシアムを構築
  - → 地域コンソーシアムにおいて、生徒数確保に向けたアクションプランを協議･策定
  - → アクションプランを、学校と地元市町村とが協働･連携して実行（Ｒ７～Ｒ９）
- ○ 地元の小中学校と連携し、地域と一体となった学校の魅力化･特色化の推進
- ○ 地元中学校からの入学促進
- ○ 地域資源を生かした教育･体験活動の充実
- ○ 遠隔教育の拡充
- ○ 全国からの生徒募集の取組の拡充

◆ 再編･学科改編等
- ○ アクションプランに基づくＲ７～Ｒ９の取組の成果（R10.4入学者数等）を評価･検証
  - → Ｒ11以降の学校の在り方を検討（努力目標の達成の見通しが立たない場合は市町村と協議等）
- ○ 連携型中高一貫教育校の新たな配置の検討
- ○ 総合学科における系列の整理及び系列名の見直し

＜基本情報＞（令和６年５月１日現在）

所在地	室戸市室津221番地
開設･開校等	昭和21年　高知県立室戸中学校同高等女学校創設 昭和23年　高知県立室戸高等学校と改称
教育方針等	教育方針：知･徳･体の調和のとれた「生きる力」を身につけ、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な人材の育成をめざす。 １ 基礎･基本的な学習事項の定着と学力の向上 ２ 基本的生活習慣の確立 ３ 一人ひとりの進路希望達成 ４ 個性や自主性の伸長 ５ 家庭、中学校、地域との連携の強化 ６ 危機管理体制の確立と生徒の安全管理･安全教育の充実
校訓等	校是：真･善･美
特色（学習、部活動等）	○総合学科（３つの系列） ①生活福祉系列、②文理総合系列、③商工業･芸術系列 ○ＥＳＤ（持続可能な開発のための教育）の視点による教育活動 ○ユネスコスクールへの登録に向け、地域とともに歩む学校 ○室戸ユネスコ世界ジオパークの地質遺産、歴史、地理、産業等を教材とし、選択科目「ジオパーク学」も設置 ○オーストラリアのポートリンカーン高校と姉妹校提携 ○室戸市からの支援（入学祝金、通学支援補助金、友好交流事業補助金等） ○部活動 ・体育系６部、文化系６部 ・女子硬式野球
進路状況	大学５人（23%）（内 国公立３人）、短大２人（９%）、専修学校等８人（36%）、就職県内３人（14%）、就職県外３人（14%）
主な出身中学校	１ 室戸中　２ 羽根中　３ 佐喜浜中　４ 吉良川中　５ 潮江中
通学方法	徒歩７人、自転車64人、バス21人、その他14人
県外募集･寮	R6入学者数２人、「いさな寮」定員38人

＜区分Ｃ＞中山間地域等の小規模校（13校）　②城山高等学校

学校名	学科名	R6 入学定員	R6 学級数	Ｒ２～６平均 入学者数	Ｒ２～６平均 定員充足率	入学者数 R2	R3	R4	R5	R6
城山	普通	80	2	26	32.8%	33	29	20	25	24

＜カテゴリー別の方向性＞
○地域の核となる学校としての地域との連携強化及び特色化
○少人数教育の充実

＜カテゴリー別のスクール・ミッション＞
○地域と協働して地元の資源を生かした特色ある教育活動を展開し、学校の垣根を超えて学びを深化させることにより、地域社会を担う人材を育成する

＜キーワード＞
＃地域の学校　＃単位制　＃福祉教育　＃ｅスポーツ　＃香南市

＜カテゴリー別の取組内容＞

◆ **学級規模**
- ○ 最低規模の目安は、＜本校＞１学年１学級20人以上
- ○ 生徒数確保に向けた「努力目標」を設定し、市町村と連携して取り組む
  - ① 入学者数・・・・・・・・・・・・・・・・・＜本校＞41人以上（２学級規模）
  - ② 地元中学校からの進学割合・・・基本50％以上

◆ **魅力化・特色化**
- ○ 学校と市町村・地域等で構成される地域コンソーシアムを構築
  - → 地域コンソーシアムにおいて、生徒数確保に向けたアクションプランを協議・策定
  - → アクションプランを、学校と地元市町村とが協働・連携して実行（Ｒ７～Ｒ９）
- ○ 地元の小中学校と連携し、地域と一体となった学校の魅力化・特色化の推進
- ○ 地元中学校からの入学促進
- ○ 地域資源を生かした教育・体験活動の充実
- ○ 遠隔教育の拡充
- ○ 全国からの生徒募集の取組の拡充

◆ **再編・学科改編等**
- ○ アクションプランに基づくＲ７～Ｒ９の取組の成果（Ｒ10.4入学者数等）を評価・検証
  - → Ｒ11以降の学校の在り方を検討（努力目標の達成の見通しが立たない場合は市町村と協議等）
- ○ 連携型中高一貫教育校の新たな配置の検討
- ○ 普通科改革の検討

＜基本情報＞（令和６年５月１日現在）

所在地	香南市赤岡町1612
開設・開校等	昭和21年　高知県立城山中学校・高等女学校として開校 昭和23年　現在の校名となる
教育方針等	教育方針：学力、自主性、規律、人間尊重に留意した教育活動を展開する。 １ 学力の向上　２ 自主性の育成　３ 規律の遵守　４ 人間尊重の精神の育成
校訓等	校訓：教養ある人たれ
特色（学習、部活動等）	○単位制 ○２年次から４つの型を設置 ①福祉型：介護職員初任者研修修了者の資格取得を目指す ②家庭型：保育・被服・調理系の上級学校や就職を目指す ③商業型：情報系の上級学校や事務系の就職を目指す ④文理型 ：大学・短大等への進学を目指す ○生徒支援体制の充実 ・個々の生徒の自立を目指し学習上の困難を主体的に改善・克服することを目的とした通級による指導（API）科目を全学年の教育課程に設置（希望者は履修可能） ○部活動 ・体育系３部、文化系７部
進路状況	大学２人（９％）、専修学校・各種学校12人（52％）、就職９人（39％）
主な出身中学校	１ 野市中　２ 一宮中、介良中　３ 鏡野中、香長中
通学方法	自転車44人、鉄道・徒歩８人、鉄道・自転車５人、その他10人
県外募集・寮	R6入学者数０人、寮なし

＜区分C＞中山間地域等の小規模校（13校） ③嶺北高等学校

学校名	学科名	R6 入学定員	R6 学級数	R２～６平均 入学者数	R２～６平均 定員充足率	入学者数 R2	R3	R4	R5	R6
嶺北	普通	80	2	35	44.0%	34	32	42	27	41

＜カテゴリー別の方向性＞

○地域の核となる学校としての地域との連携強化及び特色化
○少人数教育の充実

＜カテゴリー別のスクール・ミッション＞

○地域と協働して地元の資源を生かした特色ある教育活動を展開し、学校の垣根を超えて学びを深化させることにより、地域社会を担う人材を育成する

＜キーワード＞

＃地域の学校　＃連携型中高一貫教育　＃カヌー　＃国際交流　＃地域課題探究　＃吉野川　＃本山町

＜カテゴリー別の取組内容＞

◆ **学級規模**
- ○ 最低規模の目安は、＜本校＞１学年１学級20人以上
- ○ 生徒数確保に向けた「努力目標」を設定し、市町村と連携して取り組む
  - ① 入学者数･････････････････＜本校＞41人以上（２学級規模）
  - ② 地元中学校からの進学割合･･･基本50%以上

◆ **魅力化・特色化**
- ○ 学校と市町村・地域等で構成される地域コンソーシアムを構築
  - → 地域コンソーシアムにおいて、生徒数確保に向けたアクションプランを協議・策定
  - → アクションプランを、学校と地元市町村とが協働・連携して実行（Ｒ７～Ｒ９）
- ○ 地元の小中学校と連携し、地域と一体となった学校の魅力化・特色化の推進
- ○ 地元中学校からの入学促進
- ○ 地域資源を生かした教育・体験活動の充実
- ○ 遠隔教育の拡充
- ○ 全国からの生徒募集の取組の拡充

◆ **再編・学科改編等**
- ○ アクションプランに基づくＲ７～Ｒ９の取組の成果（Ｒ10.4入学者数等）を評価・検証
  - → Ｒ11以降の学校の在り方を検討（努力目標の達成の見通しが立たない場合は市町村と協議等）
- ○ 連携型中高一貫教育校の現在の配置の維持
- ○ 普通科改革の検討

＜基本情報＞（令和６年５月１日現在）

所在地	長岡郡本山町本山727番地
開設・開校等	昭和23年　高知農業高等学校本山分校及び森分校設置 昭和28年　高知県立嶺北高等学校として独立
教育方針等	目指す生徒像：「３つの力」（活用応用力・地域課題解決スキル・言語運用能力）と「３つの精神」（主体性の精神・地域創造の精神・多文化協働の精神）を身に付けた生徒
校訓等	目標：中高一貫の６年間を熱く語り、自分と地域の未来を切り拓くことのできる生徒を育てる
特色（学習、部活動等）	○同居型の連携型中高一貫教育校 ・本山町立嶺北中学校、土佐町立土佐町中学校と連携 ○２コース４プログラムを設置 ①実践キャリアコース（農業系プログラム、商業系プログラム） ②進学キャリアコース（文系プログラム、理系プログラム） ○地域からの支援 ・「嶺北高等学校魅力化の会」（嶺北地域４か町村首長、嶺北高等学校長） ・「嶺北高等学校魅力化推進協議会」（地域自治体、関係機関） ・「嶺北高等学校魅力化プロジェクト」 部活動への支援、学習環境整備への支援、新入生の全国募集、公営寮や公営塾の整備などの推進 ○部活動 ・体育系６部、文化系３部、同好会１部
進路状況	大学15人（53%）〈内 国公立３人〉、短大３人（11%）、専修学校等５人（18%）、就職３人（11%）〈内 県内１人〉、その他２人（７%）
主な出身中学校	１ 土佐町中　２ 嶺北中　３ 大川中
通学方法	徒歩24人、自転車62人、バス２人、その他15人
県外募集・寮	R6入学者数９人、「嶺北研修交流学舎」定員32人

<区分C>中山間地域等の小規模校（13校）　④高知追手前高等学校 吾北分校

学校名	学科名	R6 入学定員	R6 学級数	R２～６平均 入学者数	R２～６平均 定員充足率	入学者数 R2	R3	R4	R5	R6
吾北分校	普通	40	1	10	25.0%	10	7	12	11	10

<カテゴリー別の方向性>
〇地域の核となる学校としての地域との連携強化及び特色化
〇少人数教育の充実

<カテゴリー別のスクール･ミッション>
〇地域と協働して地元の資源を生かした特色ある教育活動を展開し、学校の垣根を超えて学びを深化させることにより、地域社会を担う人材を育成する

<キーワード>
＃地域の学校　＃少人数　＃太鼓　＃分校　＃清流　＃いの町

<カテゴリー別の取組内容>
◆ **学級規模**
- 〇 最低規模の目安は、<分校> １学年１学級10人以上
- 〇 生徒数確保に向けた「努力目標」を設定し、市町村と連携して取り組む
  - ① 入学者数･････････････････<分校>11人以上
  - ② 地元中学校からの進学割合･･･基本50%以上

◆ **魅力化･特色化**
- 〇 学校と市町村･地域等で構成される地域コンソーシアムを構築
  - → 地域コンソーシアムにおいて、生徒数確保に向けたアクションプランを協議･策定
  - → アクションプランを、学校と地元市町村とが協働･連携して実行（R７～R９）
- 〇 地元の小中学校と連携し、地域と一体となった学校の魅力化･特色化の推進
- 〇 地元中学校からの入学促進
- 〇 地域資源を生かした教育･体験活動の充実
- 〇 遠隔教育の拡充
- 〇 全国からの生徒募集の取組の拡充

◆ **再編･学科改編等**
- 〇 アクションプランに基づくR７～R９の取組の成果（R10.4入学者数等）を評価･検証
  - → R11以降の学校の在り方を検討（努力目標の達成の見通しが立たない場合は市町村と協議等）
- 〇 連携型中高一貫教育校の新たな配置の検討
- 〇 普通科改革の検討

<基本情報>（令和６年５月１日現在）

所在地	吾川郡いの町上八川甲2075－1
開設･開校等	昭和26年　高知追手前高等学校上八川分校として設置 昭和33年　町村合併に伴い高知県立高知追手前高等学校吾北分校と改称
教育方針等	教育方針： 〇地域･家庭との連携を密にとり、学校行事･体験学習を通して心豊かな人間性を育み、「将来地域社会に貢献できる生徒の育成」を目指す 〇小規模校の特徴を生かし、全教職員が、一人ひとりの生徒を大切に見守り、個々の成長を手厚く支援し、卒業生の進路実現を図る 教育重点目標： １ 人間尊重の精神の育成　２ 学力･体力の向上　３ 自主性･積極性の涵養 ４ 自律ある生活の確立　５ 環境の美化（環境保護の精神を養成）
校訓等	校訓：質実剛健･文武両道
特色（学習、部活動等）	〇２年次から２つのコースを設置 ①教養型：進学に対応した科目を学習 ②生活環境型：普通教科に加えて衣食住を総合的に学習 〇本校や遠隔授業配信センターから配信される遠隔授業等が受講可能 〇いの町からの支援 ･新入生への支度金、通学費補助金等 〇部活動 ･体育系２部、文化系３部
進路状況	専修学校等２人（28.6%）、就職県内５人（71.4%）
主な出身中学校	１ 伊野中　２ 吾北中　３ 本川中、西部中　４ 神谷中、土佐山学舎、行川学園
通学方法	徒歩２人、自転車２人、バス20人、バイク２人、その他６人
県外募集･寮	R6入学者数０人、「吾北寮」定員４人

＜区分Ｃ＞中山間地域等の小規模校（13校）　⑤高岡高等学校

学校名	学科名	R6 入学定員	R6 学級数	Ｒ２～６平均 入学者数	Ｒ２～６平均 定員充足率	入学者数 R2	R3	R4	R5	R6
高岡	普通	80	2	28	35.0%	20	38	29	23	30

＜カテゴリー別の方向性＞

○地域の核となる学校としての地域との連携強化及び特色化
○少人数教育の充実

＜カテゴリー別のスクール･ミッション＞

○地域と協働して地元の資源を生かした特色ある教育活動を展開し、学校の垣根を超えて学びを深化させることにより、地域社会を担う人材を育成する

＜キーワード＞

＃地域の学校　＃単位制　＃軽音楽　＃地域貢献　＃土佐市

＜カテゴリー別の取組内容＞

◆ **学級規模**
- ○ 最低規模の目安は、＜本校＞１学年１学級20人以上
- ○ 生徒数確保に向けた「努力目標」を設定し、市町村と連携して取り組む
  - ① 入学者数･･････････････････＜本校＞41人以上（２学級規模）
  - ② 地元中学校からの進学割合･･･基本50%以上

◆ **魅力化･特色化**
- ○ 学校と市町村･地域等で構成される地域コンソーシアムを構築
  - → 地域コンソーシアムにおいて、生徒数確保に向けたアクションプランを協議･策定
  - → アクションプランを、学校と地元市町村とが協働･連携して実行（Ｒ７～Ｒ９）
- ○ 地元の小中学校と連携し、地域と一体となった学校の魅力化･特色化の推進
- ○ 地元中学校からの入学促進
- ○ 地域資源を生かした教育･体験活動の充実
- ○ 遠隔教育の拡充
- ○ 全国からの生徒募集の取組の拡充

◆ **再編･学科改編等**
- ○ アクションプランに基づくＲ７～Ｒ９の取組の成果（Ｒ10.4入学者数等）を評価･検証
  - → Ｒ11以降の学校の在り方を検討（努力目標の達成の見通しが立たない場合は市町村と協議等）
- ○ 連携型中高一貫教育校の新たな配置の検討
- ○ 普通科改革の検討

＜基本情報＞（令和６年５月１日現在）

所在地	土佐市高岡町甲2200
開設･開校等	昭和21年　高知県立高岡中学校、同高等女学校を設立 昭和23年　高知県立高岡高等学校と改称
教育方針等	教育方針：土佐市で唯一の普通高校として、小規模校の特性を生かして、一人一人の生徒の能力や個性の伸長を図り、生涯にわたって「自己実現できる基礎」を培う。将来、社会人として自立するとともに、社会や地域の発展に貢献できる人材を育成する。 教育重点目標： １ 多様な生徒の理解と支援　２ 学力の向上　３ キャリア教育「轍」の充実 ４ 人権教育の推進　５ 教員の資質･指導力の向上
校訓等	校訓：熱意　創意　誠意
特色（学習、部活動等）	○単位制 ○毎朝のデイリートレーニングと金曜日のウィークリーテストによる学び直し ○遠隔授業配信センターから配信される遠隔授業等が受講可能 ○特別支援コーディネーターを中心に、SC･SSW等の連携による個別支援体制の充実 ○「ふれあい出前非行防止教室」や「清掃ボランティア」など、地域貢献活動の実施 ○部活動 ･体育系５部、文化系６部
進路状況	大学２人（6.5%）、専修学校等14人（45.1%）、就職県内15人（48.4%）
主な出身中学校	１ 高岡中　２ 伊野中　３ 横浜中　４ 朝倉中、春野中　５ 土佐南中
通学方法	徒歩３人、自転車38人、バス12人、その他25人
県外募集･寮	なし

＜区分Ｃ＞中山間地域等の小規模校（13校）　⑥佐川高等学校

学校名	学科名	R6 入学定員	R6 学級数	Ｒ２～６平均 入学者数	Ｒ２～６平均 定員充足率	入学者数 R2	R3	R4	R5	R6
佐川	普通	80	2	34	43.0%	32	36	43	35	26

＜カテゴリー別の方向性＞
○地域の核となる学校としての地域との連携強化及び特色化
○少人数教育の充実

＜カテゴリー別のスクール・ミッション＞
○地域と協働して地元の資源を生かした特色ある教育活動を展開し、学校の垣根を超えて学びを深化させることにより、地域社会を担う人材を育成する

＜キーワード＞
＃地域の学校　＃探究教育　＃バレー　＃仁淀川　＃佐川町

＜カテゴリー別の取組内容＞

◆ **学級規模**
- ○ 最低規模の目安は、＜本校＞１学年１学級20人以上
- ○ 生徒数確保に向けた「努力目標」を設定し、市町村と連携して取り組む
  - ① 入学者数・・・・・・・・・・・・・・・・・＜本校＞41人以上（２学級規模）
  - ② 地元中学校からの進学割合・・・基本50%以上

◆ **魅力化・特色化**
- ○ 学校と市町村・地域等で構成される地域コンソーシアムを構築
  - → 地域コンソーシアムにおいて、生徒数確保に向けたアクションプランを協議・策定
  - → アクションプランを、学校と地元市町村とが協働・連携して実行（Ｒ７～Ｒ９）
- ○ 地元の小中学校と連携し、地域と一体となった学校の魅力化・特色化の推進
- ○ 地元中学校からの入学促進
- ○ 地域資源を生かした教育・体験活動の充実
- ○ 遠隔教育の拡充
- ○ 全国からの生徒募集の取組の拡充

◆ **再編・学科改編等**
- ○ アクションプランに基づくＲ７～Ｒ９の取組の成果（Ｒ10.4入学者数等）を評価・検証
  - → Ｒ11以降の学校の在り方を検討（努力目標の達成の見通しが立たない場合は市町村と協議等）
- ○ 連携型中高一貫教育校の新たな配置の検討
- ○ 普通科改革の検討

＜基本情報＞（令和６年５月１日現在）

所在地	高岡郡佐川町乙1789－５
開設・開校等	大正11年　高知県立佐川高等女学校として開校 昭和23年　新制高知県立佐川高等学校を設置
教育方針等	教育方針：生徒一人ひとりの夢の実現を目指し、個性と人権を尊重しつつ社会人として、「生きる力」を持った健全な人材の育成に努める。 １ 学力向上　２ 基本的な生活習慣の確立 ３ 生きる力の育成　４ キャリア教育の推進
校訓等	校是：いのち輝け
特色 (学習、部活動等)	○「いのち輝け ～さくら咲くプロジェクト～」の実施 ・地域の魅力と課題を知り、地域のために自分たちにできることを考える体験型課題探究学習プログラム ○佐高検定チャレンジ支援制度 ・学校が指定する資格検定の中から、生徒が希望する検定試験の受検費用を支援 ○部活動 ・体育系５部、文化系８部 ・全国・四国大会への出場等：ソフトボール部など ・地域マネジメント部における地域の実態把握や課題解決への取組
進路状況	大学８人（28.6%）、短大１人（3.6%）、専修学校等５人（17.9%）、就職14人（50.0%）〈内 県内12人、県外２人〉
主な出身中学校	佐川中、越知中、仁淀中、池川中、加茂中、日高中、尾川中、朝ケ丘中
通学方法	徒歩18人、自転車24人、鉄道７人、バス11人、バイク３人、保護者送迎33人
県外募集・寮	なし

＜区分Ｃ＞中山間地域等の小規模校（13校）　⑦窪川高等学校

学校名	学科名	R6 入学定員	R6 学級数	Ｒ２～６平均 入学者数	Ｒ２～６平均 定員充足率	入学者数 R2	R3	R4	R5	R6
窪川	普通	80	2	26	32.3%	14	29	37	22	27

＜カテゴリー別の方向性＞
○地域の核となる学校としての地域との連携強化及び特色化
○少人数教育の充実

＜カテゴリー別のスクール･ミッション＞
○地域と協働して地元の資源を生かした特色ある教育活動を展開し、学校の垣根を超えて学びを深化させることにより、地域社会を担う人材を育成する

＜キーワード＞
＃地域の学校　＃地域部活　＃DX　＃起業精神の育成　＃四万十町

＜カテゴリー別の取組内容＞
◆ 学級規模
- ○ 最低規模の目安は、＜本校＞１学年１学級20人以上
- ○ 生徒数確保に向けた｢努力目標｣を設定し、市町村と連携して取り組む
  - ① 入学者数･････････････････＜本校＞41人以上（２学級規模）
  - ② 地元中学校からの進学割合･･･基本50%以上

◆ 魅力化･特色化
- ○ 学校と市町村･地域等で構成される地域コンソーシアムを構築
  - → 地域コンソーシアムにおいて、生徒数確保に向けたアクションプランを協議･策定
  - → アクションプランを、学校と地元市町村とが協働･連携して実行（Ｒ７～Ｒ９）
- ○ 地元の小中学校と連携し、地域と一体となった学校の魅力化･特色化の推進
- ○ 地元中学校からの入学促進
- ○ 地域資源を生かした教育･体験活動の充実
- ○ 遠隔教育の拡充
- ○ 全国からの生徒募集の取組の拡充

◆ 再編･学科改編等
- ○ アクションプランに基づくＲ７～Ｒ９の取組の成果（Ｒ10.4入学者数等）を評価･検証
  - → Ｒ11以降の学校の在り方を検討（努力目標の達成の見通しが立たない場合は市町村と協議等）
- ○ 連携型中高一貫教育校の新たな配置の検討
- ○ 普通科改革の検討

＜基本情報＞（令和６年５月１日現在）

所在地	高岡郡四万十町北琴平町６－１
開設･開校等	昭和17年　高知県立窪川農業学校として開設 昭和23年　新制高校となり、校名を高知県立窪川農業高等学校とする
教育方針等	教育方針：１ 豊かな人間性の育成　２ 学力の向上　３ 進路保障
校訓等	校訓：友愛･誠実･勤勉
特色 (学習、部活動等)	○２年次から２つのコースと５つの系列を設置 ①Ⅰ型（地域リーダー養成コース）→ ２系列（商業系、農業系） ･実習や地域課題研究等、実践的な学習 ②Ⅱ型（進学コース）→ ３系列（理系、文系１、文系２） ･幅広い進学に対応した学習 ○地域との協働 ･地域の協力者とコンソーシアムを形成して取り組む地域課題研究や探究学習、地域部活動、中高連携部活動、総合スポーツ同好会などを実施 ○多くの学校行事を生徒たち主導で企画･運営 ○生徒会新聞等を通じた地域への情報発信 ○部活動 ･体育系８部、文化系５部 ･全国･四国大会への出場等：女子ソフトボール（総合スポーツ同好会）、水泳部、陸上部
進路状況	大学７人（29%）〈内 国公立３人〉、短大１人（４%）、専修学校等４人（17%）、就職県内７人（29%）、就職県外５人（21%）
主な出身中学校	１ 窪川中　２ 佐賀中　３ 大正中、須崎中
通学方法	徒歩13人、自転車13人、鉄道10人、バス12人、バイク６人、その他31人
県外募集･寮	なし

＜区分Ｃ＞中山間地域等の小規模校（13校）　⑧檮原高等学校

学校名	学科名	R6 入学定員	R6 学級数	Ｒ２～６平均 入学者数	Ｒ２～６平均 定員充足率	入学者数 R2	R3	R4	R5	R6
檮原	普通	80	2	42	52.8%	40	40	39	42	50

＜カテゴリー別の方向性＞

○地域の核となる学校としての地域との連携強化及び特色化
○少人数教育の充実

＜カテゴリー別のスクール・ミッション＞

○地域と協働して地元の資源を生かした特色ある教育活動を展開し、学校の垣根を超えて学びを深化させることにより、地域社会を担う人材を育成する

＜キーワード＞

＃地域の学校　＃連携型中高一貫教育　＃男子硬式野球　＃四国カルスト
＃梼原町

＜カテゴリー別の取組内容＞

◆ **学級規模**
- ○ 最低規模の目安は、＜本校＞１学年１学級20人以上
- ○ 生徒数確保に向けた「努力目標」を設定し、市町村と連携して取り組む
  - ① 入学者数・・・・・・・・・・・・・・・・＜本校＞41人以上（２学級規模）
  - ② 地元中学校からの進学割合・・・基本50%以上

◆ **魅力化・特色化**
- ○ 学校と市町村・地域等で構成される地域コンソーシアムを構築
  - → 地域コンソーシアムにおいて、生徒数確保に向けたアクションプランを協議・策定
  - → アクションプランを、学校と地元市町村とが協働・連携して実行（Ｒ７～Ｒ９）
- ○ 地元の小中学校と連携し、地域と一体となった学校の魅力化・特色化の推進
- ○ 地元中学校からの入学促進
- ○ 地域資源を生かした教育・体験活動の充実
- ○ 遠隔教育の拡充
- ○ 全国からの生徒募集の取組の拡充

◆ **再編・学科改編等**
- ○ アクションプランに基づくＲ７～Ｒ９の取組の成果（Ｒ10.4入学者数等）を評価・検証
  - → Ｒ11以降の学校の在り方を検討（努力目標の達成の見通しが立たない場合は市町村と協議等）
- ○ 連携型中高一貫教育校の現在の配置の維持
- ○ 普通科改革の検討

＜基本情報＞（令和６年５月１日現在）

所在地	高岡郡梼原町梼原1262
開設・開校等	昭和９年　梼原村立孝山塾青年学校として開校 昭和24年　高知県立檮原高等学校と改称
教育方針等	教育方針：生徒一人ひとりの夢の実現を目指し、個性を尊重しつつ社会人としての真の学力・生きる力を持った健全な人材の育成に努める。 ○学力の向上　○心身ともに豊かな人間性・社会性の涵養 ○社会や地域に貢献する人材の育成
校訓等	校訓：自律心に徹し、誠を愛せよ 個性の伸長に志し、品格を磨け 真理の探求に志し、社会に貢献する人たれ
特色 （学習、部活動等）	○連携型中高一貫教育校 ・梼原町立梼原中学校、津野町立東津野中学校と連携 ・①学力の向上（中高教員の交流授業、連携教材づくり）、②生徒会や部活動、各学校行事等の活動・交流、③神楽の伝承、アーチェリーの競技力向上等を実践 ○２年次から３つのコースを設置 ①文理コース、②家庭ビジネスコース、③農業コース ○梼原町（行政・町民）一体となった支援・応援 ・バス無償貸与、海外国内留学支援等 ○部活動 ・体育系６部、文化系３部 ・全国・四国大会への出場等：アーチェリー部、梼原ディスカバークラブ（神楽）など ・野球部、バスケットボール部、陸上競技部などが活発に活動
進路状況	大学18人（46.2%）（内 国公立１人）、短大１人（2.6%）、 専修学校等９人（23.1%）、就職県内５人（12.8%）、 就職県外４人（10.3%）（内 公務員２人）
主な出身中学校	１ 梼原中　２ 東津野中　３ 窪川中　４ 城北中、室戸中
通学方法	徒歩52人、自転車41人、バス７人、バイク12人、その他18人
県外募集・寮	R6入学者数17人、「ゆすゆす」寮（梼原町生涯学習交流センター）定員60人

＜区分Ｃ＞中山間地域等の小規模校（13校）　⑨四万十高等学校

学校名	学科名	R6 入学定員	R6 学級数	R２～６平均 入学者数	R２～６平均 定員充足率	入学者数 R2	R3	R4	R5	R6
四万十	普通	80	2	20	25.3%	19	20	25	25	12

＜内訳＞

学科名	R6 入学定員	R6 学級数	R２～６平均 入学者数	R２～６平均 定員充足率	入学者数 R2	R3	R4	R5	R6
普通	40	1	13	31.5%	15	11	19	11	7
普通（自然環境コース）	40	1	8	19.0%	4	9	6	14	5

＜カテゴリー別の方向性＞

○地域の核となる学校としての地域との連携強化及び特色化

○少人数教育の充実

＜カテゴリー別のスクール・ミッション＞

○地域と協働して地元の資源を生かした特色ある教育活動を展開し、学校の垣根を超えて学びを深化させることにより、地域社会を担う人材を育成する

＜キーワード＞

＃地域の学校　＃連携型中高一貫教育　＃自然環境教育　＃ジャズ　＃ドローン　＃四万十川　＃四万十町

＜カテゴリー別の取組内容＞

◆ **学級規模**
- ○ 最低規模の目安は、＜本校＞１学年１学級20人以上
- ○ 生徒数確保に向けた「努力目標」を設定し、市町村と連携して取り組む
  - ① 入学者数・・・・・・・・・・・・・・・・・＜本校＞41人以上（２学級規模）
  - ② 地元中学校からの進学割合・・・基本50％以上

◆ **魅力化・特色化**
- ○ 学校と市町村・地域等で構成される地域コンソーシアムを構築
  - → 地域コンソーシアムにおいて、生徒数確保に向けたアクションプランを協議・策定
  - → アクションプランを、学校と地元市町村とが協働・連携して実行（Ｒ７～Ｒ９）
- ○ 地元の小中学校と連携し、地域と一体となった学校の魅力化・特色化の推進
- ○ 地元中学校からの入学促進
- ○ 地域資源を生かした教育・体験活動の充実
- ○ 遠隔教育の拡充
- ○ 全国からの生徒募集の取組の拡充

◆ **再編・学科改編等**
- ○ アクションプランに基づくＲ７～Ｒ９の取組の成果（Ｒ10.4入学者数等）を評価・検証
  - → Ｒ11以降の学校の在り方を検討（努力目標の達成の見通しが立たない場合は市町村と協議等）
- ○ 連携型中高一貫教育校の現在の配置の維持
- ○ 普通科改革の検討

＜基本情報＞（令和６年５月１日現在）

所在地	高岡郡四万十町大正590－１
開設・開校等	昭和29年　窪川高等学校大正分校として開設 昭和40年　校名を大正高等学校とし、独立校として発足 平成11年　校名を高知県立四万十高等学校と改称
教育方針等	教育方針：教育基本法の精神に則り、社会の変化に主体的に対応できる豊かな心と強い意志、幅広い知識をもった人間の育成を目指すとともに、地域社会の期待に応え信頼される教育を推進する。
校訓等	校訓：真理の探究　勤労の愛好　個性の尊重
特色 (学習、部活動等)	○連携型中高一貫教育校 ・四万十町立大正中学校、四万十町立十川中学校と連携 ・大正・十和地域出身の在学生比率は約53％ ○豊かな自然環境や地域の課題を学ぶ教育活動の実践 ・総合的な探究の時間（四万十探究）での学びを地域イベントの開催に結び付ける取組 ・自然環境コースにおける森学習・川学習・海学習のフィールドワークや農業実習等 ○令和２年度入学者募集から「地域みらい留学」に参画 ・令和６年度現在、県外からの入学者が59人中20人（約34％）、寮生が20人 ○部活動 ・体育系３部、文化系８部 ・全国・四国大会への出場等：音楽部など ・自然環境部は、四万十川の水質調査や人工林の植生調査を継続的に実施 ・ドローン部は、外部講師のもと、学校紹介動画を作成 ・ソフトボール部（男子）は、地域とともに全国大会を目指している
進路状況	大学・短大10人（50％）〈内 国公立大学２人〉、専修学校等５人（25％）、就職県内３人（15％）、その他２人（10％）
主な出身中学校	１ 大正中　２ 十川中　３ 西土佐中　４ 窪川中
通学方法	徒歩27人、自転車8人、鉄道19人、バス４人、車（送迎）１人
県外募集・寮	R6入学者数６人、「木の香寮」定員20人、「もりだば寮」定員６人

＜区分Ｃ＞中山間地域等の小規模校（13校）　⑩大方高等学校

学校名	学科名	R6 入学定員	R6 学級数	Ｒ２～６平均		入　学　者　数				
				入学者数	定員充足率	R2	R3	R4	R5	R6
大方	普通	80	2	32	39.8%	27	35	23	36	38

＜カテゴリー別の方向性＞
○地域の核となる学校としての地域との連携強化及び特色化
○少人数教育の充実

＜カテゴリー別のスクール・ミッション＞
○地域と協働して地元の資源を生かした特色ある教育活動を展開し、学校の垣根を超えて学びを深化させることにより、地域社会を担う人材を育成する

＜キーワード＞
＃地域の学校　＃単位制　＃防災教育　＃探究　＃女子サッカー　＃太平洋
＃黒潮町

＜カテゴリー別の取組内容＞
◆ **学級規模**
- ○ 最低規模の目安は、＜本校＞１学年１学級20人以上
- ○ 生徒数確保に向けた「努力目標」を設定し、市町村と連携して取り組む
  - ① 入学者数・・・・・・・・・・・・・・・・・＜本校＞41人以上（２学級規模）
  - ② 地元中学校からの進学割合・・・基本50%以上

◆ **魅力化・特色化**
- ○ 学校と市町村・地域等で構成される地域コンソーシアムを構築
  - → 地域コンソーシアムにおいて、生徒数確保に向けたアクションプランを協議・策定
  - → アクションプランを、学校と地元市町村とが協働・連携して実行（Ｒ７～Ｒ９）
- ○ 地元の小中学校と連携し、地域と一体となった学校の魅力化・特色化の推進
- ○ 地元中学校からの入学促進
- ○ 地域資源を生かした教育・体験活動の充実
- ○ 遠隔教育の拡充
- ○ 全国からの生徒募集の取組の拡充

◆ **再編・学科改編等**
- ○ アクションプランに基づくＲ７～Ｒ９の取組の成果（Ｒ10.4入学者数等）を評価・検証
  - → Ｒ11以降の学校の在り方を検討（努力目標の達成の見通しが立たない場合は市町村と協議等）
- ○ 連携型中高一貫教育校の新たな配置の検討
- ○ 普通科改革の検討

＜基本情報＞（令和６年５月１日現在）

所在地	幡多郡黒潮町入野5507
開設・開校等	昭和23年　高知県立中村女子高等学校大方分校として設立 昭和24年　高知県立中村高等学校大方分校と改称 昭和40年　高知県立大方商業高等学校として独立 平成17年　高知県立大方高等学校として開校
教育方針等	教育方針： 〇生徒のもっている「意欲を引き出す」生徒指導の推進 〇ユニバーサルデザインの授業展開による学力の定着 〇社会の一員として責任を果たすことができる社会力の育成 〇「夢」や「志」をもたせる指導の充実と目指す進路を実現できる指導の推進 〇故郷を大切に思う生徒の育成に向けた地域との連携
校訓等	校訓：自主　努力　創造
特色（学習、部活動等）	〇単位制 〇３つのコースを設置 ①文理コース、②商業・情報コース、③地域創造コース ・多様な教育課程の編成や、学校外における学修（ボランティア活動、資格取得等）の単位認定 〇防災教育 ・地域創造コースや防災委員会、デジタル防災などの活動 〇地域や大学と連携した探究活動の推進 〇校内にある黒潮町営塾の活用と連携 〇部活動 ・体育系７部、文化系８部 ・女子サッカー部は、(一社)セレッソ大阪スポーツクラブから外部指導者を配置し、地域の女子Jrユースチームと連携して活動
進路状況	大学６人（19.4%）、短大２人（6.5%）、専修学校等12人（38.7%）、就職県内10人（32.3%）、その他１人（3.2%）
主な出身中学校	１ 大方中　２ 市立中村中　３ 中村西中　４ 佐賀中　５ 下田中
通学方法	徒歩８人、自転車32人、自転車・鉄道24人、鉄道７人、自家用車・鉄道６人、自家用車10人、その他６人
県外募集・寮	R6入学者数４人、寄宿舎 定員17人

<区分C>中山間地域等の小規模校（13校）　⑪中村高等学校 西土佐分校

学校名	学科名	R6 入学定員	R6 学級数	R２～６平均 入学者数	R２～６平均 定員充足率	入学者数 R2	R3	R4	R5	R6
西土佐分校	普通	40	1	6	16.0%	6	7	7	8	4

<カテゴリー別の方向性>
○地域の核となる学校としての地域との連携強化及び特色化
○少人数教育の充実

<カテゴリー別のスクール・ミッション>
○地域と協働して地元の資源を生かした特色ある教育活動を展開し、学校の垣根を超えて学びを深化させることにより、地域社会を担う人材を育成する

<キーワード>
＃地域の学校　＃少人数　＃カヌー　＃分校　＃四万十川　＃四万十市

<カテゴリー別の取組内容>
◆ 学級規模
○ 最低規模の目安は、＜分校＞１学年１学級10人以上
○ 生徒数確保に向けた「努力目標」を設定し、市町村と連携して取り組む
　① 入学者数・・・・・・・・・・・・・・・・・＜分校＞11人以上
　② 地元中学校からの進学割合・・・基本50%以上
◆ 魅力化・特色化
○ 学校と市町村・地域等で構成される地域コンソーシアムを構築
　→ 地域コンソーシアムにおいて、生徒数確保に向けたアクションプランを協議・策定
　→ アクションプランを、学校と地元市町村とが協働・連携して実行（Ｒ７～Ｒ９）
○ 地元の小中学校と連携し、地域と一体となった学校の魅力化・特色化の推進
○ 地元中学校からの入学促進
○ 地域資源を生かした教育・体験活動の充実
○ 遠隔教育の拡充
○ 全国からの生徒募集の取組の拡充
◆ 再編・学科改編等
○ アクションプランに基づくＲ７～Ｒ９の取組の成果（Ｒ10.4入学者数等）を評価・検証
　→ Ｒ11以降の学校の在り方を検討（努力目標の達成の見通しが立たない場合は市町村と協議等）
○ 連携型中高一貫教育校の新たな配置の検討
○ 普通科改革の検討

<基本情報>（令和６年５月１日現在）

所在地	四万十市西土佐津野川223
開設・開校等	昭和26年　高知県立中村高等学校津大分校定時制昼間部として設立 昭和33年　高知県立中村高等学校西土佐分校と改称
教育方針等	教育方針：一人ひとりが学校、地域で自分の役割と居場所を感じ、仲間と地域を大切にして夢の実現に全力で取り組める人材を育成する。
校訓等	校訓：不動不休の精神
特色（学習、部活動等）	○「地域とともにある学校づくり」を目標とした教育活動 ・授業では、「発掘・発展にしとさ」地域協働学習 ・生徒会では、地域と協力した清掃活動「ＮＧＫ（西土佐キーパーズ）」 ○小規模校の利点を生かしたきめ細かな指導と手厚い支援 ○部活動 ・体育系１部、文化系２部 ・全国・四国大会への出場等：カヌー部 令和５年度までインターハイ11年連続出場 令和３年度に世界ジュニア選手権出場 ・ラポール部（地域ボランティア隊）は、保育所や小・中学校、福祉施設に訪問
進路状況	大学３人（50%）（内 国公立１人）、専修学校等１人（16.7%）、就職県外２人（33.4%）
主な出身中学校	１ 西土佐中　２ 中村西中 ３ 東中筋中、八束中、小筑紫中、清水中、大方中、広見中（愛媛県鬼北町）
通学方法	徒歩８人、自転車９人、バイク１人、その他１人
県外募集・寮	R6入学者数１人、「青葉寮」定員10人、「津野川若者住宅」定員10人

＜区分Ｃ＞中山間地域等の小規模校（13校）　⑫宿毛高等学校

学校名	学科名	R6 入学定員	R6 学級数	Ｒ２～６平均 入学者数	Ｒ２～６平均 定員充足率	入学者数 R2	R3	R4	R5	R6
宿毛	総合	120	3	64	53.3%	59	56	77	62	66

＜カテゴリー別の方向性＞

○地域の核となる学校としての地域との連携強化及び特色化
○少人数教育の充実

＜カテゴリー別のスクール・ミッション＞

○地域と協働して地元の資源を生かした特色ある教育活動を展開し、学校の垣根を超えて学びを深化させることにより、地域社会を担う人材を育成する

＜キーワード＞

＃地域の学校　＃総合学科　＃単位制　＃レスリング部　＃宿毛市

＜カテゴリー別の取組内容＞

◆ **学級規模**
- ○ 最低規模の目安は、＜本校＞１学年１学級20人以上
- ○ 生徒数確保に向けた「努力目標」を設定し、市町村と連携して取り組む
  - ① 入学者数・・・・・・・・・・・・・・・・・・＜本校＞81人以上（３学級規模）
  - ② 地元中学校からの進学割合・・・基本50％以上

◆ **魅力化・特色化**
- ○ 学校と市町村・地域等で構成される地域コンソーシアムを構築
  - → 地域コンソーシアムにおいて、生徒数確保に向けたアクションプランを協議・策定
  - → アクションプランを、学校と地元市町村とが協働・連携して実行（Ｒ７～Ｒ９）
- ○ 地元の小中学校と連携し、地域と一体となった学校の魅力化・特色化の推進
- ○ 地元中学校からの入学促進
- ○ 地域資源を生かした教育・体験活動の充実
- ○ 遠隔教育の拡充
- ○ 全国からの生徒募集の取組の拡充

◆ **再編・学科改編等**
- ○ アクションプランに基づくＲ７～Ｒ９の取組の成果（Ｒ10.4入学者数等）を評価・検証
  - → Ｒ11以降の学校の在り方を検討（努力目標の達成の見通しが立たない場合は市町村と協議等）
- ○ 連携型中高一貫教育校の新たな配置の検討
- ○ 総合学科における系列の整理及び系列名の見直し

＜基本情報＞（令和６年５月１日現在）

所在地	高知県宿毛市与市明５－82
開設・開校等	昭和19年　高知県立宿毛中学校として開校 昭和21年　高知県立中村高等女学校宿毛分教場として開校 昭和24年　高知県立宿毛高等学校として発足
教育方針等	教育方針：生徒一人ひとりの夢の実現を目指し、個性を尊重しつつ社会人としての真の学力・生きる力を持った健全な人材の育成に努める。 教育重点目標：１ 学力の向上　２ 進路希望の実現　３ 心身ともに健全な人間性の涵養(育成)
校訓等	校訓：誠実　勤勉　進取
特色(学習、部活動等)	○単位制 ○総合学科（５系列） ①人文・自然系列、②教養系列、③保育・福祉系列、④商業系列、⑤芸術・スポーツ系列 ○総合的な探究の時間（自照） ・ＳＤＧｓの視点からの地域課題解決学習への取組 ○部活動 ・体育系12部、文化系10部、同好会１部 ・全国・四国大会への出場等：レスリング部、書道部、陸上競技部、柔道部など
進路状況	大学10人（20.0％）〈内 国公立１人〉、短大４人（8.0％）、専修学校等15人（30.0％）、就職県内11人（22.0％）、就職県外６人（12.0％）、その他４人（8.0％）
主な出身中学校	１ 宿毛中　２ 片島中　３ 大月中　４ 東中　５ 小筑紫中、中村中、中村西中
通学方法	徒歩16人、自転車86人、鉄道17人、バス18人、バイク33人、その他29人
県外募集・寮	なし

<区分C>中山間地域等の小規模校（13校）　⑬清水高等学校

学校名	学科名	R6 入学定員	R6 学級数	R2～6平均 入学者数	R2～6平均 定員充足率	入学者数 R2	入学者数 R3	入学者数 R4	入学者数 R5	入学者数 R6
清水	普通	80	2	35	43.8%	35	27	49	22	42

<カテゴリー別の方向性>
○地域の核となる学校としての地域との連携強化及び特色化
○少人数教育の充実

<カテゴリー別のスクール・ミッション>
○地域と協働して地元の資源を生かした特色ある教育活動を展開し、学校の垣根を超えて学びを深化させることにより、地域社会を担う人材を育成する

<キーワード>
＃地域の学校　＃連携型中高一貫教育　＃新しい学科（未来共創科）
＃ジョン万次郎　＃国際交流　＃土佐清水市

<カテゴリー別の取組内容>
◆ **学級規模**
- ○ 最低規模の目安は、<本校> １学年１学級20人以上
- ○ 生徒数確保に向けた「努力目標」を設定し、市町村と連携して取り組む
  - ① 入学者数・・・・・・・・・・・・・・・・・<本校>41人以上（２学級規模）
  - ② 地元中学校からの進学割合・・・基本50%以上

◆ **魅力化・特色化**
- ○ 学校と市町村・地域等で構成される地域コンソーシアムを構築
  - → 地域コンソーシアムにおいて、生徒数確保に向けたアクションプランを協議・策定
  - → アクションプランを、学校と地元市町村とが協働・連携して実行（R７～R９）
- ○ 地元の小中学校と連携し、地域と一体となった学校の魅力化・特色化の推進
- ○ 地元中学校からの入学促進
- ○ 地域資源を生かした教育・体験活動の充実
- ○ 遠隔教育の拡充
- ○ 全国からの生徒募集の取組の拡充

◆ **再編・学科改編等**
- ○ アクションプランに基づくR７～R９の取組の成果（R10.4入学者数等）を評価・検証
  - → R11以降の学校の在り方を検討（努力目標の達成の見通しが立たない場合は市町村と協議等）
- ○ 連携型中高一貫教育校の現在の配置の維持
- ○ 普通科改革の検討

<基本情報>（令和６年５月１日現在）

所在地	土佐清水市加久見893－１
開設・開校等	昭和22年　高知県立中村中学校・同中村高等女学校清水分教場として開設 昭和24年　高知県立清水高等学校として独立
教育方針等	教育方針：第４期高知県教育振興基本計画に基づき、学校の教育活動を通して、探究力と国際感覚を身につけ、地域や社会に対して積極的に貢献しようとする強い意志と思いやりの心を持った人材を育成する。
校訓等	校訓：民主主義の理念、自由・平等・博愛・寛容
特色（学習、部活動等）	○連携型中高一貫教育校 ・土佐清水市立清水中学校と連携 ○２年次から２つのコースを設置 ①スキル・コース：就職や専門学校、文系大学・短大進学希望生徒を対象 ②スタディ・コース：国公立大学、理数系大学、それに準ずる専門学校進学に対応 ○令和７年度に普通科から未来共創科に学科改編 ○フェアヘイブン高校（アメリカ合衆国マサチューセッツ州）と姉妹校提携 ・国際理解教育の推進、幅広い視野を有した人材の育成 ○地域や大学等と連携した「21世紀のジョン万」の育成 ○部活動 ・体育系10部、文化系７部
進路状況	大学12人（46.2%）〈内 国公立５人〉、短大２人（7.7%）、 専修学校等６人（23.1%）、就職県内２人（7.7%）、 就職県外３人（11.5%）、海外大学進学予定１人（3.8%）
主な出身中学校	１ 清水中　２ 城北中　３ 城西中　４ 一宮中
通学方法	徒歩25人、自転車32人、バス７人、バイク12人、その他35人
県外募集・寮	なし

＜区分Ｄ＞産業系の専門高校（７校）　①高知農業高等学校

学校名	学科名	R6 入学定員	R6 学級数	R２～６平均 入学者数	R２～６平均 定員充足率	入学者数 R2	R3	R4	R5	R6
高知農業	農業	240	6	179	74.5%	188	157	163	178	208

＜内訳＞

学科名	R6 入学定員	R6 学級数	R２～６平均 入学者数	R２～６平均 定員充足率	入学者数 R2	R3	R4	R5	R6
農業総合科	40	1	38	95.0%	35	37	40	38	40
畜産総合科	40	1	30	74.5%	36	24	20	29	40
森林総合科	40	1	19	46.5%	19	17	16	14	27
環境土木科	40	1	22	55.0%	31	17	22	19	21
食品ビジネス科	40	1	34	85.5%	32	30	29	40	40
生活総合科	40	1	36	90.5%	35	32	36	38	40

＜カテゴリー別の方向性＞

○社会の変化や先進的な産業を視野に入れた教育課程の充実

＜カテゴリー別のスクール・ミッション＞

○企業や関係機関との連携を通して、高い専門知識や技能・技術を習得したスペシャリストを養成し、次世代の産業の担い手を育成する

＜キーワード＞

＃農業　＃DX　＃陸上　＃南国市

＜カテゴリー別の取組内容＞

◆ **学級規模**
- ○ 学級規模の目安は、１学年２～６学級
- ○ 各学科・専攻の生徒数が３年連続で入学定員の３分の１未満となった場合は、再編等を進める

◆ **魅力化・特色化**
- ○ 地元企業や小中学校、大学、関係機関等との連携の強化
- ○ 産業界との連携によるキャリア教育の推進
- ○ 学校と地元企業とが協働で産業人材を育成するための会議等の開催

◆ **再編・学科改編等**
- ○ 全ての学校における教育内容の見直し
- ○ 先進的な産業に対応するための基盤となる学科を中心に置く学科改編等の検討・実施
  - → Ｒ７以降、学科改編等に向けて準備
  - → Ｒ９以降、学科改編等を順次実施

＜基本情報＞（令和６年５月１日現在）

所在地	南国市東崎957－１
開設・開校等	明治23年　高知県農学校として開校 昭和23年　新制度による高知県立高知農業高等学校となる
教育方針等	教育方針：「農」を学び、「農」で学び、心豊かな人間性を育むとともに、高い志を持って未来を切り拓くことができる、たくましい郷土の担い手を育成する。 教育重点目標：①学力の向上及び進路保障　②「農」を学び、「農」で学ぶ　③新たな農業を学ぶ　④関係機関や地域との連携　⑤部活動及び農業クラブ等の積極的な取組の達成
校訓等	校訓：誠実・勤労・剛健・協調 高農三訓：「時間厳守　気持ちの良い挨拶　整理整頓」
特色（学習、部活動等）	○農業に関する学科（７科） 農業総合科、畜産総合科、森林総合科、環境土木科、食品ビジネス科、生活総合科 ○２年生から全学科に２つのコースを設け、生徒の多様な進路希望に対応 ○環境制御技術を導入した次世代型温室ハウスが完成、稼働開始 ○地域への農業力還元活動や、「高農ふれあい市」等の地域イベント参加など、学校開放活動に積極的に取り組む ○部活動 ・体育系15部、文化系11部 ・全国大会出場：相撲部、アーチェリー部、陸上競技部、ビームライフル部、新聞部、放送部
進路状況	大学41人（27.1%）〈内 国公立４人〉、短大４人（2.7%）、専修学校等64人（42.4%）、就職県内31人（20.5%）、就職県外８人（5.3%）、その他３人（2.0%）
主な出身中学校	１ 香長中　２ 野市中　３ 北陵中　４ 愛宕中　５ 一宮中、鏡野中
通学方法	徒歩46人、自転車229人、鉄道211人、電車24人、その他24人
県外募集・寮	県外募集なし、寄宿舎「舟入寮」定員92人

＜区分Ｄ＞産業系の専門高校（７校）　②高知東工業高等学校

学校名	学科名	R6 入学定員	R6 学級数	R２～６平均		入　学　者　数				
				入学者数	定員充足率	R2	R3	R4	R5	R6
高知東工業	工業	160	4	93	57.9%	99	90	87	89	98

＜内訳＞

学科名	R6 入学定員	R6 学級数	R２～６平均		入　学　者　数				
			入学者数	定員充足率	R2	R3	R4	R5	R6
機械科	40	1	36	89.5%	40	32	29	39	39
機械生産システム科	40	1	16	39.0%	20	20	13	12	13
電子科	40	1	22	56.0%	20	18	27	18	29
電子機械科	40	1	19	47.0%	19	20	18	20	17

＜カテゴリー別の方向性＞

○社会の変化や先進的な産業を視野に入れた教育課程の充実

＜カテゴリー別のスクール・ミッション＞

○企業や関係機関との連携を通して、高い専門知識や技能・技術を習得したスペシャリストを養成し、次世代の産業の担い手を育成する

＜キーワード＞

＃工業　＃機械　＃電気　＃ものづくり　＃南国市

＜カテゴリー別の取組内容＞

◆ **学級規模**
- ○ 学級規模の目安は、１学年２～６学級
- ○ 各学科・専攻の生徒数が３年連続で入学定員の３分の１未満となった場合は、再編等を進める

◆ **魅力化・特色化**
- ○ 地元企業や小中学校、大学、関係機関等との連携の強化
- ○ 産業界との連携によるキャリア教育の推進
- ○ 学校と地元企業とが協働で産業人材を育成するための会議等の開催

◆ **再編・学科改編等**
- ○ 全ての学校における教育内容の見直し
- ○ 先進的な産業に対応するための基盤となる学科を中心に置く学科改編等の検討・実施
  - → Ｒ７以降、学科改編等に向けて準備
  - → Ｒ９以降、学科改編等を順次実施

＜基本情報＞（令和６年５月１日現在）

所在地	南国市篠原1590番地
開設・開校等	昭和37年　設立
教育方針等	教育方針：日本国憲法及び教育基本法に基づき、平和を希求し、勤労と責任を重んじ、たくましい実践力と創造性に富み、健康で品格のある工業技術者を育成する。 学校教育スローガン：「ものづくりは面白い」「凡事徹底！」
校訓等	教育重点目標：１ 規律　２ 勤勉　３ 健康
特色 (学習、部活動等)	○工業に関する学科（４科） 機械科、機械生産システム科、電子科、電子機械科 ○工業分野の中でも、機械系・電子系に特化した学科編成 ○工作機器・設備を備えた充実した機械工場 ・マシニングセンタ、レーザ加工機、放電加工機、三次元測定器など ○韓国の柳韓工業高等学校と協定締結 ○部活動 ・体育系11部、文化系４部、同好会１部 ・機械工作部、情報技術部等が各種大会や発表会で活躍
進路状況	大学９人（11.4%）〈内 国公立４人〉、 専修学校・職業訓練校等32人（40.5%）、就職県内21人（26.6%）、 就職県外14人（17.7%）、その他３人（3.8%）
主な出身中学校	１ 一宮中　２ 香長中　３ 愛宕中、城東中　４ 鳶ヶ池中
通学方法	徒歩６人、自転車183人、鉄道35人、電車24人、その他10人
県外募集・寮	なし

＜区分Ｄ＞産業系の専門高校（７校）　③高知工業高等学校

学校名	学科名	R6 入学定員	R6 学級数	R２～６平均 入学者数	R２～６平均 定員充足率	入学者数 R2	R3	R4	R5	R6
高知工業	工業	280	7	271	96.7%	250	280	272	274	278

＜内訳＞

学科名	R6 入学定員	R6 学級数	R２～６平均 入学者数	R２～６平均 定員充足率	入学者数 R2	R3	R4	R5	R6
機械科	40	1	39	96.5%	37	40	38	38	40
電気科	40	1	39	97.5%	35	40	40	40	40
情報技術科	40	1	37	93.5%	31	40	40	36	40
工業化学科	40	1	36	90.5%	27	40	34	40	40
土木科	40	1	40	100.0%	40	40	40	40	40
建築科	40	1	40	100.0%	40	40	40	40	40
総合デザイン科	40	1	40	99.0%	40	40	40	40	38

＜カテゴリー別の方向性＞
○社会の変化や先進的な産業を視野に入れた教育課程の充実

＜カテゴリー別のスクール・ミッション＞
○企業や関係機関との連携を通して、高い専門知識や技能・技術を習得したスペシャリストを養成し、次世代の産業の担い手を育成する

＜キーワード＞
＃工業　＃DX　＃部活動　＃工業系大学進学

＜カテゴリー別の取組内容＞
◆ **学級規模**
- ○ 学級規模の目安は、１学年２～６学級
- ○ 各学科・専攻の生徒数が３年連続で入学定員の３分の１未満となった場合は、再編等を進める

◆ **魅力化・特色化**
- ○ 地元企業や小中学校、大学、関係機関等との連携の強化
- ○ 産業界との連携によるキャリア教育の推進
- ○ 学校と地元企業とが協働で産業人材を育成するための会議等の開催

◆ **再編・学科改編等**
- ○ 全ての学校における教育内容の見直し
- ○ 先進的な産業に対応するための基盤となる学科を中心に置く学科改編等の検討・実施
  - → Ｒ７以降、学科改編等に向けて準備
  - → Ｒ９以降、学科改編等を順次実施

＜基本情報＞（令和６年５月１日現在）

所在地	高知市桟橋通２丁目11番６号
開設・開校等	明治45年　私立高知工業学校として創立 大正12年　高知県立高知工業学校と改称 昭和23年　学制改革により高知県立高知工業高等学校設置
教育方針等	基本方針：１ 学問の研究　２ 工業技術の習得　３ 豊かな心身の育成　４ 徳性の涵養 教育重点目標：１ 進路保障の充実　２ 特別活動の充実　３ 学習指導の充実　４ 生活指導の充実　５ 工業教育の活性化　６ 人権教育の充実　７ イノベーションＫＴ探求型学習の充実
校訓等	校訓：磨け学技、鍛えよ体徳、誇れ郷土
特色（学習、部活動等）	○工業に関する学科（７科） 機械科、電気科、情報技術科、工業化学科、土木科、建築科、総合デザイン科 ○工業に関する基本的な全ての分野を設置 ○専門的知識を生かした就職、上級学校への進学など、幅広い進路希望に対応 ○部活動 ・体育系21部、文化系18部 ・全国・四国大会への出場等：土木科(測量部門)、ソフトボール部、空手道部など
進路状況	大学82人（29.8%）〈内 国公立25人〉、短大13人（4.7%）、ポリテクカレッジ６人（2.2%）、専修学校・各種学校33人（12%）、就職県内84人（30.5%）、就職県外55人（20%）、その他２人（0.7%）
主な出身中学校	１ 横浜中　２ 香長中　３ 高岡中　４ 潮江中　５ 城北中
通学方法	徒歩20人、自転車570人、鉄道148人、電車40人、バス９人、その他26人
県外募集・寮	なし

<区分D>産業系の専門高校（７校）　④伊野商業高等学校

学校名	学科名	R6 入学定員	R6 学級数	R２～６平均 入学者数	R２～６平均 定員充足率	入学者数 R2	R3	R4	R5	R6
伊野商業	商業	160	4	114	71.4%	132	112	111	108	108

<カテゴリー別の方向性>
○社会の変化や先進的な産業を視野に入れた教育課程の充実

<カテゴリー別のスクール・ミッション>
○企業や関係機関との連携を通して、高い専門知識や技能・技術を習得したスペシャリストを養成し、次世代の産業の担い手を育成する

<キーワード>
＃商業　＃単位制　＃起業家教育　＃DX　＃野球　＃いの町

<カテゴリー別の取組内容>
◆ **学級規模**
- ○ 学級規模の目安は、１学年２～６学級
- ○ 各学科・専攻の生徒数が３年連続で入学定員の３分の１未満となった場合は、再編等を進める

◆ **魅力化・特色化**
- ○ 地元企業や小中学校、大学、関係機関等との連携の強化
- ○ 産業界との連携によるキャリア教育の推進
- ○ 学校と地元企業とが協働で産業人材を育成するための会議等の開催

◆ **再編・学科改編等**
- ○ 全ての学校における教育内容の見直し
- ○ 先進的な産業に対応するための基盤となる学科を中心に置く学科改編等の検討・実施
  - → Ｒ７以降、学科改編等に向けて準備
  - → Ｒ９以降、学科改編等を順次実施

<基本情報>（令和６年５月１日現在）

所在地	吾川郡いの町332－１
開設・開校等	昭和38年　高知県立伊野商業高等学校として開校
教育方針等	教育方針：産業人としての高い理想と優れた知識・技能を持ち、社会に貢献する有能な人物を育成する。 １ 人権教育、道徳教育を推進し、豊かな心と相互扶助の精神を養う ２ 学力の向上に努め、進路を保障する ３ 心身の健全な発達を促し、あらゆる困難に立ち向かうための生きる力を培う
校訓等	校是：悔ゆるなき今日を励めば
特色 (学習、部活動等)	○単位制 ○商業に関する学科（１科） キャリアビジネス科 ○県内唯一の県立商業高等学校 ○キャリア教育を基盤としたビジネス教育 ・２年次から将来の希望に応じた４つのコース （ビジネス、ツーリズム、ＩＣＴ、デザイン） ・インターンシップ、就業訓練や地域と連携した体験活動への積極的な取組 ○部活動 ・体育系８部、文化系11部
進路状況	大学12人（12.5%）（内 国公立２人）、短大８人（8.3５）、専修学校等35人（36.5%）、就職県内30人（31.2%）、就職県外11人（11.5%）
主な出身中学校	１ 朝倉中　２ 旭中　３ 西部中　４ 伊野中　５ 潮江中
通学方法	徒歩２人、自転車109人、鉄道153人、電車19人、バス３人、その他16人
県外募集・寮	なし

＜区分Ｄ＞産業系の専門高校（７校）　⑤高知海洋高等学校

学校名	学科名	R6 入学定員	R6 学級数	Ｒ２～６平均 入学者数	Ｒ２～６平均 定員充足率	入学者数 R2	R3	R4	R5	R6
高知海洋	水産	80	2	36	45.5%	42	45	36	30	29

＜カテゴリー別の方向性＞
○社会の変化や先進的な産業を視野に入れた教育課程の充実

＜カテゴリー別のスクール・ミッション＞
○企業や関係機関との連携を通して、高い専門知識や技能・技術を習得したスペシャリストを養成し、次世代の産業の担い手を育成する

＜キーワード＞
＃水産　＃土佐海援丸　＃ツナガール　＃マリンスポーツ　＃土佐市

＜カテゴリー別の取組内容＞

◆ **学級規模**
- ○ 学級規模の目安は、１学年２～６学級
- ○ 各学科・専攻の生徒数が３年連続で入学定員の３分の１未満となった場合は、再編等を進める

◆ **魅力化・特色化**
- ○ 地元企業や小中学校、大学、関係機関等との連携の強化
- ○ 産業界との連携によるキャリア教育の推進
- ○ 学校と地元企業とが協働で産業人材を育成するための会議等の開催

◆ **再編・学科改編等**
- ○ 全ての学校における教育内容の見直し
- ○ 先進的な産業に対応するための基盤となる学科を中心に置く学科改編等の検討・実施
  - → Ｒ７以降、学科改編等に向けて準備
  - → Ｒ９以降、学科改編等を順次実施

＜基本情報＞（令和６年５月１日現在）

所在地	土佐市宇佐町福島１番地
開設・開校等	平成８年　高知県立高知海洋高等学校として開校
教育方針等	教育方針：海洋高校ならではの恵まれた施設や環境を活用し、知識、技術習得の教育実践をとおして、豊かな人間性を育て、生徒自らが社会に貢献したいと思うような人材育成を目指す。
校訓等	校訓：天空海闊
特色（学習、部活動等）	○水産に関する学科（１科） 海洋学科 ○県内唯一の水産・海洋系専門高校 ・海技士、小型船舶操縦士、潜水士、海上特殊無線技士等の各種資格取得が可能 ○専攻科（２年間）（高校卒業後に入学可能） 航海専攻科、機関専攻科 ○船舶職員養成課程（専攻科を含む５年間の一貫教育） ・大型船舶運航に必要な海技免状（航海・機関）の国家資格取得を目指す ○実習船「土佐海援丸」をはじめ、航海や機関に関する豊富な施設 ○部活動 ・体育系６部、文化系５部、同好会１部 ・フィッシング部　全国コンテスト優勝
進路状況	大学２人（７%）、専修学校等６人（20%）、就職県内８人（27%）、就職県外８人（27%）、専攻科６人（20%）
主な出身中学校	１ 高岡中　２ 土佐南中　３ 三里中、南海中　４ 春野中
通学方法	徒歩19人、自転車25人、バス13人、バイク30人、その他１人
県外募集・寮	R6入学者数６人、男子寮「くろしお寮」定員48人、女子寮「なぎさ寮」定員15人

<区分Ｄ>産業系の専門高校（７校） ⑥幡多農業高等学校

学校名	学科名	R6 入学定員	R6 学級数	Ｒ２～６平均 入学者数	定員充足率	入学者数 R2	R3	R4	R5	R6
幡多農業	農業	160	4	83	51.8%	86	104	74	70	80

<内訳>

学科名	R6 入学定員	R6 学級数	Ｒ２～６平均 入学者数	定員充足率	入学者数 R2	R3	R4	R5	R6
園芸システム科	40	1	24	59.0%	19	33	26	18	22
アグリサイエンス科	40	1	19	48.0%	28	25	17	15	11
グリーン環境科	40	1	15	36.5%	14	18	8	15	18
生活コーディネート科	40	1	25	63.5%	25	28	23	22	29

<カテゴリー別の方向性>
○社会の変化や先進的な産業を視野に入れた教育課程の充実

<カテゴリー別のスクール・ミッション>
○企業や関係機関との連携を通して、高い専門知識や技能・技術を習得したスペシャリストを養成し、次世代の産業の担い手を育成する

<キーワード>
＃農業 ＃馬術部 ＃畜産 ＃林業 ＃四万十市

<カテゴリー別の取組内容>
◆ 学級規模
- ○ 学級規模の目安は、１学年２～６学級
- ○ 各学科・専攻の生徒数が３年連続で入学定員の３分の１未満となった場合は、再編等を進める

◆ 魅力化・特色化
- ○ 地元企業や小中学校、大学、関係機関等との連携の強化
- ○ 産業界との連携によるキャリア教育の推進
- ○ 学校と地元企業とが協働で産業人材を育成するための会議等の開催

◆ 再編・学科改編等
- ○ 全ての学校における教育内容の見直し
- ○ 先進的な産業に対応するための基盤となる学科を中心に置く学科改編等の検討・実施
  - → Ｒ７以降、学科改編等に向けて準備
  - → Ｒ９以降、学科改編等を順次実施

<基本情報>（令和６年５月１日現在）

項目	内容
所在地	四万十市古津賀3711
開設・開校等	昭和16年 高知県立幡多農林学校として創立 昭和19年 私立幡多実業女子学校を施設と共に合併女子部として併設 昭和23年 学制改革により新制高等学校高知県立幡多農業高等学校発足
教育方針等	教育方針：産業人として崇高な理想と優れた知識・技能を有し、農業の担い手や関連産業従事者を育成するとともに、地域を支える有為な人材を育成する。 （１）農業の教育力を最大限に活用して、心豊かな人間性を育成する。 （２）学力の向上に努め、学科の特色を活かし、生徒の希望進路を実現させる。 （３）キャリア教育の充実を図り、生徒の生きる力を育む。
校訓等	校訓：「至誠」「勤労」「礼節」「親和」
特色 (学習、部活動等)	○農業に関する学科（４科） 園芸システム科、アグリサイエンス科、グリーン環境科、生活コーディネート科 ○特色ある教育課程（３コースの設置） ・希望進路に応じて２年生から選択できる３つのコースを、４学科にそれぞれ設置 ○生徒が輝き躍動する学校づくり ・アグリパークはたのう推進事業やアグリっ子活動支援事業などを柱とした教育活動 ・地域に開かれた学校づくり ・自然とともに歩む環境教育 ○部活動 ・体育系14部、文化系６部 ・全国・四国大会への出場等：馬術部など
進路状況	大学26人（25.2%）〈内 国公立２人〉、短大10人（9.7%）、専修学校等42人（40.8%）、就職県内15人（14.6%）、就職県外10人（9.7%）
主な出身中学校	１ 市立中村中 ２ 大方中 ３ 中村西中 ４ 清水中 ５ 下田中
通学方法	徒歩24人、自転車104人、鉄道29人、バス１人、バイク23人、その他39人
県外募集・寮	R6入学者数０人、寄宿舎「幡翠寮」定員36人

<区分D>産業系の専門高校（７校）　⑦宿毛工業高等学校

学校名	学科名	R6 入学定員	R6 学級数	R２～６平均 入学者数	R２～６平均 定員充足率	入学者数 R2	R3	R4	R5	R6
宿毛工業	工業	160	4	101	63.0%	96	110	108	88	102

<内訳>

学科名	R6 入学定員	R6 学級数	R２～６平均 入学者数	R２～６平均 定員充足率	入学者数 R2	R3	R4	R5	R6
機械科（機械専攻）	20	1	12	60.0%	20	9	16	7	8
機械科（自動車専攻）	20		10	50.0%	7	9	7	13	14
建設科（土木専攻）	20	1	20	100.0%	20	20	21	20	20
建設科（建築専攻）	20		16	82.0%	13	21	15	15	18
電気科	40	1	10	24.5%	10	13	9	6	11
情報技術科	40	1	32	81.0%	26	38	40	27	31

<カテゴリー別の方向性>

○社会の変化や先進的な産業を視野に入れた教育課程の充実

<カテゴリー別のスクール・ミッション>

○企業や関係機関との連携を通して、高い専門知識や技能・技術を習得したスペシャリストを養成し、次世代の産業の担い手を育成する

<キーワード>

＃工業　＃自動車　＃部活動　＃ものづくり　＃宿毛市

<カテゴリー別の取組内容>

◆ **学級規模**
- ○ 学級規模の目安は、１学年２～６学級
- ○ 各学科・専攻の生徒数が３年連続で入学定員の３分の１未満となった場合は、再編等を進める

◆ **魅力化・特色化**
- ○ 地元企業や小中学校、大学、関係機関等との連携の強化
- ○ 産業界との連携によるキャリア教育の推進
- ○ 学校と地元企業とが協働で産業人材を育成するための会議等の開催

◆ **再編・学科改編等**
- ○ 全ての学校における教育内容の見直し
- ○ 先進的な産業に対応するための基盤となる学科を中心に置く学科改編等の検討・実施
  - → Ｒ７以降、学科改編等に向けて準備
  - → Ｒ９以降、学科改編等を順次実施

<基本情報>（令和６年５月１日現在）

所在地	宿毛市平田町戸内2272－２
開設・開校等	昭和29年　高知県立幡多農業高等学校山奈分校として開校 昭和38年　高知県立宿毛農工高等学校認可 昭和44年　高知県立宿毛工業高等学校と改称
教育方針等	教育方針：「人格の涵養を図るとともに、よき社会人としての資質を養い、産業と文化の発展に貢献できる人材の育成」のもと、「次世代の要請に応える人材を育む学校」として、生徒一人ひとりが洗練された感性と豊かな心を身につけ、優れた能力を伸長させ確かな学力を定着することによって、生徒・教職員が目標を立て、自己実現に挑戦し、達成感を感じ、誇りと自信を持てる学校であるとともに、生徒・保護者や地域社会から愛され信頼される学校を目指す。
校訓等	校訓：創意・勤勉・友愛
特色 (学習、部活動等)	○工業に関する学科（４科） 機械科（機械専攻、自動車専攻）、建設科（土木専攻、建築専攻）、電気科、情報技術科 ○進路希望に応じたコース制 ・専門科目選択コース、国公立進学科目選択コース、公務員受験科目選択コース ○部活動 ・体育系12部、文化系10部 ・全国・四国大会への出場等：空手道部、ソフトテニス部、卓球部、陸上部など ・四国地区高校生溶接技術競技大会出場権獲得
進路状況	大学13人（12%）（内 国公立４人）、短大２人（２%）、専修学校等27人（25%）、就職県内38人（35%）、就職県外27人（25%）、その他１人（１%）
主な出身中学校	１ 中村西中　２ 市立中村中　３ 片島中　４ 東中　５ 宿毛中
通学方法	徒歩26人、自転車74人、鉄道30人、バス26人、バイク115人、その他19人
県外募集・寮	県外募集なし、男子専用寄宿舎 定員30人

<区分E>定時制・通信制の学校（12校）　①中芸高等学校［昼間部］

学校名	学科名	R6 入学定員	R6 学級数	R2～6平均 入学者数	R2～6平均 定員充足率	入学者数 R2	R3	R4	R5	R6
中芸	普通（昼間）	40	1	13	32.5%	13	15	15	9	13

<カテゴリー別の方向性>
- ○多様な学びのニーズへの対応
- ○定時制・通信制における新たな学びの在り方の推進

<カテゴリー別のスクール・ミッション>
- ○様々な生活スタイルや学習のニーズを持つ生徒に対応し、主体性や社会性を育成するとともに、生徒一人一人の多様な進路実現を図る

<カテゴリー別の取組内容>

◆ 学級規模
- ○ <昼間部>最低規模の目安は、１学年１学級20人以上
- ○ これまでの入学者数や今後の入学者数の見込みが最低規模の目安を下回る場合は、再編を進める

◆ 魅力化・特色化等
- ○ 通信制の課題提出・添削指導のデジタル化による学びの充実

◆ 再編等
- ○ 通信制の充実に向けた研究や検討
  - ・生徒が自己のペースで学びやすい通信制の協力校の設置の検討
  - ・通信制の拠点校（本校）と協力校との体制・仕組みづくりの研究
  - ・生徒の居場所づくりとしての通学できる通信制の在り方の検討
- ○ 定時制の配置の在り方や再編の検討
  - ・地域性や交通インフラ等を考慮した定時制の配置の在り方の検討
  - ・生徒数が大きく減少している定時制夜間課程の再編の検討
- ○ 県内各地域において生徒が自己に合った学び方を選択することができるよう、定時制・通信制のそれぞれのバランスを考慮した配置の見直し

<基本情報>（令和６年５月１日現在）

所在地	安芸郡田野町1203－４
開設・開校等	昭和23年　田野町外五ヶ町村組合立高知県安芸郡中芸高等学校として設置 昭和25年　高知県立中芸高等学校となる 平成18年　多部制単位制高校に改編
教育方針等	教育重点目標：１　生徒一人ひとりの学力の向上 ２　基本的生活習慣の定着と生徒の自主的活動の推進 ３　生徒や保護者の進路希望の実現 ４　地域や保護者との連携を深め、信頼される学校づくりの推進 ５　生徒理解と教育相談の充実 ６　教育環境の整備
校訓等	校訓：「自主創造」「中正温雅」
特色（学習、部活動等）	○少人数講座によるきめ細かい指導 ○ピア・サポートホーム ・生徒相互が学びあったり助けあったりできる、学年の枠を越えたホームルーム ○スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーを配置し、カウンセリング体制を充実 ○自立支援に向けたＳＳＴやＳＵＴなどの学校設定科目の設置 ○校内に設置された県立山田特別支援学校田野分校との交流 ・生徒同士が互いに認め合い、共生できる学校づくり ○部活動 ・体育系４部、文化系６部 ・全国大会への出場等：卓球部
進路状況	大学２人（16.7%）、専修学校等５人（41.7%）、就職県内４人（33.3%）、就職県外１人（8.3%）
主な出身中学校	１ 清水ケ丘　２ 市立安芸中　３ 奈半利中、安田中
通学方法	自転車６人、鉄道18人、バス３人、その他９人
県外募集・寮	なし

＜区分Ｅ＞定時制・通信制の学校（12校）　②高知北高等学校［昼間部］

学校名	学科名	R6 入学定員	R6 学級数	Ｒ２～６平均 入学者数	Ｒ２～６平均 定員充足率	入学者数 R2	R3	R4	R5	R6
高知北	普通（昼間）	80	2	61	76.3%	71	63	68	50	53

＜カテゴリー別の方向性＞

○多様な学びのニーズへの対応
○定時制・通信制における新たな学びの在り方の推進

＜カテゴリー別のスクール・ミッション＞

○様々な生活スタイルや学習のニーズを持つ生徒に対応し、主体性や社会性を育成するとともに、生徒一人一人の多様な進路実現を図る

＜カテゴリー別の取組内容＞

◆ **学級規模**
- ○ ＜昼間部＞最低規模の目安は、１学年１学級20人以上
- ○ これまでの入学者数や今後の入学者数の見込みが最低規模の目安を下回る場合は、再編を進める

◆ **魅力化・特色化等**
- ○ 通信制の課題提出・添削指導のデジタル化による学びの充実

◆ **再編等**
- ○ 通信制の充実に向けた研究や検討
  - ・生徒が自己のペースで学びやすい通信制の協力校の設置の検討
  - ・通信制の拠点校（本校）と協力校との体制・仕組みづくりの研究
  - ・生徒の居場所づくりとしての通学できる通信制の在り方の検討
- ○ 定時制の配置の在り方や再編の検討
  - ・地域性や交通インフラ等を考慮した定時制の配置の在り方の検討
  - ・生徒数が大きく減少している定時制夜間課程の再編の検討
- ○ 県内各地域において生徒が自己に合った学び方を選択することができるよう、定時制・通信制のそれぞれのバランスを考慮した配置の見直し

＜基本情報＞（令和６年５月１日現在）

所在地	高知市東石立町160番地
開設・開校等	昭和47年　高知県立高知北高等学校として発足（定時制夜間部・通信制） 平成　3年　定時制課程に昼間部普通科を設置
教育方針等	教育方針：「日本一あったかな学校づくり」を目指し、目標に向かって柔軟に学び、チャレンジできる環境づくりと学力向上に努める。 （１）豊かな心を育む教育の推進 （２）学習意欲の向上 （３）進路保障の充実 教育目標：１ 基礎学力の定着と学習意欲の向上　２ 規則正しい生活習慣の確立　３ 教育相談の充実　４ 進路指導の充実　５ 教育環境の充実　６ 人権教育の充実 キャチフレーズ：自分基準で学べる昼間部
校訓等	校訓：自由　真理　友愛　不撓
特色 （学習、部活動等）	○昼間部・夜間部、通信制の生徒が課程を超えて学ぶことができる共通講座 ○社会人とともに学ぶ特別講座 ○個別支援体制の充実 ・スクールカウンセラーや子どものこころ診療医などを配置 ○特別な支援を必要とする生徒への教育の充実 ○特別の教育課程（自立活動）を導入 ○部活動 ・体育系７部、文化系16部 ・全国大会への出場等：バドミントン部、卓球部
進路状況	大学・短大５人（11.9%）、専修学校等17人（40.5%）、就職県内６人（14.3%）、就職県外１人（2.4%）、その他13人（31.0%）
主な出身中学校	１ 一宮中、西部中　２ 潮江中　３ 城西中　４ 城北中
通学方法	徒歩６人、自転車120人、鉄道３人、電車９人、バス４人、バイク６人、その他７人
県外募集・寮	なし

＜区分Ｅ＞定時制･通信制の学校（12校）　③定時制［夜間部］（12校）、通信制（２校）

＜定時制［夜間部］＞（12校）

学校名	学科名	R6 入学定員	R6 学級数	Ｒ２～６平均 入学者数	Ｒ２～６平均 定員充足率	入学者数 R2	R3	R4	R5	R6
室戸	普通	40	1	3	7.0%	1	5	0	3	5
中芸	普通（夜間）	40	1	4	9.5%	4	1	4	6	4
山田	普通	40	1	6	14.5%	2	6	8	4	9
高知東工業	工業	40	1	3	8.5%	4	2	2	2	7
高知工業	工業	160	4	7	4.4%	8	5	8	8	6
高知北	普通（夜間）	40	1	10	25.5%	6	7	9	10	19
高岡	普通	40	1	4	11.0%	7	5	2	5	3
須崎総合	普通	40	1	4	10.0%	3	3	5	5	4
佐川	普通	40	1	4	10.0%	8	2	3	4	3
大方	普通	40	1	3	7.0%	1	3	3	3	4
宿毛	普通	40	1	3	7.5%	3	2	2	4	4
清水	普通	40	1	2	6.0%	1	1	5	1	4
計（県立）		600	15	53	8.9%	48	42	51	55	72

＜通信制＞（２校）

学校名	学科名	生徒数（5月1日現在） R2	R3	R4	R5	R6
高知北	普通	324	301	311	310	297
大方	普通	77	65	61	78	87
計（県立）		401	366	372	388	384

＜カテゴリー別の方向性＞
○多様な学びのニーズへの対応
○定時制･通信制における新たな学びの在り方の推進

＜カテゴリー別のスクール･ミッション＞
○様々な生活スタイルや学習のニーズを持つ生徒に対応し、主体性や社会性を育成するとともに、生徒一人一人の多様な進路実現を図る

＜カテゴリー別の取組内容＞

◆ **学級規模**
- ○ ＜夜間部＞最低規模の目安は、全学年の生徒数20人以上
- ○ これまでの入学者数や今後の入学者数の見込みが最低規模の目安を下回る場合は、再編を進める

◆ **魅力化･特色化等**
- ○ 通信制の課題提出･添削指導のデジタル化による学びの充実

◆ **再編等**
- ○ 通信制の充実に向けた研究や検討
  - ・生徒が自己のペースで学びやすい通信制の協力校の設置の検討
  - ・通信制の拠点校（本校）と協力校との体制･仕組みづくりの研究
  - ・生徒の居場所づくりとしての通学できる通信制の在り方の検討
- ○ 定時制の配置の在り方や再編の検討
  - ・地域性や交通インフラ等を考慮した定時制の配置の在り方の検討
  - ・生徒数が大きく減少している定時制夜間課程の再編の検討
- ○ 県内各地域において生徒が自己に合った学び方を選択することができるよう、定時制･通信制のそれぞれのバランスを考慮した配置の見直し